

科目名	哲学	担当者名	松丸 壽雄
-----	----	------	-------

講義の目標	諸文化の担い手としての人間存在は存在するかぎり、根源的なレベルから実際のレベルまで様々な問題と遭遇し、これと対峙せざるを得ない、その場合に、どのような立場から、どのような方法でこれらの問題に対処するかを、様々な角度から考えることができる基礎力を養うことを目標とする。		
講義概要	実地に現代の諸問題の根源を把握し、これらの諸問題に対処する立場と方法を検討し、解決の可能性をディスカッションを通して思索する。実践的な応用哲学を学習する。みずから問題の根源を見つけだし、みずから考究する態度を身につけるべく、課題が与えられて、それを小グループで討議し、解決の方向を検討する講義である。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	講義中に適宜指示。	
評価方法	最低年2回のレポートとディスカッションへの積極的貢献度により評価。		
受講者に対する要望など	自分で考えようと努力し、ディスカッションへの積極的に参加するつもりのある人。ディスカッションという性質上、人数制限もあり得る。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明。 2. 愛とは何かについての考察。ビデオ鑑賞。 3. 愛についての様々な思想(1) 4. 愛についての様々な思想(2) 5. 愛についての様々な思想(3) 6. グループ分けと小グループによるディスカッション時の諸注意。 7. ディスカッション(小グループ) 8. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 9. 差別についての考察。 10. 障害者と差別。ビデオ鑑賞。 11. ディスカッション(小グループ) 12. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 13. 生と死についての考察。 14. 生と死についての様々な思想(1) 宗教と哲学 15. 生と死についての様々な思想(2) 16. ディスカッション(小グループ) 17. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 18. 脳死と倫理。 19. 生命倫理について。 20. ビデオ鑑賞。 21. ディスカッション(小グループ) 22. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 23. 年間を振り返ってのディスカッション(小グループ) 24. 年間を振り返ってのディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 		

科目名	心理学	担当者名	杉山 憲 司
-----	-----	------	--------

講義の目標	<p>この授業では、性格、発達、知能、学習、動機、社会心理学の諸領域から、なるべく広範囲なテーマを選び、心理学の問題の捉え方、研究方法を紹介する。心理学のキー概念や諸理論を学びながら、例えば、「自己とは何か」「やりたいことが見つからないとか、無力感に落ち込んでいる学生」などの現代の学校の諸問題、「ストレスと精神的健康」「高齢者と若者の考え方（認知）のズレ」などの日常的な諸課題を検討して、対処法へとつなげる講義をする予定である。</p> <p>心理学から見た、多様な科学的人間性のモデルを理解することが、講義の最終的な目標である。</p>
講義概要	<p>心理学の研究内容は、道徳性や性格など、日常的で身近な現象が多い。従って、学生は取り上げる現象に対して、既に、一定の意見を持っていることが多い。それに対して、科学的な心理学の研究成果を講義することになる。また、心理学は自分自身が研究者であり、且つ、研究対象であるという特徴がある。従って、自己理解は重要なテーマである。</p> <p>心理学の領域を大きく分けると、性格や知性などのように、一人一人の個性・個人差の理解と、人間という種に共通する、学習・知覚・動機づけなどの一般法則の理解に分けられ、両者の関係や日常生活との関わりについて講義する予定である。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <p>青柳肇・滝本孝雄・杉山憲司・矢澤圭介（編著）1989「こころのサイエンス」福村出版 ¥1,900、青柳肇・滝本孝雄・杉山憲司・矢澤圭介（編著）1989「トピックスこころのサイエンス」福村出版 ¥1,900</p>
	<p>参考文献</p> <p>教科書の各章末に参考文献が示されている。その他は授業中に、随時、指示する。</p>
評価方法	<p>前後期2回の試験で評価する（追試は教務課を通すこと）。リーディング・レポートの実施については授業の始めに相談する。</p>
受講者に対する要望など	<p>この授業を自分自身を知り、見つめ直すチャンスとして利用することを提案したい。授業を聞く際、自分の専攻（将来の職業）や、現代の諸問題との関連を考えながら聴講することを希望する。</p>

1. 心理学への導入：心理学の体系について。心理学の研究対象と方法。心理学と他の学問との比較。人間に共通な一般法則と一人一人の個性や個人差を理解することの意味。
 2. 1章 パーソナリティ：パーソナリティの緒理論は人間性のモデルである。1)精神力動的モデルとロールシャッハ検査。
 3. 2)行動主義モデルとMPI。3)認知的モデルと自己意識。4)パーソナリティの特性論とビッグ5。
 4. 5)人間学的モデルとクライアント中心療法、6)標準心理検査、7)パーソナリティの形成・発達と病理
 5. 2章 知能と創造性：あなたの能力観は？ 知能検査で測られているのは何か？ 新たな能力観を求めて。1)知能研究の源、2)新しい知能観（能力か動機づけか）
 6. 創造性：知能検査で測られていないもう一つの能力としての創造性、1)Guilfordの知能構造モデルと拡散的思考 2)創造性の育成と活性化
 7. EQとは何を指しているか、1)適性という概念、2)対人関係に必要な社会的スキル。
 8. 3章 生涯発達：高齢者も発達する、生涯発達視点から現在を捉える。1)研究の源と発達観の変遷、2)研究法：縦断的研究、親や教師の発達観とビッグマリオン効果
 9. 初期発達 1)乳児の気質の型とアタッチメント、2)コンピテンスと自己原因性の獲得
 10. 社会性の発達：1)道徳性と向社会性の発達段階、2)仲間関係のルールとスキル、3)青年期の自己意識
 11. シルバーエイジと生きがい：1)アイデンティティの確立と自分らしさ、2)喪失の時期としての高齢期、統制感・自己効力感の重要性
 12. 前期のまとめ：一人一人の個性・個人差を理解することの意味・大切さ、1)心理学研究の2つの目標
 13. 4章 行動：行動の視点から人間を見る、行動の獲得・形成としての学習。1)学習とは、自発的に学ぶことと他者に教えることの違い
 14. 学習の基礎過程、1)行動の種類と発達・進化、2)学習の基本型（1）レスポナント条件づけ、しつけ、情緒の統制、他律から自律へ
 15. 3)学習の基本型(2)オペラント条件づけと強化随伴性（の認知） 行動結果の持つ意味、4)観察学習とモデリング、模倣の役割と意義、
 16. 社会的行動：社会心理学の課題と研究方法、1)攻撃と愛他（利他）行動のバランスと育成、2)同調行動と服従、実験室のアイヒマン
 17. 3)リーダーシップ行動、変革期のリーダーには何が求められるか、4)集合行動とマスコミュニケーション
 18. 5章 認知：認知とは対象の意味づけのこと、客観的状況と主観的現実、1)感覚と知覚、2)感覚受容器、絶対閾、錯視、恒常性
 19. 3)認知のプロセス、原因帰属の構造と特徴、4)課題達成行動の原因帰属による理解
 20. 5)人間の記憶の情報処理モデル、1)情報処理モデルの例、トップダウンとボトムアップ、2)短期記憶・長期記憶、意味記憶・エピソード記憶
 21. 6章 動機づけと情緒：学習動機を中心とした動機づけの理解、1)さまざまな動機、食行動と摂食障害、ホメオステシス
 22. 2)内発的動機づけ、自発的な学び、知的好奇心、自己決定と最適不適合とズレ理論
 23. 3)対人社会動機、愛着、共感性と愛他動機、4)動機の矛盾、コンフリクト、フラストレーション
 24. 後期のまとめ：行動の一般法則を理解することの意義、1)心理学から見た人間とは、2)現代の問題にどれだけ答えられたか、3)残された問題
- 以上

科目名	心理学	担当者名	三本 茂
-----	-----	------	------

講義の目標	- 人間行動を理解するために - 心理学は、人間の行動における法則性を明らかにしようとする科学である。本年度の講義は、行動を個人的要因と社会的要因の二つの面に関係付けて考察する。		
講義概要	<p>行動の個人的要因として、パーソナリティ（性格、知能、集団的パーソナリティ）や適応のメカニズムなどを取り上げる。</p> <p>社会的要因については、集団の特性と機能、コミュニケーション、リーダーシップ、社会的態度、文化と社会現象等を扱う。</p>		
使用教材	テキスト	刊行されているものから、講義内容とほぼ一致するものを各自用意すること。	
	参考文献	講義の際にその都度指示する。	
評価方法	前期に提出するレポートと年度末の筆記試験による。この他に、随時レポート等の提出を求めることがある。		
受講者に対する要望など	授業中の飲食、途中での退席は認めない。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 性格とパーソナリティ 2. 性格の理論（1） 3. 性格の理論（2） 4. パーソナリティの形成 5. 集団的パーソナリティ 6. パーソナリティの診断（1） 7. パーソナリティの診断（2） 8. 適応のメカニズム 9. 知能の構造論 10. 知能検査 11. 知能の分布とその特性 12. 人間の集団の特性 13. 集団の機能（1） 14. 集団の機能（2） 15. リーダーシップ 16. 集団内のコミュニケーション 17. 社会的態度（形成と変容） 18. 社会と文化（1） 19. 社会と文化（2） 20. 社会現象（マス・コミュニケーション、流行） 21. 同 上 22. 社会現象（流言、パニック） 23. 同 上 24. 同 上 		

科 目 名	倫 理 学	担当者名	市 川 達 人
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>前半は倫理に関する理論的な理解を目的として、倫理学上の基礎概念について説明する。後半は、今日の実践倫理の主要な関心となっている環境倫理や生命倫理について考える。時代をみずえる方法を倫理的視点から確立することが目標である。</p>		
講 義 概 要	<p>倫理とは善き生を目指しての共同の努力である。善き生とは何かを扱うのが価値の問題である。共同の努力を導くのが規範の存在である。講義の前半は、価値と規範を軸として倫理に関する原理的な理解をめざす。私たちが論理的な判断を下すとき、そこにいかなる思考のメカニズム、あるいは論理が働いているかを考えるということである。後半では、「環境倫理」と「生命倫理」を取り上げ、伝統的な倫理観の揺らぎを通して、文明の転換の意味について考えてみたい。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	なし	
	参 考 文 献	講義中に指示	
評 価 方 法	<p>学年末の試験によって評価。場合によっては夏休みにレポートを要求することもある。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	なし		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一年間の予定。倫理学の対象と課題。 2. 倫理の概念 3. 規範としての倫理（1）動機 - 行為 - 結果の連関と倫理的判断 4. 規範としての倫理（2）法の問題 5. 規範としての倫理（3）習俗の問題 6. 価値としての倫理（1）価値と欲求構造 7. 価値としての倫理（2）価値と事実 8. 価値としての倫理（3）人格と人間性の価値 9. 倫理的問題状況と倫理学の歴史（1） 10. 倫理的問題状況と倫理学の歴史（2） 11. 功利主義 12. 自由主義 13. 地球、自然、生命の時代 14. 「善き生」の探求と「生命と環境」危機。 15. 生命倫理の前線（1）医療倫理から生命倫理へ 16. 生命倫理の前線（2）中絶、生殖医療の問題 17. 生命倫理の前線（3）安楽死問題 18. 生命倫理の前線（4）臓器移植の問題 19. 健康と環境 20. 土地倫理とディープ・エコロジー 21. 動物の権利から樹木の権利へ 22. マルサス主義と環境的公正の倫理 23. 風土の理論と環境倫理 24. まとめ
----------------------------	--

科 目 名	国 語 学	担当者名	桂 千佳子
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	コトバについての知見を学んだり、深く考えたりすることで、思考を柔軟にする。また、考えたことを文にしていく作業を通じて、新たな自分を見出せるようにする。		
講 義 概 要	<p>当たり前だと思っていることが本当に当たり前なのか。良く知っているはずの日本語について、本当にわかっているのか。コトバの様々な側面について、これまでの知見を学びながら、できるだけ身近な例で実感していく。</p> <p>前期は、言語全般について、後期は、日本語の特徴について、学ぶ。</p> <p>いずれも、自分自身はどう思っているのか、または、どのように使っているのかということをも自問自答しながら考え、コトバをめぐる問題意識が深まるようにしていく。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	なし	
	参 考 文 献	各テーマごとに提示。	
評 価 方 法	前期のレポート（作文）と年度末のテストの総合評価。また、出席が足りないときは、評価をワンランク下げる。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	講義を聞いただけですぐにわかるということばかりを期待しないこと。とにかくきちんとノートを取り、じっくりと時間をかけて、自分で考えたり、勉強したりしながら、理解していくという姿勢を望みたい。質問は歓迎。		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 本講義の方針について 「国語」と「日本語」</p> <p>2. コトバへの想い - 言霊の伝統</p> <p>3. 自分のコトバを見つめる - 「母語」と「母国語」</p> <p>4. コトバが話せるのは本能か</p> <p>5. コトバはなぜ通じるのか - 現象と認知と言語表現と</p> <p>6. コトバはなぜ通じるのか - ソシユールの言語理論その</p> <p>7. コトバはなぜ通じるのか - ソシユールの言語理論その</p> <p>8. コトバはなぜ通じるのか - 表現するということ</p> <p>9. コトバと取り組む - 実作(作文を書いて提出する)</p> <p>10. コトバと取り組む - 作文返却と講評</p> <p>11. 日本人の世界観とコトバ</p> <p>12. 以心伝心の文化</p> <p>13. 頭の中の文法</p> <p>14. コトバの構造と文法観</p> <p>15. 文とは何か - コトとムード コトの分類</p> <p>16. 文とは何か - コトとムード 文末の表現</p> <p>17. 文とは何か - 「桜が咲く」は文か</p> <p>18. 日本語の文の階層構造 - 南不二男による4つの分類</p> <p>19. 日本語の文の階層構造 - 文の構造のまとめ</p> <p>20. 日本語の「時」の表現 - テンス 絶対テンス</p> <p>21. 日本語の「時」の表現 - テンス 相対テンス</p> <p>22. 日本語の「時」の表現 - アスペクト 静態と動態</p> <p>23. 日本語の「時」の表現 - アスペクト 動詞分類とアスペクト</p> <p>24. まとめと質疑応答、テストについて</p>
----------------------------	---

科目名	国語学	担当者名	小島幸枝
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>世界の言語を使用人口の割合からみると、ドイツ語に並んで第6位に位置づけられる日本語を、日本人自身は、学校教育を通して体系的には学んでいないのではないだろうか。国際社会にあって日本人の海外進出が日常的になっている現今、単に日本で生れ成長して日本語で用が足せる程度では日本語を修得しているとはいえない。</p> <p>本講では日本民族の地理的環境をふまえた重層文化に根差す日本語の、基本知識の修得を目標とする。</p>		
講義概要	<p>国語学とはどのような内容をもつ学問なのか、国語学の分野を、音声音韻・文字・文法・語彙・文体の領域に分けて講義する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>国語学研究法（武蔵野書院）</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・岩波講座日本語（岩波書店） ・講座日本語学（明治書院） ・橋本進吉：国語学概論（岩波書店） ・金田一春彦：日本語（岩波新書） ・築島裕：国語学（東大出版会） ・国語学会編：国語学大辞典（東京堂） ・佐藤喜代治：国語学研究事典（明治書院） 	
評価方法	<p>原則として前期はテスト、後期はレポートとする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>日本語教師をみざす学生は受講することが望ましい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の特徴 2. 国語学とはどのような学問か。その周辺領域の学問について 3. 国語の音韻 - 音声と音韻 4. 音韻史 - 古代語と現代語のちがい 5. アクセント 6. 文字、表記 - 漢字、国字 7. かな - 万葉仮名、カタカナ、ひらがな、反切 8. かなづかい - 定家仮名遣、契沖仮名遣 9. ローマ字 - ボルトガル式ローマ字、ヘボン式ローマ字、日本式ローマ字 10. 語彙 - 語彙と語彙量 11. 語形、語義 12. 位相、語彙史への試み 13. 辞書 14. 文法 - 単語と品詞分類 15. 自立語 - 活用する自立語、活用しない自立語 16. 付属語 - 活用する付属語（助動詞） 17. 付属語 - 活用しない付属語（助詞） 18. 文の構造と文の種類 19. 文法史 20. 敬語 - その分類、運用 21. 文体 - 文章と文体 22. 方言 - 方言と方言研究史、言語地理学 23. 日本語系統論 24. (予備)
----------------------------	--

科 目 名	国語表現	担当者名	新 里 博 樹
-------	------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>人間が、成長の過程の中で自然に身につけてゆく話し言葉とは異なり、書き言葉は、意識的な学習によって後天的に身につけるものである。すなわち、訓練が必要であるということなのだが、この講義では、こうした訓練の方法を学ぶとともに、実際にそれを体験することで、文章技術の向上を目的とする。思考は記述によって定着するものであることを前提に、「書く」という行為を通して、「考える」もしくは「感じる」ことを一層深化させてもらいたい。</p>		
講 義 概 要	<p>その都度、提示される課題に従って、実際に文章を書いてもらう。課題は、(1)表記規則に関するもの(2)訓練法に関するもの(3)訓練の成果を確かめるためのものなど多様であるが、長くて800字程度のもを毎回のように書いてもらうことになる。授業時間内という制約があるので、短いものが中心となるが、長いものなどは自由課題として夏休みにとりくんでもらいたい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	なし	
	参考文献	その都度提示する。	
評 価 方 法	<p>年間を通して提出された課題によって評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>400字詰、B5、原稿用紙、ならびに、手持ちの国語辞典を必携されたい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 自己紹介文(800字) 3. 転記演習(原稿用紙の使い方) 4. 百字文演習(百字ちょうどの文章を作り、それを起として、承転結を同じく、百字文でつづける。) 5. 文章構成演習(論理展開や表現効果などを考えて、いくつかのパラグラフを並べかえる練習) 6. 随想文演習(それまでの演習をもとに、自由に随想文を作成する。800字) 7. 要約演習(二百字文を作成し、それを内容が変わらないように、100字、50字、20字、10字程度と字数を減らしていく練習) 8. 要約演習(要約演習に基づいて、どのような要素が減じられたかを確認し、逆に、400字にふくらませてみる練習) 9. 漢字・熟語演習(漢字・熟語の知識を増やすための練習) 10. 論説文演習(800字) 11. 写生文演習(自由) 12. 前期まとめ(提出物返却) 13. 後期ガイダンス 14. 報告文演習(自由) 15. 手紙文演習(手紙文の基礎知識を学ぶ) 16. 手紙文演習(極めて丁寧な書簡を作成する。) 17. 敬語演習(敬語規則を学ぶ) 18. 宣伝文演習(惹句を作成する練習) 19. 短歌鑑賞文演習(名歌の鑑賞文を作成する) 20. 短歌実作演習(短歌5首を作成する。) 21. 歌会(短歌を相互批評しあう) 22. 鑑賞批評文演習(歌会において口頭でおこなった批評を文章化する) 23. スピーチ演習(スピーチの原稿を作成する) 24. 後期のまとめ(提出物返却)
----------------------------	--

科 目 名	国 語 表 現	担当者名	飯 島 一 彦
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」「考える」などの分野があるが、その中でも、現在の日本の教育課程ではほとんど省みられることのない、日本語を「話す」「聞く」ことを中心に、「考える」にまで至る、表現の基礎的なトレーニングを行う。表現手段を獲得できなければ、十分な表現をなしえることはできず、従って他者とのコミュニケーションを完成させることも期待できない。この授業は、日本語によるコミュニケーションを、口頭表現を中心に、より完全に近づけることが目標となる。</p>		
講 義 概 要	<p>基礎的な概念は講義するが、それをもとにした実践、つまり学生諸君の毎時間の表現の、実際のトレーニングが主体となる。毎週出される課題に一週間とりくんで、次の週の授業時にその結果をもとに実践する、といった形式が多くなる。従って、トレーニングは課題を前提になされるから、課題にとりくまなかったものは受講しても無意味である。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	特になし	
	参 考 文 献	特になし	
評 価 方 法	<p>毎回のトレーニングに対するとりくみの深さ、その成果、夏期・冬期休業中に課するレポート他の課題の提出、後期最後に行われる発表の成果、等々平常点の成績が中心となる。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>膨大な課題が出されるので、覚悟して受講すること。欠席すると表現の訓練の連続性が損なわれるので、欠席しないこと。</p>		

年
間
授
業
計
画

1. 授業ガイダンス。
2. 講義：国語とは、表現とは、コミュニケーションのサイクル。
3.)
4.)
5.)
6.)
7.) 諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
8.)
9.)
10.)
11.)
12. 夏休み課題ガイダンス。
13. 夏休み課題提出。後期ガイダンス。
14.)
15.)
16.)
17.)
18.) 諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
19.)
20.)
21.)
22.)
23.)
24. 冬休み課題提出。年間のまとめ。

科目名	国語表現	担当者名	小島幸枝
-----	------	------	------

講義の目標	<p>過去の人間の考え方に共鳴したり、未来の人間に語りかけられるのはことばの力である。しかしことばは、ただ通じればよいというものでもない。人の心をうつ美しいことば、的確な表現、それは確かに才能にもよるがたゆまぬ努力と訓練によってある程度習熟できるものである。本講は、社会人予備軍としての大学生の日本語力を培うために、社会の変化に関心をもち情報の収集および判断力を養うこと、実用文を短時間で書きあげる練習、敬語の使い方、手紙の書き方など、国語の運用面について講述する。</p>		
講義概要	<p>前期は音声言語表現を中心とし、一分間スピーチの演習、朗読、敬語の使い方など、後期は文字言語表現を中心とし、実用文の実作、相互の添削、手紙のかき方などを学ぶ。評価は平常点をもってする。すなわち課題として社説の要約、800字の作文、読書報告文を提出する。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・都度、紹介する。 	
評価方法	<p>提出物による平均点、および出席点。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業中に作業することがありますので、無断で2週連続して欠席した場合は受講資格がなくなるとお考えください。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 表現者（送り手）と理解者（受け手）のことばにおけるメカニズムを概説 2. 音声言語について、文字言語との差異および特徴の認識 3. 日本語の基礎知識 - 日本語の音韻 4. 日本語の基礎知識 - アクセントの特徴 5. 美しい言葉の条件 - 正確さと品位をどのように獲得するか 6. スピーチ（演習） - 互いのスピーチをきいて評価、および自己評価をする 7. 反省とまとめ（ディベートの予告） 8. ディベート（ビデオ鑑賞） 9. 反省とまとめ 10. 敬語について - 日本語の敬語の特徴と歴史（上代 ~ 中世） 11. 敬語について - 日本語の敬語の特徴と歴史（中世末~現代） 12. 漢字テスト 13. 文と文章 14. 文の構造 15. 文章の構造 16. 文章の種類 17. 文字言語 - 文章を書く手順、材料の収集法 18. 主題と題材 19. 材料を集める - 説明文、報告文を書く 20. 材料を並べる - アウトラインを作る（効率よく文章を書くために） 21. 文献、資料を用いて文章を補強する 22. 交換、批評しあう 23. 推敲のポイントを学ぶ - まとめ 24.（予備） <p>備考 前期は実作を習慣づけるために、宿題形式で 社説要約（週1作） 読書報告（月1本） 作文（週1作）を課すが、後期は実作の習慣をつけるために作文は授業中に完成させる。 従って の課題はない。</p>
----------------------------	--

科 目 名	国語表現	担当者名	肥田野 昌之
-------	------	------	--------

講義の目標	日本語への関心を深め、日本語による表現を豊かにしようとするものである。また常用漢字の練習や日本語・日本文学の基本的な知識などの学習を通して、大学生としての教養も深めたいと思う。		
講義概要	論理的な文章表現の習得を目的とし、文章の構成・段落の問題、表記法、原稿用紙の使い方などの基礎的事項についての講義と実習を行い、文章による効果的な伝達の技能を養うようにしたい。 また、文字の問題・仮名づかいなど日本語に関する知識や教養としての日本文学に関連する基本的知識についても言及したい。		
使用教材	テキスト	特に使用せず、その都度プリント配布。	
	参考文献	特になし。	
評価方法	授業への出席と実作および年度末試験によって決定する。		
受講者に対する要望など	30%程度の学生は単位がとれないものと思われます。遅刻・欠席・私語・居眠りの多い学生、学習意欲の乏しい学生は登録しないで下さい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国語表現についての意義と一年間の講義概要を説明する。 2. 現代社会における文章の機能についての考察とともに文章上達法についても考える。 3. 「文は人なり」について考えるとともに文章と文体についても言及する。 4. 文章表現のプロセスとして、文章の目的・主題の選定・主題の限定などについて説明する。 5. 文章表現のプロセスとして、材料の意義・材料の源泉などについて説明する。 6. 文章表現のプロセスとして、材料の順序と構成・アウトラインについて説明する。 7. 豊かな内容とは - 物の見方や読書などについて考える。 8. 国語表記の問題 - 段落の分け方や送りかななどについても言及する。 9. 原稿用紙の使い方や校正などについても説明する。 10. 作文を書く(添削と採点) 11. 作品を返還して、感想や注意事項を述べる。誤字の問題、常体・敬体の混在など。 12. 学生が黒板に出て、漢字かなつけ・漢字書き取りを行う。 13. 教養として能・狂言の入門 - 熊野・附子など - 14. 教養としての歌舞伎入門 - 勸進帳・与話情浮名横櫛など - 15. 文字について - 特に「漢字御廃止之儀」から常用漢字までを概説する。 16. 仮名づかいについて - 仮名づかいの歴史、特に歴史かなづかいと現代かなづかいに力点を置いて説明する。 17. 標準語と方言について説明し、女房詞や忌詞などについてもふれる。 18. 文章のさまざま - 実用性の濃い文章と芸術性の濃い文章など - 19. 手紙の書き方 - 手紙の形式を中心にして説明する。 20. 課題作文を書く(添削と採点) 21. 作品を返還し、感想や注意事項を述べる。 22. まとめとしてプリントを二枚を配布し、年度末試験について傾向と対策を説明する。 23. 学生が黒板にでて、四字句の完成などを行う。 24. ことばと社会について - ことばの乱れや敬語法について考える。 		

科 目 名	日 本 文 学	担当者名	飯 島 一 彦
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>中世から近世にかけて爆発的に産み出された『お伽草子』群は、日本文学史上においては初の庶民文藝と言ってよいが、庶民文藝であるからこそ、実は長きにわたる日本の文化伝統をそのままに体現していて重要である。今年はその中でも特に親しまれ、昔話としても流布し、学生諸君も小さい頃から知っているはずである「浦島太郎」と「一寸法師」をとりあげて、単なるお伽話としか思っていないものが、どれほど深く長い文化伝統にのっとって作られているものか、それを受け取る読者、つまり我々の感覚がどれだけ伝統的なものか、明らかにしていく。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は「浦島太郎」、後期は「一寸法師」をとりあげる。どちらの話も記紀万葉から明治時代の国定教科書を経て、現代に至るまでの長い伝承の歴史を持っている。それらを逐一つまびらかにして、歴史的な変容を明らかにすると共に、変わらない点はどこなのかを明らかにしていく。そのために、古文の講読・解釈を毎時間することになる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	その都度教室で配布する。	
	参 考 文 献	その都度教室で指示する。	
評 価 方 法	年二回のレポート、学年末試験の成績による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	長大なレポートを課するので、様々な文献を読み、考える覚悟が必要である。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「お伽草子」とは何か? 2. 「浦島太郎」を読む 3. 「浦島太郎」を読む 4. 「浦島太郎」を読む 5. 奈良時代の「浦島太郎」 日本書紀 6. 奈良時代の「浦島太郎」 万葉集 7. 平安時代の「浦島太郎」 8. 平安時代の「浦島太郎」 9. 昔話・伝説の中の「浦島太郎」 10. 国定教科書の「浦島太郎」 11. まとめ：日本人の異郷意識：異人、幸福、時間 12. 予備日「絵本の中の浦島太郎」 13. 「一寸法師」を読む 14. 「一寸法師」を読む 15. 「一寸法師」を読む 16. 奈良時代の「一寸法師」 17. 奈良時代の「一寸法師」 18. 平安時代の「一寸法師」 19. 平安時代の「一寸法師」 20. 藝能に見る「一寸法師」 21. 国定教科書の「一寸法師」 22. 昔話の「一寸法師」 23. まとめ：日本人の侏儒観、異人と差別意識、畏れと憧れ。 24. 予備日『絵本の中の一寸法師』
----------------------------	--

科 目 名	日 本 文 学	担当者名	肥 田 野 昌 之
-------	---------	------	-----------

講 義 の 目 標	日本の代表的な古典である『万葉集』を講読する。主として作品の背景をなす万葉の時代・万葉人の生活・歴史的事件などについて解説し、教養として必要な「万葉集入門」となるような講義をしたいと思う。		
講 義 概 要	<p>前期は主として、初期万葉の歴史的事件を背景として、有間皇子や大津皇子の悲劇・額田王や但馬皇女などについて、その歌とのかかわりで物語風に概説する。それとともに代表的な歌人たる柿本人麻呂や山部赤人などについても考察する。</p> <p>後期は主として、伝説・説話の歌や東歌。防人歌の問題、また山上憶良・大伴家持などの有力歌人について広く検討してみたい。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	小野寛校註『万葉集抄』笠間書院	
	参 考 文 献	斎藤茂吉『万葉秀歌』上・下（岩波新書）他	
評 価 方 法	授業への出席と前・後期の試験によって決定する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	出席は原則として 3 分の 2 必要、前期の試験で極端に悪い学生は単位をあきらめてもらいます。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一年間の講義概要を説明。『万葉集』についての名義・成立・注釈書などを概説する。 2. 巻一国歌大鑑 1 番・雄略天皇の歌について考える。 3. 中大兄の三山歌について、いろいろな角度から考察する。 4. 額田王とその歌についての説明と鑑賞。 5. 柿本人麻呂とその長歌を中心によむ。 6. 大津皇子・大伯皇女について、謀反事件を考察しながら、それらの歌をよむ。 7. 穂積皇子と但馬皇女との悲恋と歌物語について。 8. 有間皇子の謀反と歌について、『日本書紀』を参考にして考える。 9. 再び柿本人麻呂の短歌とその終焉について考える。 10. 前期のまとめとして、プリント二枚を配って前期試験の傾向と対策について説明する。 11. 山部赤人「不尽山を望る歌」を中心によむ。 12. 大宰帥大伴旅人「酒を讃むる歌」を中心にしてよむ。 13. 真間娘子の歌 - 赤人と虫麻呂 - 14. 山上憶良とその歌 - 貧窮問答歌を中心にして - 15. 万葉集の歌体について、特に旋頭歌を中心にしての歌と説明。 16. 高橋虫麻呂の伝説歌について - 浦島子・菟原処女など - 17. 寄物陳思・正述心緒 - 巻十一の歌を読む。 18. 万葉集の用字法 - 特に義訓・戯訓 - 19. 東歌について説明と歌。 20. 中臣宅守と狭野弟上娘子の贈答を中心にして 21. 巻十六有由縁并雑歌を中心によむ。 22. 後期のまとめとして、プリント二枚を配り後期試験の傾向と対策について説明する。 23. 大伴家持とその歌について講読する。 24. 防人歌についての説明と歌。上代特殊仮名遣について
----------------------------	--

科 目 名	日本文学	担当者名	福 沢 健
-------	------	------	-------

講義の目標	奈良時代から鎌倉までの作品を取り上げ、その作品の魅力と文学史的意義について講義します。日本古典を文学として読んでいくことを目標とします。			
講義概要	日本の古典の評判はよくありません。古文はワカラナイ、ツマラナイ、古クサイ、などといって毛嫌いされています。しかし、古文の教材ではなく、文学作品として読みなおしてみると、それぞれの作品の魅力あらためて見出せると思います。具体的には、1時間に1作品を取り上げ、その抜粋を読むというかたちとなります。			
使用教材	テキスト	特に定めません。必要に応じてプリントを用意します。		
	参考文献	その都度教室で指示します。		
評価方法	年2回のレポート。出席・授業態度など、平常点評価。			
受講者に対する要望など	いわゆる古文解釈の技術は必要ありません。日本古典に対する興味を有する学生の受講を希望します。			
年間授業計画	1. はじめに 2. 柿本人麻呂 3. 大伴田主と石川郎女 4. 大伴家持 5. 紀貫之 6. なよ竹のかぐや姫 7. 在原業平 8. 藤原道綱母 9. 中宮定子と清少納言 10. 紫式部 11. 桐壺帝と桐壺更衣 12. 光源氏と藤壺女御 13. 和泉式部 14. 藤原孝標女 15. 虫めづる姫君 16. 大宅世継と夏山繁樹 17. 堀川天皇と讃岐典侍 18. 西洞院の女房 19. 平清盛 20. 建礼門院 21. 鴨長明 22. 藤原定家 23. 卜部兼好 24. まとめ	神としての天皇(万葉集1) 古代都市の文学(万葉集2) 都人の憂鬱(万葉集3) ひらがな誕生(古今和歌集仮名序) 少女漫画としての物語(竹取物語) 愛とまことの世界(伊勢物語) 不幸な心の発見(蜻蛉日記) 幸福の記憶(枕草子) 女性と漢字(紫式部日記) 物語の発展(源氏物語1) もののあはれの本質(源氏物語2) ザ・スキャンダル(和泉式部日記) 文学少女の夢と挫折(更級日記) 物語のゆくえ(提中納言物語) 北のふじなみの栄光と悲劇(大鏡) 衰弱する天皇(讃岐典侍日記) 本当にあった物語(今昔物語) 王権を破壊する者(平家物語1) 回復された秩序(平家物語2) この世の終わり(方丈記) 乱世と芸術至上主義(新古今和歌集) 枕草子の呪縛(徒然草)		

科 目 名	外国文学	担当者名	石 崎 晴 己
-------	------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>現代の多くの学生諸君にとって、世界文学、特にフランス文学の古典的名作などというものは、往々にしてとっつきにくい、訳の分からない代物なのではないだろうか。しかし馴染みのない形式的枠組みを少し我慢すれば、人間や社会や人生の真相に対する奥深いヒントが豊かに眠っているのであり、また今日の国際社会の淵源としての西洋世界の古典に触れることは、進行しつつある国際化によりよく参加・対処する上でも、大いに有益であるはずである。そのような認識に立って、本講義はフランスを中心とするヨーロッパ文学の、特に古典的名作に接する機会を、学生諸君に提供しようとするものである。</p>				
講 義 概 要	<p>学生が読んでもいない作品のタイトルを次から次に羅列して、教師が一方向的に語るという形には、できるだけならないようにしたい。基本的には言及される作品には学生諸君も一通り目を通して、という形で進めたいと思う。そのため基本的には、毎回一つの作品を取り上げて、分析し、その抜粋（邦訳の）を味わうということを中心に進めることになる。また関連する絵画やオペラ等の音楽作品、映画や劇のビデオなども積極的に利用して、作品を享受することの楽しさを可能なかぎり追求したい。</p> <p>フランス文学は、中世におけるその成立以来、一貫してヨーロッパ文学の主流をなして来たと言える。その要因の一つとして、フランス文学が、ギリシア・ローマの古典古代の文学を最も正統的に継承した、少なくとも継承しようとした、という点があげられよう。そこで本講義は、ホメロス以来の古典古代の文学とフランス文学のつながりをたどることを、前半の柱にしたい。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>なし。必要に応じて、プリントを用意する。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>教場にて指示。</td> </tr> </table>	テキスト	なし。必要に応じて、プリントを用意する。	参考文献	教場にて指示。
テキスト	なし。必要に応じて、プリントを用意する。				
参考文献	教場にて指示。				
評 価 方 法	<p>前・後期ともレポートによって評価を決める予定であるが、場合によっては、きわめてレポートに近い形の筆記試験（問題予告による記述試験）を行なうかもしれない。またできれば学生諸君にも発表をして貰いたいと思っているので、それも評価の手段となるだろう。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>少しでも多く読むこと</p>				

年間授業計画	<p>年間授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 方針説明。課題図書の指定 2. フランス文学史の概観 3. ヨーロッパ文学の基層としてのギリシア神話・伝説の典型としてのトロイ戦争 4. 「イリアッド」 5. アイスキュロス「オレスティーア」三部作 6. ラシーヌ「アンドロマック」 7. サルトル「蠅」 8. ジロドゥー「エレクトル」 9. ソポクレス、エウリピデス「エレクトラー」 10. ジロドゥー「トロイ戦争は起こらない」 11. ラシーヌ「フェードル」 12. ヴィデオ鑑賞 13. 「トリスタンとイズー」 14. ワグナー「トリスタンとイゾルデ」 15. モリエール「ドン・ジュアン」 16. デカルト「方法序説」 17. ラ・ロシュフーコー「箴言」 18. バスカル「パンセ」 19. アベ・ブレヴォ「マノン・レスコー」 20. ルソー「告白」 21. バルザック「ゴリオ爺さん」 22. ジイド「背徳者」 23. マルロー「人間の条件」 24. サルトル「嘔吐」
--------	--

科 目 名	外国文学	担当者名	北 澤 滋 久
-------	------	------	---------

講 義 の 目 標	文学を味わうこと愉しさを伝え、併せて教養豊かな国際人をめざす者の人間形成の一助とすることを主たる目標とします。		
講 義 概 要	<p>英米の文学に観る人間像</p> <p>英米の文学のなかの古典・傑作をいくつかのトピックスに大別して、1 講義、1 作家、1 作品を原則に、定説を踏まえながらも担当者独自の観点から解説してゆきます。毎回聴いていれば「学」はつくでしょうが、文学史的な体系を覚えてもらうつもりではありません。何より受講者の感性に訴えたく思います。文学は本来楽しいものはずです。この際ちょっと読書好きになってさえもらえれば、美しく感動的に描かれた未知の人生や思想と出会えて、心地よい興奮とともに、ずっしりと重く自分の人生への指標が仄かに視えてもくることでしょう。こうした文学へのいざないに、肩のこらない楽しい授業にしたいと思います。興味ある向きは、最初のガイダンス授業を覗いてみてください。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	テキストは特に定めません。	
	参 考 文 献	参考文献は、2 回目の授業時間に一覧表にして配布します。	
評 価 方 法	前期の講義で扱った作品の中から一編を読んで（翻訳可）、その感想文（小論文）を夏休み後に提出してもらいます。これと後期の試験により評価します。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	毎年多数の受講者の集まるのは結構なのですが、単に単位獲得のみを目的とする方は悪しからずご遠慮ください。因みに毎年 20%以上の不合格者が出ています。		

1. 登録のよすがに：本講義の内容と目標、そして受講者に願うこと
2. 開講の辞：言語・文学・芸術、そして言語芸術としての文学
現代文明下のアメリカの少年たち
3. 『ハックルベリィの冒険』：イノセントな魂 THE ADVENTURES OF HUCKLEBERRY FINN
by Mark Twain
4. 『ブラック・ボーイ』：人種差別に抗って BLACK BOY by Richard Wright
5. 『ライ麦畑でつかまえて』：現代社会に生きることの苦悩
THE CATCHER IN THE RYE by J. D. Salinger
19世紀、イギリスの娘たち
6. 『テス』：汚された？純潔 TESS OF THE D'URBERVILLES by Thomas Hardy
7. 『フロス河畔の水車場』：新しい女性の生きかたを求めて
THE MILL ON THE FLOSS by George Eliot
8. 『ジェーン・エア』：自立する女性 JANE EYRE by Charlotte Brontë
19世紀、英米文学の驚異
9. 『嵐が丘』：天国と地獄のパラドックス WUTHERING HEIGHTS by Emily Brontë
10. 『白鯨』：近代的英雄の悲劇 MOBY - DICK by Herman Melville
英雄不在の20世紀の英雄たち
11. 『ロード・ジム』：英雄ならざる英雄の悲劇 LORD JIM by Joseph Conrad
12. 『老人と海』：一老漁師にみる英雄的姿 THE OLD MAN AND THE SEA by Ernest Hemingway
海洋（冒険）小説の諸相
13. 『ロビンソン・クルーソー』：孤島に生きる近代人 THE ADVENTURES OF ROBINSON
CRUSOE by Daniel Defoe
14. 『ガリヴァ旅行記』：人間嫌悪の結晶 GULIVER'S TRAVELLS by Jonathan Swift
近代芸術観の極致
15. 『月と六ペンス』：芸術家の狂気 THE MOON AND SIXPENCE by William Somerset
Maugham
16. 『アッシャー館の崩壊』他：至上の美を求めて
THE FALL OF THE HOUSE OF USHER by Edgar Allen Poe
17. 『ドリアン・グレイの肖像』：耽美の世界に踏み入って
THE PICTURE OF DORIAN GRAY by Oscar Wilde
父なるもの、母なるものの原像
18. 『ハムレット』：青年の母への愛憎 HAMLET by William Shakespeare
19. 『息子たち、恋人たち』：母と息子の絆 SONS AND LOVERS by D. H. Lawrence
20. 『若い芸術家の肖像』：父なるものを求めて
A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN by James Joyce
倫理と欲望の峡間
21. 『ねじの回転』：女性家庭教師のみた幻想 THE TURN OF THE SCREW by Henry James
22. 『事件の核心』：信仰と不倫に揺れて
THE HEART OF THE MATTER by Graham Greene
23. 『緋文字』：姦通と復讐の贖い THE SCARLET LETTER by Nathaniel Hawthorne
24. 閉講の辞：芸術と人生、そして質疑・応答

科目名	外国文学	担当者名	山路朝彦
-----	------	------	------

講義の目標	ドイツの作家カフカの作品について論じながら、小説を読むという日常的な行為を問い直したいと思います。それを通して、自明に思われることを問題として考えていくという、大学での勉強に必要な技術を身につけましょう。		
講義概要	カフカの作品をあらかじめ紹介するとともに（映画化や演劇化されたものも使います）、その作品を読み直しながら、様々な解釈の可能性を考えていきます。		
使用教材	テキスト	カフカの作品『変身』、『城』、『審判』	
	参考文献		
評価方法	前期・後期試験		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	1. 文学の理論へ 感想・印象と批評、文学の理論と西欧の特質 2. 3. 4. 5. カフカの作品紹介 6. 文学の理論へ 伝記・評伝と影響史、文学史と文学社会誌 7. 8. 「小説」の誕生とその歴史 9. 10. 文学史と国民意識・「ドイツ学」の成立、「精神科学」の成立と文学研究 11. 12. 芸術の自律性、アヴァンギャルド 13. 文学研究の立場と方法 精神史的方法 14. 15. 作品内在解釈（インタープリテーション）の方法 16. 17. マルクス主義の立場から 18. 19. 構造主義的方法 20. 21. 文学社会学的方法 22. 23. 「エッセイ」という方法 24. 新たな立場と方法		

科 目 名	歴 史 学 (日本史)	担当者名	新 井 孝 重
-------	-------------	------	---------

講 義 の 目 標	14 世紀の内乱期は、日本の歴史の大きなまがり角であった。社会は南北朝の内乱を通過するなかで、どのように変化したのか。内乱期の諸相をながめながら、歴史の深いところに分け入り、社会の変化の様相をつかまえる。		
講 義 概 要	悪党とはどのような人々のことを云うのか。悪党の生態を観察することによって鎌倉末期の社会矛盾をつかまえる。そのさいの視点として、「武勇」と「武装」の問題は重要。つぎに、内乱の諸相を、なるべく具体的に、人間の行動と思想を通して観る。そのあとで、戦乱のなかで安穩をもとめる民衆のすがたを注目したい。		
使 用 教 材	テキスト	新井孝重『悪党の世紀』、吉川弘文館、1997年。 その他必要に応じてプリントを配布。	
	参考文献		
評 価 方 法	評価は、後期の試験成績と年間の出席状況をもってする。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	30 分以上の遅刻者は出席者とみなさない。 紳士的な態度で気楽に聴いていただければよい。		

年 間 授 業 計 画	1. 大仏を領主にする村 伊賀の農村、出作をする人びと。
	2. 大仏を領主にする村 奈良寺院社会の風景、南京大衆の周辺 在地住民の寄人(よりうど)・神人化による「僧兵」の出現
	3. 悪党の活動 村の悪党 荘園在地武士の悪党化
	4. 悪党の活動 村の悪党 荘園在地武士の悪党化
	5. 寺の悪党 武装する僧徒
	6. 寺の悪党 預所(あずかりどころ)の僧、悪党になる 東大寺僧快実について
	7. 崩れる一揆の「作法」 中世の一揆とは 一揆の淵源である寺僧の衆会について
	8. 崩れる一揆の「作法」 荘園体制の一揆的構造 荘民の一揆の「作法」、「武」をともなわない一揆
	9. 崩れる一揆の「作法」 悪党の登場 「武」をともなう悪党の行動様式が荘園制の一揆的構造を破壊
	10. 武装の行粧 民間における武装の禁忌性 甲冑を着ることの意味
	11. 武装の行粧 武装すがたの異形性 中世の祭礼と武装
	12. 武装の行粧 悪党の武装……禁忌と異形との関連で武装は“悪”そのものである
	13. 内乱の風景 楠木の勢力 身体の武装の拡大したすがた……館の武装化……城郭の出現
	14. 内乱の風景 楠木の勢力 在地に城郭がつくられることの意味
	15. 内乱の風景 金剛山の攻防 戦争を社会史的に観察すると
	16. 内乱の風景 移動する大軍 北畠顕家奥州軍長征の実相
	17. 内乱の風景 戦いの日々 内乱期武士の戦争観をみる
	18. 内乱の風景 軍忠と恩賞 武士はなぜ戦うのか
	19. 内乱の風景 傭われる凡下(ぼんげ)の輩 凡下と呼ばれる人々の生態をみる
	20. 内乱の風景 戦争に疲れて 合戦にあけくれる武士の人生、負傷・討死・没落
	21. 内乱の風景 武士たちの生きるための知恵 国人(こくじん)一揆
	22. 悪党の美学 バサラをみる
	23. 地下(じげ)の芸能と民衆 猿楽の形成 伊賀の猿楽
	24. 悪党の終焉 「平和」をもとめる民衆

科 目 名	歴 史 学 (日本史)	担当者名	齊 藤 博
-------	-------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>地域民衆史や全体史としての社会史の立場から、日本および日本人のトータルな課題に迫る。思想・人物・地域の三つの視点から日本人像に照射を加えたい。</p> <p>1. 共同体、2. 村落、3. 天皇制、4. 幕末維新期、5. 英雄論、6. 民衆信仰、7. 民衆史、8. 差別史、9. 昭和十五年戦争、などが講義中のキーワードである。</p>		
講 義 概 要	<p>読書を通じての思索によってしか、歴史的なものの見方は身につかない。「若者の感性」やマスメディアの多数派思考や CM 調流行ムード、あるいは大河ドラマの趣向によって、歴史学を水に薄めるわけにはいかないのである。きちんとした専門書、あるいはしっかりした啓蒙書を読むことが、歴史学の学習には求められている。</p> <p>日本人であるからといって日本史学習が容易であり気安く分かってしまうことはない。やはり丁寧に、きちんと出席しないとわからない。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 齊藤 博 『歴史の精神』学文社 ・ 齊藤 博 『民衆史の構造』新評論 	
	参 考 文 献	<p>講義の間に、12冊以上を紹介する。そのうち2~3冊は是非とも通読してもらいたい。最低限、テキストをよく読んでもらいたいと思う。割合と日本史百話的な「講談調」ではあるが、講義にでていないと無論、わからない。</p>	
評 価 方 法	<p>前期と後期にペーパーテスト（論文形式）がある。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>出席が良好でないと理解しにくい内容・傾向・水準にある。日本史だから日本人にはよくわかる、ということはない。とにかく、できる限り出席すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	1. 日本および日本人について。日本史の特徴、日本人が日本史を学ぶ困難性
	2. 日本史の特徴、風土と歴史、日本史研究者像、新井白石、本居宣長、伴信友（近世史）
	3. 日本史研究者像、津田左右吉、和辻哲郎、柳田国男、喜田貞吉、服部之総、羽仁五郎（近代、現代史）
	4. 日本史研究者像、瀧川政次郎、渡部義通、石母田正（古代史、中世史）
	5. 日本史研究者像、芳賀登、色川大吉、井上幸治（地域民衆史の視座と方法）
	6. 「天への想い」、日中歴史学の比較と対照、東洋的歴史像の構築
	7. 「天への想い」（天皇制論を含む）
	8. 明治維新論（日本資本主義発展史の視座から）高杉晋作『東行詩集』を読む、吉田松陰を含む
	9. 明治維新論（日本資本主義発展史の視座から）高杉晋作『東行詩集』を読む、吉田松陰を含む
	10. 明治維新論（日本資本主義発展史の視座から）高杉晋作『東行詩集』を読む、吉田松陰を含む
	11. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む
	12. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む
	13. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む
	14. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む
	15. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む
	16. 幕末明治期豪商家の具体像、齊藤博『大和屋物語』を読む
	17. 幕末明治期豪商家の具体像、齊藤博『大和屋物語』を読む
	18. 幕末明治期豪商家の具体像、齊藤博『大和屋物語』を読む
	19. アジア的共同体と差別 島崎藤村『破戒』を読む
	20. アジア的共同体と差別 島崎藤村『破戒』を読む
	21. 近世史と近代史の問題点 高橋貞樹『被差別部落一千年史』を読む
	22. 近世史と近代史の問題点 民衆信仰（中山みき、金光大神、出口王仁三郎）を考える
	23. 日本近代化をどう考えるか（北村透谷、石川啄木、夏目漱石、永井荷風）
	24. まとめ（総括）日本および日本人論をめぐって

科 目 名	歴 史 学 (東 洋 史)	担 当 者 名	熊 谷 哲 也
-------	-----------------	---------	---------

講 義 の 目 標	西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、人々が何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。		
講 義 概 要	<p>前半は7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたるまでの歴史を概観し、イスラーム教の拡大によって広大なイスラーム世界が形成されるまでの様相を理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。</p> <p>後半はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する、今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係について、関心と理解が深められるよう留意する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	とくにさだめない。	
	参 考 文 献	夏休みあけに読書レポートを提出していただくが、そのためにイスラームに関する新書程度の本を用意してもらおう。詳しくは授業で指示する。	
評 価 方 法	試験とレポート。発想のオリジナリティを重視する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。 2. イスラーム教の誕生以前の世界について考える。ユダヤ教やキリスト教に関する知識が必要である。 3. 預言者ムハンマド（マホメット）の出現と、その時代背景について考える。彼の教えと、それがアラビア半島内に広まる経過を理解する。 4. 最初の4人のカリフ（正統カリフ）の時代について考える。第一次内乱、シーア派の出現を理解する。 5. ウマイヤ朝の歴史について考える。これがヴェルハウゼンの古典理論において「アラブ帝国」と定義される意味を検討する。 6. アッバース朝の歴史について考える。その成立が、古典理論において「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行と定義される意味を検討する。 7. イスラーム教の聖典であるコーラン（クルアーン） 預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐる成立・発達した初期思想と学問について学ぶ。 8. アッバース朝時代から発達したアラビア科学とその内容について、また、中世イスラーム社会において民衆教化の役割をはたしたイスラーム神秘主義について考察する。 9. アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現しはじめた軍事政権とその展開について概観する。 10. エジプトのマムルーク朝について学ぶ。とくにイクター制と呼ばれる制度が西ヨーロッパの封建制と比較される点を検討する。 11. ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代、これらが作り上げたヨーロッパの人々の歴史観について検討する。 12. 同 その2 13. オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」と呼ばれる点について検討する。また、キャピトレーションの問題をとりあげる。 14. 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述し、アジアにおける近代化の枠組みをひとまず一般論として把握する。 15. 西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容を考察する。欧化主義や原理主義（復興主義）の基本的メカニズムを理解する。 16. さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・ズーフィズムなどの問題について考える。 17. エジプトの近代化とその過程について考える。 18. トルコの近代化とその過程について考える。トルコ・ナショナリズム、パン・イスラミズムを理解する。 19. 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて、いくつかの問題をとりあげて考察する。 20. 知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会に固有な事項をとりあげ、近代化との関係について検討する。 21. 近・現代のアラブ世界の文化について考える。 22. 今世紀のイスラーム世界について考える。イスラーム諸国における民族主義とそのゆくえ、マイノリティーの問題をとりあげる。 23. 現在のアラブ諸国のかかえる問題を検討する。ポスト冷戦時代におけるイスラーム諸国と欧米諸国との関係を考える。 24.（予備） まとめをおこなう
----------------------------	--

科 目 名	歴 史 学 (西 洋 史)	担当者名	高 橋 正 男
-------	-----------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>近年われわれはユーラシア大陸の大半を占める西欧、東欧・ロシア、中東・アフリカで起こった政治情勢の変転に際会し、人間生活の過去を構築する歴史学への興味をかきたてられている。本年度は、文明の発生から現代に至るまでの政治・社会史に重点を置いた西洋史の大勢をエルサレムを基点に世界史的な連関のもとに多面的・立体的に理解させることを主眼とする。受講生とともに複眼的視点から西洋史を現代国際関係から見直し、あわせて現代社会の根底を理解する素材を提供し、21世紀を展望してみたい。</p>		
講 義 概 要	<p>講義は平明・概説的であるが、重要事項は詳述し、あわせて学界の研究状況も織り込んで紹介する。必要に応じ VIDEO 教材を使用する。講義内容は別紙年間講義予定表を参照されたい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・高橋正男著『旧約聖書の世界』(第5刷)時事通信社、1999年 ・高橋正男著『年表 古代オリエント史』(第4刷)時事通信社、1999年 	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・D=ハバト著(高橋正男訳)『図説 エルサレムの歴史』(第2刷)東京書籍、1994年 ・高橋正男著『エルサレム』(世界の都市の物語14)文藝春秋、1996年 ・高橋正男・榊山紘一編『地中海の暦と祭り』刀水書房、2000年 ・塩生七生著『ローマ人への20の質問』(文春新書082)文藝春秋、2000年1月 ・他その都度紹介する。 	
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・前期・後期の筆記試験による。 ・講義資料(年間約40枚)等は出席者のみに配布する。 		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	前期
	1. 歴史とは何か、史学研究法
	2. 先史時代と歴史時代とのメルクマール
	3. 古代オリエントの地理的範囲、文明の発生 - 前第四千年紀末 -
	4. 古代オリエント史の推移 (1)
	5. 古代オリエント史の推移 (1) V I D E O
	6. 族長時代からイスラエル王国成立まで (1) - 前 1 9 世紀 ~ 前 1 1 世紀 -
	7. 族長時代からイスラエル王国成立まで (2)
	8. 第一神殿時代 (1) - 前 1 0 世紀 ~ 前 586 年 -
	9. 第一神殿時代 (2)
	10. バビロニア捕囚時代 - 前 6 世紀 -
	11. 第二神殿時代 (1) - 前 538 年 ~ 後 70 年 -
	12. 第二神殿時代 (2) まとめ・V I D E O
	後期
	13. ローマ時代 - 70 ~ 330 年 -
	14. ビザンツ時代 - 330 ~ 638 年 -
	15. 初期ムスリム時代 - 638 ~ 1099 年 -
	16. 十字軍時代 - 1099 ~ 1187 年 -
	17. アイユーブ朝およびマムルーク時代 - 1187 ~ 1517 年 -
	18. オスマン=トルコ時代 - 1517 ~ 1917 年 -
	19. イギリスの委任統治時代 - 1917 ~ 1948 年 -
	20. イエルサレムの東西分断 - 1948 ~ 1967 年 -
	21. イエルサレム再統合 - 1967 年以降
	22. 第二次世界大戦後の中東情勢
23. 現代歴史学の諸問題、暦法の変遷	
24. 後期のまとめ・V I D E O	

科 目 名	歴 史 学 (西 洋 史)	担 当 者 名	古 川 堅 治
-------	-----------------	---------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講座は、「ヨーロッパの歴史」と題して、前期をその統合と分裂の側面から通観し、今日のヨーロッパ連合（EU）がどのような発展の可能性をもっているかを考えること、後期をバルカン情勢の現在という視点から取り扱い、ヨーロッパの不安定要因としてのバルカン地域がもつ意味を考えることを目標とする。</p>		
講 義 概 要	<p>講義は概説的に進めていくが、関係するテーマのビデオや映画・LDなどもできるだけ使って理解を深めるのに役立てたい。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマごとに問題を提示し、それについて考えてもらうことを主眼においているので、積極的かつ活発な質問・疑問・意見が出ることを期待されている。その意味でも自由な発言が出るようなアット・ホームな雰囲気、小じんまりとしながら進めていく。</p>		
使 用 教 材	テキスト	特に使用することはない。	
	参 考 文 献	その都度指摘する。	
評 価 方 法	<p>前・後期二回のレポートと数回の小レポートで評価。テーマ、〆切日、枚数等については、授業中に提示する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>歴史が不得意であったとか、これまで学んだことがなかったという人も関係なく、歴史に興味関心のある人、その必要性を感じている人ならだれでも歓迎。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>前期 - ヨーロッパの歴史～統合と分裂の視点から～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 1)大学の起源：幅広い知識の習得と自己判断力 2)歴史を学ぶことの意味：現代認識と歴史学の課題 3)今、なぜヨーロッパか？参考文献：J. ゲーノ / 舛添要一訳 『民主主義の終わり』(講談社、1994) VIDEO：「豊かさへの移動」(NHK スベ)(その1) 2. ヨーロッパとは何か？ 1)地理的特徴：古代ギリシア人の「エウロパ」 2)言語の多様性 3)ヨーロッパ「文明」と「文化」参考文献：雑誌『月刊言語 10、特集：地中海文明と言語』(大修館、1998) VIDEO：前回と同じ(その2) 3. 4. 地中海世界とギリシア人の活躍 1)金属器時代と地中海交易 2)ギリシア古典文明 参考文献：桜井・本村『世界歴史 ギリシアとローマ』(中央公論社、1998) VIDEO：「知の冒険：オデュッセウス」(その1) 5. 6. ローマ帝国の威光 1)ローマ：7つの丘から世界帝国へ 2)ローマ帝国下のヨーロッパ・「ローマの平和」と属州支配・キリスト教化されたヨーロッパ 参考文献：前回と同じ LD：「古代ローマの遺産」 7. 8. 統一ヨーロッパ構想の起点～カルロス・マグヌスのフランク王国 1)フランク王国の形成 2)「ヨーロッパ合衆国」の原型(?) 参考文献：アインハルドス / 国原吉之助訳『カルロス大帝伝』(筑摩書房、1988) LD：「聖なる世界ロマネスク」 9. 10. 最初のヨーロッパ統合 1)スコラ文化 2)騎士文化ほか 参考文献：ウンベルト・エコ / 河島英昭訳『バラの名前(上下)』(東京創元社、1990) VIDEO：「バラの名前」 11. 12. 第二のヨーロッパ統合 1)「文芸共和国」と宮廷文化(17-18C) 2)ヨーロッパ社会の思想的系譜(16-18C) 参考文献：LD：「華麗なるバロック」 前期レポート要領(課題、枚数、提出先など) <p>後期 ヨーロッパ統合と民族の問題～バルカン地方を中心に～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域研究の意義と方法 1)映画『ユリシーズの瞳』から見たバルカン史 2)地域研究の性格と方法 参考文献：町田幸彦『コソボ紛争』(岩波ブックレット、1999) VIDEO：『ユリシーズの瞳』(その1) 2. 3. オスマン帝国の支配と「民族」問題 1)オスマン帝国の支配構造 2)「民族意識」の覚醒 参考文献：柴宜弘『バルカンの民族主義』(世界史リブレット、山川出版、1996) VIDEO：前回と同じ(その2、その3) 4. 5. フランス革命思想とバルカンの「民族意識」の形成 1)バルカン商人と諸民族間のネットワーク 2)フランス革命と国民国家の形成 参考文献：野田宣雄『二十世紀をどう見るか』(文春新書、1998) VIDEO：同上(その4) 6. 7. バルカン地域における民族運動の展開 1)民族的統合の諸契機 2)バルカン諸民族の独立と対立 3)バルカン地域の民族問題の諸類型 参考文献：大島直政『複合民族国家キプロスの悲劇』(新潮選書、1985) VIDEO：「国境紀行：分断された地中海の島国キプロス」(その1) 8. バルカン地域の将来 1)バルカン連邦構想の系譜 2)バルカン諸国サミットの意義 参考文献：VIDEO：前回と同じ(その2) 9. 10. ヨーロッパ統合の思想的系譜(その1) 1)第一次世界大戦の衝撃 2)戦後の「統合」構想：不戦のためのヨーロッパ統合案 参考文献：新田俊三『ユーロ経済を読む』(講談社現代新書、1999-3) VIDEO：「映像の世紀：世界は地獄を見た」(その1) 11. ヨーロッパ統合の思想的系譜(その2) 1)17世紀以前の統合構想 2)17・18世紀の統合構想 参考文献：VIDEO： 12. おわりに 1)ヨーロッパ統合の歴史的意義 2)ヨーロッパ統合と日本 参考文献：谷川稔『国民国家とナショナリズム』(世界史リブレット)山川出版、1999) VIDEO：同上(その2)
----------------------------	---

科 目 名	歴 史 学 (西 洋 史)	担 当 者 名	古 田 善 文
-------	-----------------	---------	---------

講 義 の 目 標	講義を通じて、西洋現代史についての基礎的な知識の修得と歴史的思考方法の育成がはかられます。	
講 義 概 要	<p>(1) 講義では、「現代の開幕」と位置づけられる第一次世界大戦から、現在の EU 統合にいたるまでの 20 世紀ヨーロッパ政治史の流れを、独仏関係を主要な考察軸としながら概説的に述べていきます。</p> <p>(2) 講義の対象となるのは主に西ヨーロッパ地域ですが、テーマに応じて対象地域をアジアやアメリカなどにも広げながら、できるかぎり世界史的視野で歴史の流れや因果関係を理解するようにつとめます。</p> <p>(3) 原則として、毎回、講義レジュメを配布する予定です。また、テーマによってはビデオ資料などを積極的に採用し、対象の多角的な理解につとめます。</p>	
使 用 教 材	テ キ ス ト	特に使用しません。
	参 考 文 献	授業中に指示します。
評 価 方 法	前期はレポート、後期は期末テストを実施します。 評価に際しては出席状況も加味します。	
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど		

年 間 授 業 計 画	1. <はじめに>	: 年間講義計画、講義のねらい、評価方法などの説明。 現代史を学ぶ意義と楽しさ。
	2. <現代の開幕 1>	: 第一次世界大戦勃発の背景と大戦の経過。
	3. <現代の開幕 2>	: 第一次世界大戦の終結。大戦の歴史的意義。
	4. <革命の時代 1>	: ロシア革命。ウィルソンとレーニン。
	5. <革命の時代 2>	: 中欧の革命と反革命。
	6. <講話と賠償>	: ヴェルサイユ＝ワシントン条約体制の成立と特質。
	7. <ファシズム 1>	: ファシズムの誕生。イタリア・ファシスト党の歴史と特質。
	8. <ファシズム 2>	: ドイツのナチ党の歴史と特質。
	9. <ファシズム 3>	:(参考ビデオ)
	10. <ファシズム 4>	: 欧州のファシズム運動・体制の比較検討。
	11. <ファシズム 5>	: ファシズム論の諸潮流。ファシズムの規定をめぐって。
	12. <まとめ(予備)>	: 前期のまとめ。
	13. <第二次世界大戦論 1>	: 大戦の原因。
	14. <第二次世界大戦論 2>	: 大戦の経過。
	15. <第二次世界大戦論 3>	: 戦争犯罪をめぐる諸問題。
	16. <占領の国際比較 1>	: ヤルタとポツダム。連合国の対ドイツ占領政策。
	17. <占領の国際比較 2>	: 日独占領の比較史的検討。
	18. <占領の国際比較 3>	: ヨーロッパにおける連合国占領の比較検討。
	19. <占領の国際比較 4>	:(参考ビデオ)
	20. <冷戦の時代 1>	: ドイツ分断と NATO の成立。
	21. <冷戦の時代 2>	: ソ連の東欧支配とその綻び。
	22. <EU 統合への道 1>	: 欧州石炭鉄鋼共同体からドイツ統一まで。
	23. <EU 統合への道 2>	: マーストリヒト条約と欧州連合の成立。
	24. <まとめ(予備)>	: 後期のまとめ

科 目 名	人文科学特殊講義 A (現代社会と教育)	担当者名	川 村 肇
-------	----------------------	------	-------

講 義 の 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実践記録を読むことを通じて、教育の現場の実際を知る。 2. 教育実践記録の読み方を深める。 3. 現代社会と教育問題とのかかわりの理解を深める。 		
講 義 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 月刊誌『生活指導』を中心とする教育実践報告を読む。 2. 各自が実践分析を行い、一人が発表し、全員がコメントする。 3. 報告とコメントに基づき、実践分析に関する討議を行う。 4. 扱われている全体テーマについて討議を行う。 5. 月一回程度、教育学にかかわる論文を学習する。 		
使 用 教 材	テキスト	月刊誌『生活指導』(2000年4月号～各月号。各690円程度) 配布プリント類	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・堀尾輝久『現代社会と教育』(岩波書店、新書) ・『竹内常一 教育の仕事』(全6巻、青木書店) 	
評 価 方 法	毎回発表する実践分析と、随時課すレポートによる。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<ul style="list-style-type: none"> ・上記参考文献中の、堀尾『現代社会と教育問題』を読了し、簡単なレポートを作成して参加すること。(形式、枚数等自由)。 ・『生活指導』2000年4月号を購入、持参すること。 ・参加者が中心となる形式なので、毎回必ず参加すること。教育問題に関心のある学生の積極的な参加を望む。 ・E-mailが使えること。 		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方 / 『現代社会と教育』について / 実践分析とは何か 2. 『生活指導』(2000年4月号)誌上の実践報告の分析 3. 『生活指導』(2000年4月号)誌上の実践報告の分析 4. 『生活指導』(2000年5月号)誌上の実践報告の分析 5. 『生活指導』(2000年5月号)誌上の実践報告の分析 6. 『生活指導』(2000年5月号)誌上の実践報告の分析 7. 『生活指導』(2000年5月号)誌上の論文の学習 8. 『生活指導』(2000年6月号)誌上の実践報告の分析 9. 『生活指導』(2000年6月号)誌上の実践報告の分析 10. 『生活指導』(2000年6月号)誌上の実践報告の分析 11. 『生活指導』(2000年6月号)誌上の論文の学習 12. 『生活指導』(2000年7月号)誌上の実践報告の分析 13. 『生活指導』(2000年9月号)誌上の実践報告の分析 14. 『生活指導』(2000年10月号)誌上の実践報告の分析 15. 『生活指導』(2000年10月号)誌上の実践報告の分析 16. 『生活指導』(2000年10月号)誌上の実践報告の分析 17. 『生活指導』(2000年10月号)誌上の論文の学習 18. 『生活指導』(2000年11月号)誌上の実践報告の分析 19. 『生活指導』(2000年11月号)誌上の実践報告の分析 20. 『生活指導』(2000年11月号)誌上の実践報告の分析 21. 『生活指導』(2000年11月号)誌上の論文の学習 22. 『生活指導』(2000年12月号)誌上の実践報告の分析 23. 『生活指導』(2000年12月号)誌上の実践報告の分析 24. 『生活指導』(2001年1月号)誌上の実践報告の分析
----------------------------	--

科 目 名	人文科学特殊講義 A (西洋哲学史)	担当者名	谷 口 郁 夫
-------	--------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>「人間とは何か」という問いを取り上げます。この問いに対して、遺伝学者には遺伝学者の (DNA)、動物学者には動物学者の (裸の猿)、哲学者には哲学者の (たとえば、ポリスの動物 アリストテレス) 解答があります。われわれが直面するさまざまな問いに対して態度決定を迫られるとき、何をよりどころとするかといえば、窮極的にはこの問いがあります。また、この問いに対する正解はひとつではありません。自分の正解を自分で見つけるしかない、そういう性質の問いなのです。今年度は、特に、「悪」の問題に時間を割く予定です。</p>		
講 義 概 要	<p>哲学に関する書物に触れる機会はあまり多くないだろうと思いますので、できるだけ多くの関連書物を読むことを中心に授業を進めます。具体的には、年間を通じていくつかの問題を取り上げ、プリントを使って関連する書物の一部を読むという形になります。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>プリントを使って授業を進めます。プリントは基本的にすべてこちらで準備します。また、主なものはインターネットから入手できるように、ホームページを開設しています。</p>	
	参 考 文 献	<p>プラトン「饗宴」、パスカル「パンセ」など。詳細は年間授業計画を見てください。授業の中で読むのはごく一部ですから、興味の持てるものがあれば全体を読んでもらいたいと思います。</p>	
評 価 方 法	<p>前・後期にそれぞれ5から6の課題の中からひとつを選んで、1000字以上のレポートを書いてもらいます。内容はもちろんですが、レポートの書き方の基本を押さえることに注意してください。出席をとり、評価に際して参考にしますがレポートの評価を優先します。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>年間の授業計画は以下の通りですが、学生からの要望があれば、変更もありえますので、要望があれば申し出てください。</p>		

1. プラトンの「饗宴」におけるエロスについて。エロスの存在としての人間について。
2. アリストテレスの言う「ポリス的動物」としての人間を取り上げ、現代の動物行動学の成果なども踏まえながら、人間について考えます。
3. プラトン・アリストテレス以外の古代ギリシャの思想家たちを紹介します。
4. デカルト「方法序説」、フランシス・ベーコン「ノヴム・オルガヌム」における近代的思想について。
5. パスカルの「パンセ」を読み、「考える葦」「気晴らし」などの言葉を手掛かりに、生と死、人間存在についてパスカルがどのように考えたか。
6. 前回の続き。
7. ホブスの「リヴァイアサン」を読みます。彼は人間を性悪説でとらえていますので、その点に特に注目します。
8. ロック「人間知性論」「市民政府論」における人間観。
9. ルソーの思想に現れた人間観について考えます。ルソーはホブスとは逆に性善説で人間をとらえています。
10. ホブス・ロック・ルソーの比較を試みます。
11. カントの「単なる理想の限界内における宗教」における根源悪の問題について考えます。あわせて、アダム・スミスの「道徳感情論」との比較を試みます。
12. 悪の問題を取り上げていますので、「悪」についての現代の思想（動物行動学、心理学なども）を紹介し、「悪」の問題の難しさについて論じます。
13. ヘーゲルの「歴史哲学」を読み、歴史と個人の問題、歴史における個人の役割について考えます。
14. キルケゴールの「おそれとおのき」から、倫理的なものとは何かについて考えます。また、彼の生涯において婚約破棄がどういう意味を持ったのかについて。
15. キルケゴールの日誌から、彼の主体的真理について考えます。
16. 前回に引き続き、キルケゴールの著作から、彼において人間はいかにあるべきものとして捕らえられたのかについて論じます。
17. フォイエルバッハ「キリスト教の本質」を読み、あまり知られていませんが、この思想家が「愛」を説く思想家であったことに注目します。
18. エーリッヒ・フロム「悪について」を取り上げます。彼の悪の定義を紹介するとともに、わたくしの悪の定義についても論じます。
19. 前回の続き。
20. ウィリアム・ジェイムズ「宗教的経験の諸相」を取り上げます。
21. サルトルの「実存主義とは何か」を読みます。
22. 前回の続き。無神論的実存主義を標榜したサルトルにおいて、人間とは何かという問いがどのように問われなおされているかを論じます。
23. 1年間の講義を振り返って、論じてきた事柄、特に悪の問題についてのまとめ。
24. 予備

科 目 名	人文科学特殊講義 A (哲学思想史)	担当者名	谷 口 郁 夫
-------	--------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>進学、就職、結婚、そして死。われわれの人生にとって大きな意味のある問いがわれわれに突きつけられています。われわれはその問いから逃げることはできません。逃げることもまた、答えていることになる、これは、そういう種類の問いだからです。「自由」を手に入れることで、人間はまた「自由」に悩まされてもいるのです。「選ぶことができる」ということは、同時に「選ばなければならない」ということでもあります。「選ぶ」という行為において、価値、意味の問題が姿を現わします。このことを念頭に講義を進めます。</p>				
講 義 概 要	<p>19世紀の末、ニーチェは次のように書いています。「ニヒリズムとは何を意味するのか？至高の諸価値がその価値を剥奪されるということ。目的が欠けている。『何のために？』への答えが欠けている。」ニーチェがこの言葉を発したとき、その重要性に気づいた人はひとりもいませんでした。狂人の戯言だったのです。二度の大戦を経験した現代人は、ニーチェのこれらの言葉こそ、われわれの状況を言い当てていることに気づいたのです。この講義では、ニーチェを中心に、ニヒリズムの問題について取り上げ、生の意味、労働の意味、人間であること、自由、価値などについて考えていきます。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <p>プリントを使って授業を進めます。プリントは基本的にすべてこちらで準備します。また、主なものはインターネットから入手できるように、ホームページを開設しています。</p> </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <p>ニーチェの後期の著作。「ツアラトゥストラはこのように語った」「この人を見よ」「遺稿」。キルケゴール「現代の批判」。ドストエフスキー「悪霊」など。詳細は年間授業計画を見てください。授業の中で読むのはごく一部ですから、興味の持てるものがあれば全体を読んでもらいたいと思います。</p> </td> </tr> </table>	テキスト	<p>プリントを使って授業を進めます。プリントは基本的にすべてこちらで準備します。また、主なものはインターネットから入手できるように、ホームページを開設しています。</p>	参考文献	<p>ニーチェの後期の著作。「ツアラトゥストラはこのように語った」「この人を見よ」「遺稿」。キルケゴール「現代の批判」。ドストエフスキー「悪霊」など。詳細は年間授業計画を見てください。授業の中で読むのはごく一部ですから、興味の持てるものがあれば全体を読んでもらいたいと思います。</p>
テキスト	<p>プリントを使って授業を進めます。プリントは基本的にすべてこちらで準備します。また、主なものはインターネットから入手できるように、ホームページを開設しています。</p>				
参考文献	<p>ニーチェの後期の著作。「ツアラトゥストラはこのように語った」「この人を見よ」「遺稿」。キルケゴール「現代の批判」。ドストエフスキー「悪霊」など。詳細は年間授業計画を見てください。授業の中で読むのはごく一部ですから、興味の持てるものがあれば全体を読んでもらいたいと思います。</p>				
評 価 方 法	<p>前・後期にそれぞれ5から6の課題の中からひとつを選んで1000字以上のレポートを書いてもらいます。内容はもちろんですが、レポートの書き方の基本を押さえることに注意してください。出席をとり、評価に際して参考にしますが、レポートの評価を優先します。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>ニーチェが中心となりますが、古代ギリシャやキリスト教についての知識が必要です。このふたつについての知識は他のところでも役に立ちますので、勉強してもらいたいと思います。</p>				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋において文化の根底にあるのは言うまでもなくキリスト教です。当然、キリスト教についての知識が要求されますので、数回にわたってキリスト教について論じます。 2. キリスト教について [1] ユダヤ教との関係・歴史的イエス・原始キリスト教会などについて。 3. キリスト教について [2] イエスの教え・パウロの教えについて。キリスト教における罪の概念・終末思想など。 4. キリスト教について [3] ローマ帝国へのキリスト教の広まり・カトリック教会の成立・中世ヨーロッパについて。アウグスティヌスの思想。 5. ルター・カルヴァンの宗教改革・プロテスタンティズムの誕生。17、18 世紀のキリスト教について。近代的意識の成立。特に労働の意味について。 6. 中世の人々の生活、特に職業について考えながら、現代との対比を試みます。 7. ニヒリズムの背景となる 19・20 世紀のキリスト教会、社会思想について。マルクスなど。特に、労働の意味の特質について。 8. キルケゴール「現代の批判」(岩波文庫)を読む。キルケゴールにおける水平化、大衆化の問題としてのニヒリズムについて。キルケゴールにおける主体的真理について。 9. カミュ「シーシュポスの神話」におけるドストエフスキー解釈について。特に自殺の問題をめぐって。 10. ドストエフスキー「罪と罰」「悪霊」を読む。 11. 前回に続き、ドストエフスキーの作品における、超人の問題。ドストエフスキーにおけるニヒリズム克服の試みとその挫折について。 12. ドストエフスキー「カラマゾフの兄弟」に含まれる「大審問官」で自由に関する独特の思想が展開されています。自由についてもう一度考えます。 13. エーリッヒ・フロム「自由からの逃走」を取り上げ、現代人にとっての自由の意味について考えます。 14. ニーチェ「悦ばしき知識」を読む。ニーチェにおける「神の死」の宣告。特に、時代状況との関連に顧慮する。 15. ニーチェ「力への意志」を読み、このニーチェの遺稿を手がかりに、ニーチェにおいてもっとも明瞭に示された「ニヒリズム」とは何かについて。 16. 前回に引き続き、ニーチェの「力への意志」を読む。ニーチェ思想のキーワードとなる「超人」「永遠回帰」「価値転換」などについて。キリスト教批判の問題。 17. ニーチェ「ツアラトゥストラはこう言った」と読む。「超人」「自己超克」について。 18. ニーチェ「道徳の系譜」。この著作で、善や悪が歴史的に形成されていくものとされています。この問題について考察します。 19. ニーチェ「この人を見よ」における「運命愛」について。新たな価値観としての「力への意志」「ディオニュソス的なもの」について。 20. フランクル「夜と霧」フランクルの言う「ニヒリズムの克服」、「生の意味」などについて考える。 21. 前回に続き。「死と愛」「苦悩の存在論」などを併読予定。個と個、個と社会の関係性について。 22. 一年間のまとめとして、さらに広く現代社会におけるニヒリズムの問題とその克服の試みについて考える。 23. 予備 24. 予備
----------------------------	---

科 目 名	人文科学特殊講義 A (日本近代史)	担当者名	中 村 燦
-------	--------------------	------	--------

講義の目標	大東亜戦争の歴史的背景、原因、意義を明治開国に遡って解説論評する。話題となった南京事件、慰安婦問題等にも触れ、その実体に迫る。学生諸君に戦争と歴史と人間についての思索を深めてもらう。この講義は日本人学生を対象とするものである。		
講義概要	資料を配布して講義。 随時ビデオを上映し、レポートを提出してもらう。		
使用教材	テキスト	中村 燦 『大東亜戦争への道』(展転社) " 『慰安婦問題の虚像と実像』(国民会館) " 『(英文)歴史の中の南京事件』	
	参考文献	随時紹介。	
評価方法	平素の勤怠。受講態度。レポート。定期試験。		
受講者に対する要望など	始業時には大きな声で挨拶すること。真剣に授業に臨み、私語や飲食は一切禁ずる。		
年間授業計画	1. 授業概要の説明。 2. 大東亜戦争への道。 3. " 4. " 5. " 6. " 7. " 8. " 9. " 10. " 11. " 12. " 13. 南京事件の実像を考える 14. " 15. " 16. " 17. " 18. 慰安婦その他の諸問題を考える 19. " 20. " 21. " 22. " 23. " 24. "		

科 目 名	人文科学特殊講義 A (西洋美術史)	担当者名	前 川 久美子
-------	--------------------	------	---------

講義の目標	14, 5 世紀のイタリアとアルプス以北の絵画作品を中心に、西洋美術の見方を学ぶ。		
講義概要	1 ~ 4 週で完結するテーマごとに、スライドを使い講義形式で進める。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	参考文献については授業時間中に指示する。	
評価方法	テスト。		
受講者に対する要望など	スライドをよく見て美術作品を具体的に理解して欲しい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 十四世紀前半のイタリア美術 3. ジョットと同時代の画家たち 4. ~ 7. ジョット作「スクロヴェーニ礼拝堂壁画」 8. ジョット以後のイタリア絵画 9. ~ 10. 十四世紀までの北方絵画 11. 国際ゴシック様式 12. 十四、五世紀の芸術家の立場 13. 十五世紀初頭のイタリア美術 14. ~ 16. マザッチオ作「ブランカッチ礼拝堂壁画」 17. マザッチオと同時代の画家たち 18. 遠近法 19. ~ 20. 十五世紀半ばから後半のイタリア絵画 21. 十五世紀の北方絵画 22. ヴァン・エイク作「ヘントの祭壇画」 23. 偽装のシンボリズム 24. 美術作品に「包含された」鑑賞者 		

科目名	経済学	担当者名	松本正信
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>現代経済の実際と理論を知識すること。 - 経済学・社会科学の面白さの一面に、「個人にとって真なる行動も社会全体から見ると必ずしも真ではない、つまり逆もまた真」とか「経済学を学ぶ前の常識と学んだ後の常識とは異なる」といった事があります。しかしもっとも大切な事は経済理論・経済思想がその時代々々の背景とともに変遷してきた事実を見極める事です。その上に立って出来得れば現代世界の政治経済的動向を、人類の未来像へのビジョンを、年間の経済学を通じて探ってみたいと考える。</p>		
講義概要	<p>年間を通じて、ミクロ・マクロの経済理論の概要を講義します。後記の年間授業計画に示す通り、前期ではほぼミクロ経済学を、後期ではほぼマクロ経済学と国際問題を配当します。前期のミクロ理論は個人（消費者）や企業など個々の経済主体が経済合理性にしたがって行動するとき、その経済社会はどのような経済状態を実現することになるか。そのキーワードは価格、市場、外部性等である。後期のマクロ理論は個々の経済主体の行動を社会全体の1つの集合体と考え、その行動を1つの集計量としてとらえるとき、社会全体がどのような状態になるかを分析する。そのキーワードは所得、消費、貯蓄、投資、物価水準、利子率、政府の財政・金融政策等々である。また、国際経済問題では今日の世界経済の実情を概観した上で、その基準理論となる貿易理論（国際文病理論としてのリカードの比較生産費説、ヘクシャ=オーリンの定理等）；資本移動、技術移転などに重点をおきながら将来の国際経済を展望する。これらを講義の目標に関連させるようにする。</p>		
使用教材	テキスト	小野俊夫編著『現代経済学の基礎』学文社	
	参考文献	<p>中谷巖『入門マクロ経済学』日本評論社 伊藤元重『入門ミクロ経済学』日本評論社</p>	
評価方法	<p>前期・後期各期末の定期試験の成績を基本に入れ年間を通じて出席状況を加味して、総合評価する。あくまでも2度の定期試験の成績が基本であり、試験はすべて論述式（論文試験）である。</p>		
受講者に対する要望など	<p>最近の経済事象や歴史的事実にも言及するので、現実の経済動向にも日頃関心を持つよう要望する。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>次の序・終章を含めた 12 の章を 2 - 3 回の講義で進めて行くつもりである。</p> <p>序章（プロローグ）</p> <p>経済学と経済系、現代経済の問題：南北問題と環境問題（地球系と人間系）、人類の経済発展：とりわけ産業革命前と後、ならびに経済思想の変遷（アダム・スミス、リカード、マルサス、シュンペーター、ケインズ等々）、資本主義経済の変遷（とりわけ第二次世界戦争前と後との移り変わり）、現代の経済思想。</p> <p>第 部 ミクロ経済学（価格分析）</p> <p>1 消費の理論</p> <p>（狙いは「需要の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）</p> <p>消費者行動の理論、消費選好理論に基づく解説；消費者の均衡点、価格・消費曲線、個別および社会需要曲線、所得効果と代替効果、代替財（競争財）と補充財、需要の価格（所得）弾力性、消費者余剰。</p> <p>1 章に最後にいたっては、工業製品と農産物の需要の違い、特質を考えてみよう。昨今、ガット・多角的貿易交渉（ウルグアイラウンド）において日本の米の輸入自由化問題が宣伝されているのでこの問題も考えてみよう。</p> <p>2 生産の理論</p> <p>（狙いは「供給の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）</p> <p>生産とは、企業（生産者）行動の理論、費用分析、平均費用と限界費用、損益分岐点と操業中止点、個別および社会供給曲線、短期および長期供給曲線、技術進歩の供給曲線に与える影響、大都市集中の問題。</p> <p>3 市場；マーケット（交換の理論）</p> <p>市場と取引：その形態、市場における均衡と不均衡、市場機構（マーケット・メカニズム）の果たす役割とその効率性、価格の媒介機能（Parametric function of price）部分均衡と一般均衡、マーシャル調整とワルラス調整、くもの巣の理論（農産物価格の形成過程）</p> <p>4 競争の問題</p> <p>競争市場と自由市場、完全競争市場の定義、不完全競争市場の諸形態、独占の問題；ここでは売手独占について考える。独占均衡と独占利潤、完全競争均衡との相違（短期・長期）市場の効率性と資源の最適配分ならびに消費者主権との関連、生産者余剰と社会的余剰；その完全競争者と独占者の相違、社会的余剰の独占による死重的損失、最後にアメリカの生産者が日本の輸出品に対してしばしばなされるダンピング（廉価販売）提訴について考えてみたい。消費者がとるべき態度、消費者教育の問題も考えよう。</p> <p>5 市場の限界と失敗・欠落</p> <p>市場には大なり小なり不完全、ただその程度が問題だ。非価格競争、品質競争、アフター・サービスはよしとして、ビホアー・サービス（ワイロ）談合・慣れ合いはかつてアメリカにもあった。日本でも建設業界ばかりではない。もともと、市場での取引にそぐわない財貨・サービスが増大しているのも現代社会の特質。ゴミをだれが金をだして買いますか。負の価格の意味するもの、一般道路で通行料を徴収するか税で賄うかどちらが効率的か火を見るより明らか。</p> <p>外部経済・不経済、公共財（公共サービス）パブリック・グーティリティ、公的独占と公共料金、投票と納税、パレート最適と社会的厚生。</p> <p>第 部 マクロ経済学（所得分析）</p> <p>6 国民所得の分析</p> <p>マクロ経済学の生成と意義、大恐慌とケインズ思想、修正資本主義と混合経済、第二次世界戦争後の自由主義圏工業先進国の経済成長と現代経済思想。</p> <p>マクロ的経済循環、国民所得の諸概念、総需要・総供給（総生産）あるいは集計需要・集計供給、消費とマクロ消費関数、貯蓄と投資の意義、その行動主体と動機の違い、投資の変動性；投資の限界効率；投資対象の価値、将来の期待収益と割引利率、貯蓄と投資の不均等による均衡国民所得水準の変動、乗数過程、節儉のパラドックス、政府部門と外国貿易を加えた乗数理論、国民所得水準と労働雇用水準との関係。</p> <p>7 貨幣・金融市場</p> <p>金本位制と管理通貨制度；その歴史的意義と機能の違い、銀行のはじまりと近代銀行制度、金融市場における銀行の信用創造過程と貨幣供給、ケインズの流動性選好説と貨幣需要、金融市場の均衡利率いわゆる市場利率</p> <p>8 中央銀行の機能と役割：金融政策</p> <p>現金通貨の発行と通貨価値の維持；その社会的意義と責任、その歴史的・現代的素描、中央銀行の金融政策の主たる手段、とりわけ定歩合操作、公開市場操作とその金融市場に与える効果。</p> <p>9 政府の経済的役割：財政政策</p> <p>政府の経済的役割すなわち経済政策には大きく分けて 2 つ；その 1 つは将来の国民経済の構造をどのような方向に誘導するか、例えば福祉政策、年金制度、農業問題、租税制度、社会基盤整備等々である。もう 1 つは、いわゆる景気の変動に対する調整的機能としてのマクロ経済政策である。ここでは後者の役割を狭義の財政政策（フィスカル・ポリシー）として考える。</p> <p>その見本は 1930 年代前半のアメリカのニュー・ディール政策（当時のルーズベルト大統領による）に見ることができる。政府は財政赤字の時は減税もしくは歳出を増大して短期的には益々赤字が拡大するように、黒字の時には財源があるからといって減税などしないで増税もしくは歳出を削減して益々黒字が拡大するように行動するのが、現代のマクロ経済学の原理なのである。</p> <p>政府も 1 つの主体、その主体の行動としては不合理である。しかし、社会全体、国民経済にとっては合理的なのである。これはひいては政府にとっても長期的には合理的であるはずだ。逆もまた真、パラドックスなる由縁である。</p> <p>分析：政府財政支出と減税の国民所得水準に与える影響、租税体系の変更と国民所得、ラフファーア曲線、完全雇用政策と物価水準安定（貨幣価値の維持）、フィリップ曲線</p> <p>10 財政・金融政策とヒックス＝ハンセン 総合（IS - LM 曲線）</p> <p>ポリシー・ミックスについて、国民生産物市場と貨幣・金融市場の相互作用、これまでのマクロ経済理論の再編とまとめ；IS - LM 分析、古典派の理論；セーの販路法則と完全雇用理論およびその時代的背景、ケインズの有効需要原理と不完全雇用理論、ならびにその時代的背景、現代マネタリストの思想と理論；修正型貨幣数量説、集計供給からみたポスト・ケインズ学派との違い、付論：サプライサイド経済学派とネオ・ケインジアン、景気循環と民主政治、政策のタイム・ラグ。</p> <p>終章（エピローグ） 結びにかえて</p> <p>人間社会と経済と政治と価値観と、経済発展と自然環境、国際貿易；古典派リカードの比較生産費率と現代のオーリン・ヘクシャー理論、現代の貿易不均衡問題、技術移転と資本移動、長期的有効需要の拡大と世界規模化</p>
----------------------------	--

科 目 名	経済原論	担当者名	西村 允 克
-------	------	------	--------

講 義 の 目 標	<p>市場経済を理解するための理論的枠組みを学習することによって、現実の経済問題を正しく理解する力を養うことが、この講義の目的である。経済現象は孤立してあるものではなく、他の経済現象と複雑な複合関係にあることをまず理解してもらいたい。講義では、経済現象を1つ1つ取り上げていくが、それは経済現象間の複雑な複合関係を解くための1つの方法であって、必ずそれは結合させて次の段階へ進むから、絶えず講義で学習した内容を復習しながら学習しなければならない。</p>		
講 義 概 要	<p>現実経済は極めて複雑な組織である。複雑なシステムを理解するためには、システムをそれを構成する基本的要素（供給者と需要者、家計、企業、政府）と基本的要素間の経済関係によって、理論的分析が可能となるモデルに再構築しなければならない。前期では、経済学の最も基礎的なミクロモデルとマクロモデルを学習し、経済理論の基礎的な考え方を理解し、後期の学習の基礎をかためる。前期の前半は経済分析ために必要な基礎知識を学び、後半のモデル分析理解の土台となる学習であるから、常に先に進んでももどって再学習しなければならない。後期は前期のモデル分析をより現実に近いものに拡張し、様々な現実経済問題の理解に進む。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	[新版]「テキストブック現代経済学」吉岡恒明・小口登良編 多賀出版	
	参 考 文 献	講義時に指示	
評 価 方 法	<p>前期と後期の定期試験の結果による。試験問題についての採点基準は講義において注意した点をよく理解して記述されているかである。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>日々の新聞の経済面の見出しに注意し、経済の動きについての常識的理解を深める努力をしてほしい。講義は常に現実の経済の動きに対応している。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 経済学を学ぶための基礎 () 基礎用語 経済主体、経済資源 経済活動 財とサービス 実物資産と金融資産 価格</p> <p>2. 経済学を学ぶための基礎 () 分析ツール 関数と曲線 図の読み方 限界と平均 関数の 変化と曲線のシフト 変数 (独立変数と従属変数)</p> <p>3. 経済学を学ぶための基礎 () 市場モデルの作り方、市場均衡と市場不均衡 短期と長期 (経済与件)</p> <p>4. 国民経済計算 () 付加価値額 国内総生産 国内総支出 グロスとネット 国民1人 当たり国内総生産</p> <p>5. 国民経済計算 () 物価指数 (デフレーター -) 名目値と実質値 経済成長率</p> <p>6. 生産関数と総費用関数 産出量と投入量 限界生産力 完全雇用と不完全雇用 等生産量曲線 総費用関数 固定費用と可変費用 限界費用と可変費用</p> <p>7. 消費関数 限界消費性向と限界貯蓄性向 平均消費性向と平均貯蓄性向</p> <p>8. 価格決定理論 () 需要関数と供給関数 市場均衡の安定分析</p> <p>9. 価格決定理論 () なぜ価格は変化するのか</p> <p>10. 国民所得決定理論 () 簡単なモデル 貿易のない場合の国民所得決定理論 財政政策の国 民所得に及ぼす効果</p> <p>11. 国民所得決定理論 () 貿易を含む場合の国民所得決定理論</p> <p>12. 前期のまとめ</p> <p>13. 貨幣市場の問題 マネーサプライとハイパワードマネー 金融政策 (公定割引歩合 公開市場 操作、予金準備率) 貨幣数量説</p> <p>14. 貨幣需要について 取引動機による貨幣需要と投機的動機による貨幣需要</p> <p>15. IS = LM 分析 () 国民所得と利子率の同時決定理論 IS 曲線と LM 曲線の導出とそ の意味</p> <p>16. IS = LM 分析 () 財政政策は国民所得と利子率をどのように変化させるか 金融政策は国 民所得と利子率をどのように変化させるか</p> <p>17. IS = LM 分析 () 安定分析、現実経済への応用</p> <p>18. 景気変動 () キッチン波動 ジュグラー波動 コンドラチェフ波動 技術革新 独立投資 と従属投資</p> <p>19. 景気変動 () 資本稼働率 バブルと平成不況</p> <p>20. 経済成長論 () (基本概念) 投資の生産力効果 潜在的成長率と現実成長率</p> <p>21. 経済成長論 () なぜ日本は戦後このような高度成長を実現したのか、基本概念を用いなが ら説明する。</p> <p>22. 国際収支 経常収支 (貿易収支 貿易外収支 移転収支) と資本収支、変動相場制 交易条件</p> <p>23. インフレーション フィリップス曲線</p> <p>24. まとめと平成 12 年の日本経済の諸問題</p>
----------------------------	---

科 目 名	政 治 学	担当者名	志 摩 園 子
-------	-------	------	---------

講義の目標	政治学の基本的な概念や政治の構造、仕組みを考え、現社会での政治を理解する上での一つの機会を提供することを目指す。政治においては、人間が主体であるから人間が政治にどのように関わっていけるか。また、国家と個人との関わりも考えてみることで、現代の政治学がもつ課題を検討してみる。		
講義概要	現代社会で大衆の政治に対する無関心が広がっているが、具体的政治事象をとりあげることによって、それぞれの関心を促し、理解を進める手助けとする。参加する各自が、身近な問題や日本の政治の実情、諸外国の政治の実情等から一つ関心のあるテーマを見つけ、一年間それぞれ検討してみることによって、自分達の生活する日本の政治に対しての理解や自分なりの提言を見つけていく。		
使用教材	テキスト	特になし	
	参考文献	必要に応じて示す。	
評価方法	授業への参加態度、前期・後期のレポート		
受講者に対する要望など	学生の発表の機会を多くもつので、積極的な関心をもって参加してくれることを求める。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 政治学とは 2. 政治学とは 3. 政治学と政治 4. 政治学と政治 5. テーマを考えてみる 6. テーマを考えてみる 7. テーマを考えてみる 8. 方法論を考えてみる 9. 方法論を考えてみる 10. 方法論を考えてみる 11. 方法論を考えてみる 12. 予備 13. 前期レポートの発表と検討 14. " 15. " 16. " 17. " 18. " 19. " 20. " 21. 方法論の確認 22. 後期レポートに向けての解説 23. 各自検討してきたことからディスカッション 24. ディスカッションとまとめ 		

科 目 名	日本国憲法	担当者名	元 山 健
-------	-------	------	-------

講義の目標	日本国憲法の基本原理（基本的人権の尊重、国民主権、平和主義）を理解すること。それを通じて一人一人の人間がかけがえない存在であること、そうした自律した個人が連帯しあって良き人生を過ごしていくために、お互いに合意した「人間性の実現のための規範」が憲法であることを理解すること。そして核時代の現代では、民主主義も人権も平和なればこそ活かされることを理解すること。外国学部学生のために、諸外国とくにイギリスとの比較を交えて講義します。また教職・公務員志望の人のことも考えて講義します。		
講義概要	前期は憲法の総論と統治機構（国会、内閣、裁判所）について学習します。まず憲法とはどういう法かという話から始めます。次に日本の憲法の歴史を幕末・維新から現在まで学習します。そして統治の制度と作用について具体的に学習します。ここではいずれも、日本を理解するためにイギリスの制度を比較の対象にとりあげながら学習を進めます。後期は平和主義と人権について学習します。ここでは理論だけでなく、具体的な事件やイギリスの例なども素材にして勉強します。		
使用教材	テキスト	元山健・倉持孝司編『現代憲法 - 日本とイギリス - 』（敬文堂）	
	参考文献	『小六法』（三省堂刊）	
評価方法	前期と後期のテスト。毎回出欠をとり、成績評価に反映させます。		
受講者に対する要望など	遅刻、欠席をしないで、自覚的に授業に臨んでください。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開講にあたって 2. 憲法とは何か 3. 近代憲法の歴史 - イギリスを中心に - 4. 日本憲法史（その1）明治憲法史 5. 日本憲法史（その2）戦後憲法史 6. 国民主権と象徴天皇制 7. 議会制民主主義の歴史と理論 8. 選挙と政党 9. 国会 10. 内閣 11. 司法 12. 地方自治 13. 基本的人権：総論 14. 個人の尊重と幸福追求権 15. 法の下での平等 16. 精神的自由権（その1）総論と思想・良心の自由 17. 精神的自由権（その2）信教の自由 18. 精神的自由権（その3）表現の自由の原理 19. 精神的自由権（その4）表現の自由の諸問題 20. 精神的自由権（その5）学問の自由 21. 社会的経済的権利（その1）経済的自由権 22. 社会的経済的権利（その2）生存権 23. 社会的経済的権利（その3）労働と教育 24. 人身の自由と刑事手続き 		

科目名	教育法	担当者名	市川 須美子
-----	-----	------	--------

講義の目標	戦後教育法制の特徴とその変遷、教育法の概念とその機能的種別、ならびに各種の教育人権など、教育法学の基礎理論の理解の上に、1980年代以降の「子どもの人権裁判」を素材に教育法の現代の問題点を分析し、教育法の体系的理解を目標とする。		
講義概要	前期は、教育法の基本概念である教育人権の概念と、教育における国家の役割を学ぶ。教育法形成に重要な影響を及ぼした基本判例を素材とする。 後期は、現在の教育法の焦点となっている「子どもの人権裁判」を体罰裁判、いじめ裁判、校則裁判、学校教育措置訴訟、教育情報裁判に分類して、論点と課題を検討する。		
使用教材	テキスト	『教育小六法』学陽書房。参考文献は必要不可欠ではありませんが、教育関係法令集は必携です。	
	参考文献	兼子・神田編『ホーンブック教育法』北樹出版 1995年 市川・安達・青木編『教育法学と子どもの人権』三省堂 1998年	
評価方法	前期 レポート（不提出の場合は後期受験不可） 後期 試験（事前に問題を発表する） 小テスト 時々の講義テーマに応じて		
受講者に対する要望など	六法にあまり魅力を感じていない法学部生には、身近な問題から法学的方法を学ぶ機会です。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育法とは何か？ 教育法の機能的三種別、教育条理 2. 戦後教育法制の基本的特徴 戦前法制と比較して 3. 教育法における教育人権と一般人権、教育権力 4. 教師の教育権（1） 5. 教師の教育権（2） 6. 親の教育権（1） 7. 親の教育権（2） 8. 子どもの学習権（1） 9. 子どもの学習権（2） 10. 国家の教育権と国民の教育の自由 最高裁学テ判決 11. 教育の地方自治 教育委員準公選制 12. 前期まとめ 13. 子どもの人権裁判総説 14. 体罰裁判（1） 特徴と論点 15. 体罰裁判（2） 体罰判例の展開と動向 16. いじめ裁判（1） いわきいじめ自殺事件、中野富士見中事件 17. いじめ裁判（2） その後のいじめ判例 18. 校則裁判（1） 中学校校則裁判 19. 校則裁判（2） バイク退学事件・パーマ退学事件 20. 学校教育措置訴訟（1） 特徴と論点、内申書裁判 21. 学校教育措置訴訟（2） エホバの証人生徒退学事件 22. 学校教育措置訴訟（3） 障害生徒入学不許可事件・特殊学級訴訟 23. 教育情報裁判 町田いじめ作文開示請求訴訟 24. まとめ 子どもの人権条約と教育法 		

科目名	民法	担当者名	滝沢昌彦
-----	----	------	------

講義の目標	民法とは市民相互の関係を規律する法律であり、主に財産取引と家族関係について定める。本講義では法学部以外の学生を対象に、一般教養としての民法を講義する。法律学とは単に法律を暗記する学問ではない。「あるべき社会」を求める理論の一端でも紹介できれば幸いである。		
講義概要	民法上の主要な制度を紹介し、その運用上の問題点について解説する。上述のように民法は財産取引と家族関係について定める法律であるが、担当者の専門である財産法を中心に講義する。また、受講者が法律を専門としない学生であることをも考慮して民法以外の法律にも適宜言及し、広く一般的な法律の素養を身につけられるようにしたいと考えている。		
使用教材	テキスト	特に指定しない。ただし六法は各自書店で購入して毎回持参すること。岩波書店「コンパクト六法」、有斐閣「ポケット六法」や三省堂「デイリー六法」等の小型の六法でよい。	
	参考文献	野村豊弘『民法入門』第2版(有斐閣)(1999)	
評価方法	定期試験による。		
受講者に対する要望など	特になし。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序(1)[民法の歴史] 2. 序(2)[民法の構成]: 物権と債権 3. 人(1)[能力者制度]: 未成年、後見制度 4. 人(2)[代理制度]: 代理、表見代理 5. 人(3)[法人制度]: 公益法人(設立手続、機関) 6. 同: 会社制度(有限責任、株式会社) 7. 物(1)[物権総論]: 物権的請求権 8. 同: 物権変動、不動産登記、善意取得制度、債権譲渡(手形・小切手) 9. 同: 善意取得制度、債権譲渡(手形・小切手) 10. 物(2)[物権各論]: 占有権、用益物権 11. 同: 担保物権、執行手続概説 12. 同: その他の債権担保(相殺、保証) 13. 契約(1)[契約総論]: 契約の成立、契約の効力(公序良俗) 14. 同: 契約の効力(意思表示論) 15. 同: 契約違反(同時履行、解除・危険負担、損害賠償) 16. 契約(2)[契約各論]: 売買(瑕疵担保責任) 17. 同: 賃貸借(対抗力、無断譲渡・転貸、契約の終了) 18. 同: その他の契約(請負・委任等、無名契約) 19. 契約以外による責任[事務管理・不当利得] 20. 同[不法行為] 21. 補遺[時効制度]: 取得事項、消滅時効、時効の中断・停止 22. 家族法概説[親族]: 婚姻、親子 23. 同[相続]: 相続、遺言 24. まとめ 		

科目名	国際法	担当者名	廣部 和也
-----	-----	------	-------

講義の目標	国際社会の法である国際法の基礎的知識及び国際社会において法がどのように機能しているかを学ぶ。		
講義概要	国際法の全般を学ぶ予定であるが、1年間ですべてをカバーすることは無理があり、基礎理論、総論的な部分を中心となる。		
使用教材	テキスト	(1) 導入対話による国際法講義 (広部和也・荒木教夫著)(不磨書房) (2) 解説条約集・第8版 (石本泰雄・小田滋編)(三省堂)	
	参考文献		
評価方法	試験による。(中間試験を行う予定である)		
受講者に対する要望など	関心を持って学ぶこと		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義全般に関する注意。 <ul style="list-style-type: none"> ・国際法の意義 ・国際法主体 (国家、国際組織、個人) 2. 国際法の歴史 (国際法はどのように成立し、どのように発展してきたか。) 3. 国際法の法源 (国際法はどのような形で存在するか、それは、また、どのように形成されるか。) 4. 国際法と国内法 (両者の法はどのように異なり、どのような関係にあるのか。) 5. 国家の成立 (国際法上、国家とはどのように定義され、どのようにして国際法上の存在となるのか。) 6. 国家の基本権 (国際法上、国家はどのような権利を持つのか。特にその基本となる主権を中心にその権利がどう行使されるか。) 7. 外交使節 (国家は対外関係をどのように維持するか。外交官及び領事の地位、特権免除) 8. 国家責任 (国際法上の違法行為と国家の責任、損害賠償などの責任の解除) 9. 国際社会の組織化 1 (国際組織とは何か。その形成過程、どのような国際組織があるか。) 10. 国際社会の組織化 2 (国際連合を基本に表決制度や決議の効力がどのようにになっているのか。) 11. 個人の地位 (国籍、外交保護権、など) 12. 人権の国際的保護 (世界人権規約や国際人権規約などによる基本的人権の保護とその保障措置) 13. 国際犯罪 (個人の国際犯罪とその処罰、犯罪人引渡し制度) 14. 国家領域 1 (国家領域とはどのように構成され、国家はどのように取得するか。) 15. 国家領域 2 (領海制度と無害通航権) 16. 公海制度と船舶の通航 (公海、船舶の地位、海域その他の船舶の取締り) 17. 大陸棚、排他的経済水域 (大陸棚や排他的経済水域とはどのようなものか。) 18. 深海底 (深海底とその資源の法的地位及び開発) 19. 航空機の地位 (航空機の地位及び国際的飛行はどのように行なわれるか。) 20. 宇宙法 (宇宙の法的地位、宇宙開発、人工衛星の地位) 21. 国際環境の保護 (人間環境宣言を初めとする国際的環境問題の法的側面) 22. 国際紛争の平和的解決 (国際紛争の解決方法にはどのような方法あるのか) 23. 国際裁判 (国際仲裁裁判と国際司法裁判) 24. 安全保障制度 (国連による集団安全保障体制) 		

科 目 名	国際関係論	担当者名	阿 部 純 一
-------	-------	------	---------

講義の目標	東アジアを中心とした現代国際関係を論じることで、わが国を取り巻く国際情勢への認識を深める。		
講義概要	第1次世界大戦の経験から生まれた国際関係論は、その契機が示すように「戦争と平和」を強く意識した学問分野である。講義では、第2次大戦後の国際関係を、米ソの冷戦を軸に解説するとともに、冷戦後の国際関係のなかで中心的重要性をもつ東アジアの国際関係の現状把握に努める。日米中口という大国の利害が交錯し、かつ ASEAN という地域協力体や APEC という多国間経済協力機構が存在するこの地域は、大国間外交の場であるとともに多国間外交の場でもあり、また朝鮮半島や台湾海峡、南シナ海など潜在的紛争地域を内包している。この地域の動向をフォローすることによって、形成途上にある新たな国際秩序の方向を明らかにしていく。		
使用教材	テキスト	未定	
	参考文献	さしあたり高坂正堯著『現代の国際政治』（講談社学術文庫）	
評価方法	前期はブックレポートを課す。レポート提出者のみが後期試験の受験資格あり。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：国際関係論とは何か、なぜアジアなのか 2. 米ソ冷戦の起源 3. 中国革命、朝鮮戦争、日本の再軍備：アジアに拡大する冷戦 4. 中ソ対立とベトナム戦争 5. 米中和解の衝撃 6. 米ソ・デタント：進展する核軍備管理 7. 新冷戦：日米中戦略提携の時代 8. 民主化の潮流とソ連体制の崩壊 9. ポスト冷戦の世界 10. 東アジアの台頭 11. アメリカ単独覇権の時代 12. (予備日) 13. 21世紀の超大国・中国：建国50年の紆余曲折 14. 21世紀の超大国・中国：外交戦略の変遷 15. 21世紀の超大国・中国：将来への模索 16. 香港：中国返還への過程と現状 17. 台湾：蒋介石・蔣経国の権威主義時代 18. 台湾：李登輝の民主化路線 19. 北朝鮮：金日成・正日体制の形成と発展 20. 韓国：強権政治から民主体制への転換 21. 北朝鮮「核・ミサイル危機」への対応 22. 東南アジア世界の統合：拡大 ASEAN の問題点 23. 総括：21世紀迎えた東アジア国際関係 24. (予備日) 		

科目名	社会学	担当者名	有吉広介
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>現代社会の問題は 18 世紀に始まった産業革命に端を発し、現在も進行している産業化、そして引き続いて今世紀に起こる脱産業化、さらにこれらが引き起こした社会構造の変化とおおいに関係がある。本講義ではこのような視点から、現代のわれわれの日常生活に見られる諸変化と、そこに起こる様々な社会問題とを考える。</p>		
講義概要	<p>豊かで、ゆとりある生活の実現とか、余暇の確保とかがテーマになる時代に、現実には、企業では能率主義的管理体制のもとにサービス残業が求められたり、過労死までもがみられる。その背景には、日本社会の特殊性もあるが、市場原理に結びついた産業化の論理が社会や文化に浸透し、これらを変化させてきた事情がある。核家族化、組織の官僚制化、都市化、流動社会化、学歴主義化、高齢化と少子化、福祉化などもそうした流れのなかで起こる。講義では、産業化が職業生活を含めてわれわれの日常生活のなかで多くの社会問題をどのように生みだしているのかを説明していく。講義の進行は、講義メモを配布して理解を深めることによる。</p>		
使用教材	テキスト	プリントを配る。	
	参考文献	随時紹介	
評価方法	<p>評価は、前・後期の定期試験期間中に各一回おこなう試験の成績による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義に出席し、そこで要点を把握すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学の先駆者サン・シモンやオーギュスト・コントなどにおける社会学のテーマ 2. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解 3. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解 4. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解 5. 社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方 6. 社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方 7. 現代の職業構造の分析 8. 雇用社会と職業的キャリア 9. 産業社会における知識の性格と教育 10. 日本の近代化、教育システム、および学歴社会 11. 社会的不平等の諸次元 12. 不平等の構造化 13. 社会移動の現実 14. 日本の階層社会と社会移動 15. 管理社会の中核としての官僚制 16. 近代的経営の社会構造 17. 日本的組織構造 18. 都市化と地域社会 19. 家族の定義・類型、そして核家族化・少子化 20. 家族のライフサイクルの変化 21. 高齢化社会の人口学的および社会学的分析 22. 高齢化社会における社会問題 23. 生活の質を考える 24. まとめ
----------------------------	---

科 目 名	社会思想史	担当者名	市 川 達 人
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>私たちの政治や経済に関する見方・考え方を支配している近代的社会観の生成を、その誕生の時点に溯って理解することを目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>西欧近代の社会認識の発展史がテーマである。ルネッサンスから始めて、宗教改革、イギリス市民革命、フランス啓蒙期を經由し 19 世紀の社会主義思想までをたどることになる。</p> <p>近代という時代への懐疑が深まっている今、その近代を西欧の社会理論はどのように理解してきたのかを明らかにすることが必要である。それぞれの時代を代表する思想家にスポットを当てながら、自然権、所有、権力、平等、自由、労働などの概念に注意を払っていく。揺らん期の経済学や政治学の思想的哲学的基礎を明らかにすることとなる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	「社会思想の歴史」渋谷 一郎編 八千代出版	
	参考文献	講義中に指示。	
評 価 方 法	<p>学年末の試験によって評価。場合によっては夏休みにレポートを要求することもある。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	なし		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間予定。講義の目的と課題。講師の問題意識。 2. 思想史の方法。社会とは。社会像の歴史的類型などについて。 3. 近代市民社会とは（西欧的社会観の原形と展開） 4. ルネッサンスと都市 5. マキャベリと『君主論』 6. ユートピア思想とは。 7. トマス・モアと『ユートピア』 8. 中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派 9. ルターの改革運動と神学 10. ルターの経済思想。 11. カルヴィニズムと近代化 12. 前期のまとめ 13. 自然法思想の歴史 14. ホッブズの人間観と自然権思想 15. ホッブズの国家論 16. ロックの市民社会論 17. ロックの所有権理論とリベラリズム 18. フランス啓蒙思想（ヴォルテール、ディドロ） 19. ルソーの啓蒙批判と社会批判 20. アダム・スミスと経済的自由主義 21. 社会主義思想の諸潮流 22. マルクスの思想（1） 23. マルクスの思想（2） 24. 後期のまとめ
----------------------------	---

科 目 名	社会思想史	担当者名	松 丸 壽 雄
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	歴史観、社会観をみずからの判断のもとで形成することができるように、批判的なものの見方、考え方を身につけることを目標とする。		
講 義 概 要	それぞれの時代の社会には、歴史的状況、文化的背景などにより、異なったものの考え方が生じる。それは社会をどう考えるかという思想までに展開することもあるし、時代の単なる風潮として表層的な現象にとどまることもある。これらの現象を掘り下げ、社会に対する思想とその底にある自我意識の形成を西洋中世から近代にかけての魔女裁判と錬金術思想において分析する。これを日本の江戸時代から近代にかけての「おかげまいり」や舶来崇拜と比較し、日本人の社会思想と自我意識を検討する。		
使 用 教 材	テキスト	なし。	
	参 考 文 献	講義中に指示。	
評 価 方 法	最低年2回のレポートと授業への貢献度（ディスカッション時の積極性）により評価。受講生が多い場合には、筆記試験も考え得る。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	他人のレポートを写したり、あるいは本を写しただけのレポートもある。これは評価に値しない。調べたことをもとに自分で考えてレポートを作成してほしい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明。 2. 異端審問制度成立以前のヨーロッパ社会。 3. 異端審問制度の成立。 4. 異端審問制度の変質。 5. 異端審問から魔女裁判へ。 6. 異端者と魔女。 7. 映画「バラの名前」の鑑賞1。 8. 映画「バラの名前」の鑑賞2と映画中の中世的諸現象の説明。 9. ヨーロッパの中世の精神的・社会的状況と魔女裁判の位置づけ。 10. 魔女裁判の終焉とヨーロッパにおける自我意識の変遷。 11. 現代と魔女裁判。 12. できれば、ディスカッション。 13. 錬金術の歴史。古代からアレクサンドリア文化まで。 14. アラブ世界における錬金術思想とギリシア哲学。 15. ヨーロッパ中世における錬金術思想。 16. 錬金術と予言と近代科学・医学。 17. 錬金術思想における自我意識とキリスト教の精神的・社会的状況。 18. 江戸時代における宗教的熱狂と社会状況。 19. 明治時代における開化思想と社会観。 20. 明治時代の開化思想の文化的・精神史的背景。 21. 開化思想に見られる自我意識と社会意識。 22. 江戸・明治時代における芸術作品に見られる世界観と自我意識。 23. ヨーロッパ中世における芸術作品に見られる世界観と自我意識。 24. できれば、現代日本における自我意識についてのディスカッション。
----------------------------	--

科 目 名	社会心理学	担当者名	三 本 茂
-------	-------	------	-------

講義の目標	<p>- 集団と文化の社会心理学 - 人間は、他の動物に比べて集団への依存性が極めて高い。集団の成員として生きる人間の「社会的動物」としての行動の特色を考察する。</p> <p>集団の構造とその機能、および集団成員の行動様式としての文化を取り上げ、文化によって形成される集団的パーソナリティの特徴について考察する。</p>		
講義概要	<p>まず社会集団の特質とその形成過程を取り上げ、次いで集団内の行動様式としての文化の特性について考察する。</p> <p>次に特定の文化圏で生活する人々に認められるパーソナリティの共通性を「集団的パーソナリティ」として考察する。</p> <p>事例として、ネパール高地民族であるシェルパ族の生活の様子や「シェルパ気質」を紹介したい。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	途中で紹介する。	
評価方法	前期に提出するレポートと後期の筆記試験の結果を併せて評価する。		
受講者に対する要望など	自分の知りたいことをあらかじめ考えて授業に参加して欲しい。質問を出して欲しい。		
年間授業計画	<p>集団の形成過程 集団参加の動機 集団の機能 集団規範と同調行動 集団内のコミュニケーション リーダーシップ 文化の特性 文化とパーソナリティ 社会化の過程 集団的パーソナリティ 事例研究</p> <p>各2回程度の講義を行う。</p>		

科 目 名	文化人類学	担当者名	井 上 兼 行
-------	-------	------	---------

講義の目標	文化人類学は、文明社会から最も遠い位置にある未開社会の文化を、異文化として理解し、同時にそれを通してわれわれの文化についても理解を深めようとする学問である。学問の歴史、事例を通じてそのおおよそを知る。		
講義概要	文化人類学形成の歴史を通して、未開社会の文化に対するこの学問の態度を明らかにし、次いでその独特の研究方法を述べる。そのあとは、いくつかの事例を通して異文化理解の仕方を示し、またそこからわれわれの文化をどのように考えることができるかを説明してゆく。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	随時紹介する。	
評価方法	定期試験期間の試験によって評価する。		
受講者に対する要望など	以下に示す日程はあくまでも暫定的なものである（順序はこの通りである）ことを念頭に置いてほしい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序 どんな学問か。 2. 学問形成の歴史 (1) スペイン人のインディオ観 3. " (2) " 4. " (3) 16C 後半 ~ 18C 後半の西欧人の未開人観 5. " (4) 18C 後半 ~ 19C 後半の西欧人の未開人観 6. 19C 後半 文化人類学の誕生 (1)"文化" の概念 7. " (2)"文化" の概念 8. " (3)"進化" の概念 9. 19C 末 ~ 20C 初 現代の文化人類学へ 10. 研究方法としての " 実地調査 " (1) 11. " (2) 12. これ以降は事例研究になる。テーマは今のところ未定。これまでの話の脈絡から決めてゆく。 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 		

科 目 名	社会科学特殊講義 A (文化人類学特殊講義)	担当者名	井 上 兼 行
-------	------------------------	------	---------

講義の目標	副題をつけるとすれば、「未開社会の宗教と世界観 アフリカを中心として」ということになる。宗教を、われわれには理解しにくい、あやしげな迷信と捉えるのではなく、そこにどのような世界認識をみることができるか、という視点で話をする。こうして異文化を理解する方向に向かうことができるし、ひいてはわれわれの世界観を意識化できる面もある。その糸口をつくりたい。		
講義概要	ここでは、神話や昔話のような言葉によって世界観が表明されているもの、また儀礼、祭りといった、行動からかれらの見方を考えていかなければならないものを取り上げる。いくつかのテーマを選んで順次話をしてゆくが、年間講義予定については第1回の講義においてその大枠を述べる。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	随時紹介する。	
評価方法	登録者の数にもよるが、基本的には試験を行って評価するよう考えている。		
受講者に対する要望など	文化人類学の単位をとっているか、2年生以上で関係ある本を読んで、ある程度知識をもっていることが望ましい。全く知識のない1年生は、わからず、ほとんどのものがやめている。		
年間授業計画	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.		

科 目 名	社会科学特殊講義 A (広告論)	担当者名	梶 山 皓
-------	--------------------	------	-------

講 義 の 目 標	現代社会における広告の機能や役割を明らかにします。また企業の広告活動を、マーケティングとコミュニケーションの視点から解説します。		
講 義 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や団体が広告をなぜ行うか、どのように広告を計画し実施するかを学びます。 2. 社会風俗や価値観、倫理・法的な面から、現代の広告現象を考えます。 3. マスコミ、メディア、広告業界の仕組みや動向を取り上げます。 4. マーケティング活動やコミュニケーション過程の原理を明らかにします。 5. TV・CMを通して、日米のビジネス観やコミュニケーションの違いを探ります。 		
使 用 教 材	テキスト	梶山皓著『広告入門』日経文庫。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> * 八巻俊雄・梶山皓『広告読本』東洋経済新報社。 * 『広告に携わる人の総合講座』日経広告研究所。 * W. Wells: Advertising, Principles and Practice, Prentice-Hall, 1997 * S. W. Dunn: Advertising, Its Role in Modern Marketing, Dryden Press, 1994. 	
評 価 方 法	試験は通常前・後期に行いますが、後期だけの年もあります。問題は4～5題で、講義内容と教科書から出題します。随時出席をとって評価の参考にします。なお試験時の「教科書持ち込み」や「問題の予告」、定期試験に代わるレポートの提出はありません。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	できるだけ2年生か3年生で履修して下さい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広告をなぜ学ぶか (Introduction) 広告を学ぶと、社会の近未来が見えてくる。また物事のポジティブな面を的確にとらえる習慣が身に付く。 2. 広告の定義 (Ad. Definition) 広告という言葉の語源は、古フランス語やラテン語で「振り向かせる」「注意を引く」という意味である。 3. 広告の定義 (Ad. Definition) 広告という言葉は、しばしば PR、広報、宣伝、プロモーションなどと混同して間違った使われ方をしている。 4. 広告の機能 (Role of Ad.) 広告には情報を伝える機能がある。このほかに人を説得する機能、広告主と受け手の関係を強化する機能がある。 5. 広告の種類 (Ad. Classification) 広告を代表するのは、消費財広告、ビジネス広告のように商業目的に使われる広告である。 6. 広告の種類 (Ad. Classification) 広告には、公共広告、意見広告、政治広告のように、市民の啓蒙や世論の喚起に使われるものがある。 7. 広告主 (Advertisers) アメリカの広告費は邦貨で年間約 20 兆円で、世界の約半分を一国で占める。日本は世界 2 位で約 6 兆円である。 8. 広告主 (Advertisers) 広告主は、広告活動を効果的に行うために広告活動を策定する。また企業内に広告組織を編成して実施に当たる。 9. 広告会社 (Ad. Agency) 広告会社は、広告コミュニケーションを企画し実施する専門集団である。日米では広告ビジネスの進め方が異なる。 10. 広告会社 (Ad. Agency) 広告会社には色々な形態や組織がある。広告会社の収入源の多くは、媒体手数料という古い習慣に基づいている。 11. 広告メディア (Ad. Media) 広告メディアには、マスメディアから看板やチラシまで色々な種類があり、広く活用されている。 12. 広告メディア (Ad. Media) マルチメディア時代を迎えて、衛星放送、双方向 CATV、インターネットなどの新しいメディアが広告界を揺さぶっている。 13. マーケティングの基本理念 (Marketing Principles) マーケティングは消費者志向の概念である。最近は環境問題などの新しい価値観の影響を受けている。 14. 戦略企業計画 (Strategic Planning) 戦略計画はアメリカで発達した経営理論で、マーケティングをサブシステムとする企業経営の全体計画である。 15. マーケティング・ミクス (Marketing Mix) 企業は、製品開発、価格の設定、流通チャネルの選択、プロモーションの相乗効果によって企業間競争を進める。 16. プロモーション・ミクス (Promotion Mix) 製品の販売は、広告、セールスマン、SP (セールスプロモーション) PR などの力を合体化させて行う。 17. コミュニケーションの原理 (Communication) 広告はマスコミを手段とした社会的なコミュニケーションであり、受け手に様々な心理的影響を与える。 18. コミュニケーションの原理 (Communication) 消費者には、マスコミによる新しい情報を受け入れる人と、従来の習慣に固執する人がいる。 19. DAGMAR の理論 (DAGMAR) 広告効果は、売上高にではなくコミュニケーション効果に置くべきだという考え方があり、広告理論に大きな影響を与えている。 20. 広告階層モデル (Ad. Hierarchy Model) 人々は製品の属性を調べてから買うのか、それとも買った後に調べるのか、衝動買いはなぜ起きるのかなどを考える。 21. 広告計画 (Ad. Planning) 広告活動は、広告目標の設定、予算策定、広告表現の決定、媒体選択、効果測定という一連の過程を経て進める。 22. 広告計画 (Ad. Planning) 広告計画の中では、広告表現の方針を決めることと、広告を運ぶメディアを選ぶことがとくに重要である。 23. 広告規制 (Ad. Regulation) 広告は、倫理や公序良俗の面と法律の両面から規制を受けている。規制の内容は時代によって、国によって異なっている。 24. 広告の将来 (Ad. Future) 広告はどのような方向に進むのか、これからの広告ビジネスや広告人に何が求められるかを考える。
----------------------------	---

科 目 名	社会科学特殊講義 A (マスコミュニケーション論)	担当者名	佐々木 輝 美
-------	---------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	マス・コミュニケーションに関する基本用語、概念などを説明することができ、且つ、それらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになることを目標とする。		
講 義 概 要	本講義への導入として、先ずコミュニケーションの基礎について説明する。次の数週間で、マス・コミュニケーションのモデル及び効果について解説し、マス・コミュニケーションの全体像を捉えてもらう。その後、前期の後半はマスコミと教育の問題を、そして後期は、マス・コミュニケーションの「影響研究」を中心に講義を行う予定。影響研究については、特に「メディア暴力の視聴者への影響」を中心テーマとして扱う。		
使 用 教 材	テキスト	(前期) プリント (後期) 佐々木輝美『メディアと暴力』勁草書房、1996	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・岡崎篤郎他編著『マス・コミュニケーション効果研究の展開』北樹出版、1992 ・H.J.アイゼンク他著 岩脇三良訳 『性・暴力・メディア』新曜社、1982 	
評 価 方 法	定期試験、レポート、平常点の総合評価を行う。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	(前期)	
	1. マス・コミュニケーションとは	
	2. コミュニケーションについての基礎知識(1) - プロセスの概念について -	
	3. コミュニケーションについての基礎知識(2) - 意味はどこに存在するか? -	
	4. コミュニケーションについての基礎知識(3) - メディア接触について -	
	5. マス・コミュニケーションのモデルについて(1) - モデルの長所と短所 -	
	6. マス・コミュニケーションのモデルについて(2) - マス・コミュニケーションの要素 -	
	7. ビデオ視聴&解説 (レポートは1000字程度にまとめる)	(レポート課題発表)
	8. マスコミ効果の概念について(1) - 効果とは -	
	9. マスコミ効果の概念について(2) - 順機能と逆機能 -	(レポート提出締切り)
	10. マス・コミュニケーションと教育(1)	
	11. マス・コミュニケーションと教育(2)	
12. 前期のまとめ		
(後期)		
1. マスコミの影響研究について(1) - 弾丸理論 -		
2. マスコミの影響研究について(2) - 限定効果モデル -		
3. マスコミの影響研究について(3) - 適度効果モデルから強力効果モデルへ -		
4. メディア暴力研究について(1) - 研究の背景 -		
5. メディア暴力研究について(2) - カタルシス理論 -		
6. メディア暴力研究について(3) - 観察学習理論 -		
7. メディア暴力研究について(4) - 脱感作理論 -		
8. メディア暴力研究について(5) - カルティベーション理論 -		
9. ビデオ視聴&解説 (レポートは1000字程度にまとめる)	(レポート課題発表)	
10. メディア暴力研究について(6) - 4理論のまとめ(暴力番組の類型化) -		
11. メディア暴力研究について(7) - メディア暴力への対応 -	(レポート提出締切り)	
12. 後期のまとめ		

科 目 名	社会科学特殊講義 A (イスラム (原理) 主義過激思想)	担当者名	藤 原 和 彦
-------	-------------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>「イスラム原理主義」と呼ばれる宗教・政治運動が今、中東から中央アジアにかけての広大な地域を揺るがしている。ソ連を崩壊に追い込む一大要因となったのも原理主義運動だった。ムジャーヒディーン (イスラム聖戦士) と呼ばれたアフガニスタンの原理主義ゲリラは、1979年同国に侵攻したソ連を長年の消耗戦に引きずり込んで、その屋台骨を揺るがしたからだ。講義では、今世紀原理主義運動の嚆矢となり、イスラム世界に大きな影響を与えたエジプトの「ムスリム同胞団」の歴史を学び、現代原理主義運動の理解に迫る。</p>		
講 義 概 要	<p>毎時限の講義は (1) ムスリム同胞団に関する英文テキストの読解 (2) 原理主義運動を中心とした中東・中央アジアの政治・社会情勢の時事解説 (3) イスラム教を中心とした中東・中央アジア事情のビデオによる紹介 の3部構成とする。(1)については、前期はムスリム同胞団史テキストを読解、後期は同胞団創始者ハッサン・アル・バンナの英文プロフィールを読解する。また、イスラム原理主義の基本的理解に必要なイスラム教述語 (アラビア語と英語) も並行して解説する。(2)については、講師 (藤原) が雑誌や新聞に執筆する各種レポートを教材とする。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>毎時限の講義開始時、ムスリム同胞団史などの英文読解用テキストをはじめ必要なテキスト (講師執筆レポートや「現代用語の基礎知識」など) は、コピーして配布する。</p>	
	参考文献	<p>板垣雄三・佐藤次高編『概説イスラーム史』(有斐閣) 1986 山内昌之『現代のイスラーム』(朝日選書) 1983 山内昌之『イスラームと国際政治』(岩波新書) 1998 中村廣治郎『イスラームと近代』(岩波書店) 1997 小杉泰『イスラームとは何か』(講談社現代新書) 1994 宮田律『イスラーム政治運動』(日本経済新聞社) 1996</p>	
評 価 方 法	<p>前期、後期各1回のレポートによる</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>とくになし。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. [イントロダクション] セム族唯一神教の系譜。イスラム教とユダヤ教、キリスト教との関係。イスラム教創始者、預言者ムハンマドの生涯など。 2. イスラム教多数派スンニー派と少数派シーア派の関係。他に、中東言語に関する解説。イスラム教言語アラビア語の他言語への影響など。 3. イスラム教戒律の解説。シャリーア（イスラム法）の意味。原理主義とシャリーアの適用運動。食物禁忌、巡礼、利息の禁止など。 4. 英文テキスト「同胞団」の読解 = 創設者ハッサン・アル・バンナの生地デルタ地帯の現状。バンナの同胞団タイトル「総ガイド」の意味など。 5. 英文テキスト「同胞団」の読解続き = セム族唯一神教における「律法」の意味。イスラムの律法シャリーア（イスラム法）について解説。 6. 英文テキスト「同胞団」の読解続き = 1920年代から40年代にかけての同胞団の歴史。地下活動とテロ。バンナ自身の暗殺など。 7. 英文テキスト「同胞団」の読解続き = エジプト共和国第2代大統領でアラブ民族主義の英雄ガマル・アブド・ナーセルの解説。 8. 英文テキスト「同胞団」の読解続き = イスラム原理主義とアラブ民族主義との関係。民族主義に対するアラブ大衆の幻滅、その“受け皿”としての原理主義運動の台頭。 9. 英文テキスト「同胞団」の読解続き = ナーセルと第3次中東戦争の大敗北。同胞団員のアレキサンドリアでのナーセル暗殺未遂事件とナーセルによる同胞団大弾圧。 10. 英文テキスト「同胞団」の読解続き = 同胞団過激イデオログ、サイド・クトゥブの登場。ジャーヒリーヤ理論。本格的な過激主義運動の開始など。 11. 英文テキスト「同胞団」の読解続き = サイド・クトゥブを中心にしたイスラム原理主義イデオロギーの系譜。中世の原理主義思想家イブン・タイミーヤとモンゴルの襲来など。 12. 英文テキスト「同胞団」の読解続き = アンワル・サーダート第3代大統領の治世から現代まで。同胞団から派生した過激原理主義運動「ガマア・イスラミヤ」など。 13. 英文テキスト「同胞団」の読解続き = エジプト以外の同胞団運動（1）パレスチナの同胞団と、同胞団が母体となった過激運動ハマス。 14. 英文テキスト「同胞団」の読解続き = エジプト以外の同胞団運動（2）シリアの同胞団運動。アサド政権とシーア派ヌサイリー派。1980年代初めの大弾圧など。 15. 英文テキスト「アル・バンナ」読解 = ハンバリー派とイスラム教4法学派の存在。シャリーアの法源解説など。 16. 英文テキスト「アル・バンナ」読解続き = ウラマーとイスラム教聖職者。異端色の濃いシーア派小宗派「グラウ」。トルコのアレビ派、シリアのヌサイリ派など。 17. 英文テキスト「アル・バンナ」読解続き = スーフイズム（イスラム教神秘主義）ハサフィヤの会員だったバンナ。スーフイズムの解説など。 18. 英文テキスト「アル・バンナ」読解続き = コーランとハディースとシーラ（ムハンマドの伝記的研究）。「ムハンマドと正統4代カリフの時代に帰れ」と叫ぶ原理主義。 19. 英文テキスト「アル・バンナ」読解続き = スエズ運河の町イスマイリーヤの独特の雰囲気。この町が同胞団発祥の地になった意味。 20. 英文テキスト「アル・バンナ」読解続き = ポートサイド、スエズ市などスエズ運河沿い主要都市の現状と歴史。日本が資金支援の「スエズ運河架橋」建設の意味について。 21. 英文テキスト「アル・バンナ」読解続き = 同胞団組織の拡大。バンナと王室、政府有力者との関係など解説。 22. 英文テキスト「アル・バンナ」読解続き = 同胞団と第1次中東（パレスチナ）戦争。同胞団と「自由将校団」中でもアンワル・サーダート（後の第3代大統領）との関係など。 23. 英文テキスト「アル・バンナ」読解続き = 同胞団の最近の指導者たち。同胞団の分裂と新党「ワサト」の動き。同府団と職能組合の関係など。 24. 英文テキスト「アル・バンナ」読解続き = エジプト過激組織「ジハード」とサウジアラビア出身の“テロのファイナンシャー”オサマ・ビンラーデンの関係など。
----------------------------	---

科 目 名	社会科学特殊講義 A (国際社会と中東)	担当者名	水 口 章
-------	----------------------	------	-------

講 義 の 目 標	日本人から見ると、石油・砂漠・ピラミッドのイメージの中東地域は国際社会において、どのような国際関係を維持し、発展して来ているかを考察し、中東と日本関係を考える一助としたい。		
講 義 概 要	前期授業では、中東地域の基礎的知識の理解に努める。後期授業では、中東地域の諸問題が国際社会にどのような影響を与えているかを学生との討論形式の授業を通し考えていきたい。		
使 用 教 材	テキスト		
	参 考 文 献	「イスラーム世界」小杉泰著、筑摩書房 「イミダス」集英社 「世界経済システムと西アジア」山根学、森賀千景共著、矢碩書院 「中東」大月書店	
評 価 方 法	出席点を1回2点、前期・後期の各レポートを各25点満点とし、その他宿題、授業での発表を加点する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	新聞、テレビのニュースを通し、国際動向への理解を深める。 授業では積極的に発言をする。		

年 間 授 業 計 画	1. 中東地域の特色	
	中東という概念と中東の多様性について	
	2. A. 中東の日常生活	
	(1) イスラムの日常生活を中心に	
	3. (2) 家族・女性問題を中心に	
	4. (3) 衣服・住居を中心に	
	5. B. 中東の文明の流れ	
	(1) 王朝の略史	
	6. (2) 王朝の略史	
	7. (3) 技術の伝承を中心に	
	8. (4) 政治思想の潮流 アラブ民族主義	
	9. (5) 政治思想の潮流 イスラム復興運動	
	10. C. 現代中東諸国の国家類型	
	(1) 統治システムより	
	11. (2) 司法システムより	
	12. (3) 経済構造より	
	13. D. 国際社会と中東	
	14. (1) 中東和平プロセスの変遷	
	(2) 中東和平プロセスの問題点	
	15. (3) 中東和平と米国	
	16. (4) 中東和平とヨーロッパ・日本	
	17. (6) 湾岸地域の安全保障	国境問題
	18. (7) 湾岸地域の安全保障	第1次・第2次湾岸戦争
	19. (8) 湾岸地域の安全保障	国際社会の対応
20. (9) 湾岸地域の安全保障	湾岸諸国の政治的安定性	
21. (10) 石油と世界経済	石油・天然ガス事情	
22. (11) 石油と世界経済	エネルギー問題の現状と将来	
23. (12) 石油と世界経済	OPEC、メジャー	
24. (13) 石油と世界経済	わが国のエネルギー政策	

科 目 名	社会科学特殊講義 A (貿易実務)	担当者名	山 崎 静 光
-------	-------------------	------	---------

講 義 の 目 標	貿易の実務を引き合いの段階からクレームの解決まで時間的な順序に従って説明し、将来貿易に従事しない学生には一般教養としての知識を与え、貿易に従事する学生には本格的な企業内研修への準備とする。		
講 義 概 要	取引の前段階として一般的な事項、例えば打ち切りと代理商商い、買い越しと売り越し、現物と先物などを理解させ、以後引き合い、契約、受け渡し、支払、入金 of 段階を追ってそこに出てくる用語、取引技術を説明する。その際絶えず既知の事実に戻り全体との連関をつかませ、同じ用語の理解が段階を進むにつれて深まっていくようにする。さらに簿記、会計、法律、経済学、歴史、言語などの隣接科学、また時事問題にも触れて興味を起こさせることを図る。		
使 用 教 材	テキスト	貿易実務基礎講座 (物産研修センター刊)	
	参考文献	山崎 静光「輸出入手続ハンドブック」(中央経済社刊)	
評 価 方 法	学年試験の成績による。 中間試験は行うが、単位を与えるか否かの境界線上の者についての参考とするにとどめ、学年試験を受けなかった者には単位を与えない。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業中に理解することを心掛け、質問、教師に対する批判を活発にし、双方向の発信のあるクラスにするのに寄与して下さい。前期の終わりや学年末に、教務部のものとは別に授業評価を求め、feedback をしている。		

年 間 授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1 . orientation 2 . 貿易取引の前段階 3 . " 4 . " 5 . . 引き合い段階 - 値段を出す - インコタームズ 6 . " 7 . 運賃 - 海上輸送一般 8 . 海上保険 9 . 採算の立て方 10 . 与信 - 荷為替 11 . " 。前期授業の評価 12 . 信用状。授業評価に対する回答 13 . 前期試験の講評。信用状 14 . D/P、D/A 取引 15 . " 。カントリーリスク - 貿易制限の諸形態 16 . オファー 17 . " 18 . . 契約段階 - 契約書、契約履行の管理 19 . 為替 20 . " 21 . . 受け渡し段階 22 . 船積書類 23 . " 。輸入 24 . . 支払段階。 . クレーム。通年授業の評価
----------------------------	--

科 目 名	社会科学特殊講義 A (現代国際社会の統合と分裂)	担当者名	若 林 広
-------	---------------------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>本講では、21 世紀の現代世界が直面する複雑な種々の問題（地域紛争、南北格差、先進国間摩擦、環境破壊、国連の強化、経済統合の進展等）の理解を目標に、その根本には、近代国民国家とは何かとの理解が必須と考え、国家論の理論的、歴史的理解の後、個々の地域に関しても、その歴史的側面に常に言及しながら、検討を加えていく。</p>		
講 義 概 要	<p>冷戦後の現代世界は、核の脅威こそ大幅に減じたものの、世界各地で発生する地域・民族紛争や、イスラム原理主義運動といった文明的・宗教的対立の問題、さらには、南北格差、先進国間摩擦、地球環境破壊等、多くの経済問題をもいまだ抱えている。現代には、このように世界を分裂的、破壊的方向へ導く力が存在する一方で、安全保障、環境問題等における国連中心主義の強化、ミレニアム・ラウンドが象徴する国際貿易体制の強化、さらには、EU等の統合の進展といった、全地球及び地域レベルでの種々の問題解決への模索もなされている。本講では、これら諸問題の根本には、国民国家に対する種々の方向からの挑戦があると考え、まず、国民国家概念の理論的側面に検討を加える。更にはこれら分裂・破壊的、及び統合・協力的な動きを、諸地域の例に即して検討を加えていく。受講者数にもよるが、後半の各地域を扱う後期においては出来れば受講生諸君が選んでくる諸地域に関する論文をクラス全員で読んでゆきたい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	未定（プリント等を配布の予定）	
	参考文献	そのつど指示する。	
評 価 方 法	<p>基本的には、学年度末の試験によるが、後期、論文を読む場合には各人の発表内容・出席・質問等を通じた積極的な授業への参加等により評価する。発表を出来なかったものについてはレポートの提出による場合もある。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業の理解と積極的な参加のため、新聞の国際面と経済面には、常に目を通しておく事。論文を読むときは必ず事前に読んできて、自分の分からない点を明らかにして授業に臨むこと。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際関係論とは何か(1) 学問の成立から発展まで 2. 国際関係論とは何か(2) 国際関係論による国際社会の把握 3. 国際関係論とは何か(3) 主要な学派と国民国家概念 4. 国民国家とはなにか(1) その起源と歴史的展開 5. 国民国家とはなにか(2) 現代の国民国家像 6. 伝統的国民国家像の変容 例(1) 欧州連合(1) 7. 伝統的国民国家像の変容 例(1) 欧州連合(2) 8. 伝統的国民国家像の変容 例(1) 欧州連合(3) 9. 伝統的国民国家像の変容 例(2) ベルギーにおける分権化(1) 10. 伝統的国民国家像の変容 例(2) ベルギーにおける分権化(1) 11. 伝統的国民国家像の変容 例(3) ユーゴスラビアの分裂 12. 伝統的国民国家像の変容 例(4) ラテン・アメリカの経済リジョナリズム 13. 諸地域に関する論文の発表 14. 諸地域に関する論文の発表 15. 諸地域に関する論文の発表 16. 諸地域に関する論文の発表 17. 諸地域に関する論文の発表 18. 諸地域に関する論文の発表 19. 諸地域に関する論文の発表 20. 諸地域に関する論文の発表 21. 諸地域に関する論文の発表 22. 諸地域に関する論文の発表 23. まとめ 24. 予備日
----------------------------	--

科目名	物理学	担当者名	東 孝 博
-----	-----	------	-------

講義の目標	現代物理学の基礎の一つである相対性理論を通して、人間の自然に対する認識の方法について考える。とくに、科学と非科学の違いに留意し、「科学的」ということはどういうことなのかについて考えていきたい。		
講義概要	前期を特殊相対論（光の速度、同時概念の相対性、時間・空間概念の変更等）後期を一般相対論（等価原理、重力の幾何学化、ブラックホール、宇宙論等）に充てる。		
使用教材	テキスト	とくになし。	
	参考文献	適宜紹介する。授業では視聴覚教材も使用する。	
評価方法	日常の授業への参加態度、前・後期各1回の課題で評価を付ける予定。		
受講者に対する要望など	毎回の「授業レポート」によりコミュニケーションを図り、双方向授業を心掛けますので、積極的に参加して下さい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグ - 現代物理学を学ぶ意味 2. 飛行機の中でもワインが注げる訳 - 相対性原理 3. 光の正体 - 電気と磁気の基本法則 4. 光にも速度がある！？ - 光速の測定方法 5. 光の速度で走りながら光を見たら？ - 光速一定の原理 6. どっちが先？ - 同時概念の相対性 7. 時間が遅れる - 時間概念の相対性 8. 空間が縮む - 空間概念の相対性 9. 18歳の少女に恋した47歳の科学者の戦略 - 「浦島効果」 10. どっちが若い？ - 双子のパラドックス 11. 時間も空間も一緒 - 4次元の世界 12. 原子爆弾！ - $E = mc^2$ 13. エレベータの綱が切れたら - 等価原理 14. 宇宙空間にいるのか？ - 一般相対性原理 15. 空間も曲がる - 重力の幾何学化 16. 天才の発明 - アインシュタインの重力場方程式 17. 観測結果と一致！ - 光路の曲がり・水星の近日点移動 18. 光も出られない蟻地獄 - ブラックホール 19. 宇宙の将来はどうなるの？ - 膨張宇宙 20. 宇宙、宇宙と簡単に言うけれど - 宇宙の空間的・時間的広がり 21. 始めに光ありき - ビッグバン宇宙 22. 暗黒物質・銀河の種・インフレ宇宙 - 現代宇宙論の諸問題 23. 宇宙人さん、こんにちわ - 地球外文明探査 24. エピローグ - 再び、現代物理学を学ぶ意味 		

科 目 名	生 物 学 A	担当者名	加 藤 信 重
-------	---------	------	---------

講義の目標	近年、自然観察を楽しむ人が多くなってきているが、それだけ身近な自然環境が破壊されている証でもあろう。 担当者の専門である植物分類形態学の立場で、日本のフロラ、生態系の特徴等を説明するが、受講生自身にも色々な調査をしてもらう。		
講義概要	日本の自然の実態を知るために各種新聞・雑誌等の記事を利用しながら講義を進める。		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	図鑑類、解説書（全7～8冊）、講義中に紹介するので購入すること。	
評価方法	出席回数、通常のレポート、夏季休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。		
受講者に対する要望など	講義の性質上、人物名・地名が多数出るので、歴史・地理学の常識が必要である。また学名（ラテン語）を多数暗記してもらう。受講希望者が多い場合、最初の日にテストを行う。この日に出席しない学生の受講は認めない。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 一年間の講義の進め方を説明。特に現在問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読む必要があること、またそれについてのレポート提出が多いことを説明する。 2. 北半球の植生を知る 1 ヨーロッパと日本 3. 北半球の植生を知る 2 北アメリカと日本 4. 北半球の植生を知る 3 中国と日本 5. 日本植生の特徴 4 亜寒帯から亜熱帯まで（温量指数と乾湿指数） 6. 日本植生の特徴 5 中央構造線とフォッサマグナ 7. 日本植生の特徴 6 対応種（ミヤコザサ線とは？） 8. 日本植生の特徴 7 固有種を紹介する 9. 日本植生の特徴 8 固有種を紹介する 10. 日本植生の特徴 9 固有種を紹介する 11. 1935年にA. G. Tansleyが提唱した生態系 12. 日本植生の特徴 10 カンアオイ属とギフチョウ属の分化 13. 身近な植物の形態 1 根・茎・葉・花・果実 14. 身近な植物の形態 2 広義のバラ科 15. 身近な植物の形態 3 広義のコリ科 16. 身近な植物の形態 4 広義のセリ科 17. 身近な植物の形態 6 真果と偽果 18. 身近な植物の形態 7 ミカンとカキ 19. 身近な植物の形態 8 節（茎と葉の接部）と節型 20. 身近な植物の形態 9 子葉の形態の節型 21. 身近な植物の形態 10 節型からみた維管束植物の進化 22. 豊かな日本の自然を守る諸団体を紹介 1 23. 豊かな日本の自然を守る諸団体を紹介 2 24. 一年のまとめ 		

科目名	生物学 B	担当者名	加藤 偉重
-----	-------	------	-------

講義の目標	身近な自然を注意深く観察出来るようになることを目指す。		
講義概要	普段、見過ごしている普通の種類を材料に、現代の生物学が抱える問題にスポットを当てて講義を進めたい。そのためにも新聞・雑誌等に目を通すことが肝要である。原則として毎回特定のテーマについてのレポートを提出してもらう。		
使用教材	テキスト	使用しない	
	参考文献	講義中に必要に応じてコピー配布をする。	
評価方法	出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。		
受講者に対する要望など	生物観察に関心があること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>序論</u> 一年間の講義の進め方を説明。特に現在問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読む必要があること、またそれについてのレポート提出が多いことを説明する。 2. <u>実験室内における心得</u> 実験室の器具等の扱い方を説明。 3. <u>キャンパス・ウォッチング</u> 種を区別するポイントを説明。 4. <u>身近な植物の観察</u> 見なれた花の構造を観察。 5. <u>顕微鏡の使用法</u> 実際の顕微鏡に慣れてもらう。 6. <u>顕微鏡の使用法</u> ミクロメーターの使用法。 7. <u>顕微鏡の使用法</u> 単位面積当りの細胞数を数える。 8. <u>キャンパス・ウォッチング</u> 五感を働かせる 9. <u>身近な植物の観察</u> 見慣れた果実の解剖。 10. <u>トピックス</u> 新聞・雑誌等の記事を読む。 11. <u>身近な植物の観察</u> 見慣れた種の葉の形態を観察する。 12. <u>身近な自然</u> 夏期休暇のレポートを書くための説明。 13. <u>種の多様性保全条約</u> なぜ他の生物を守らなければならないか。 14. <u>身近な植物の観察</u> スイカズラ科の特殊な形態を観察する。 15. <u>身近な植物の観察</u> 身近なブナ科植物を観察する。 16. <u>ワシントン条約</u> 身近な“絶滅の危機に瀕している動植物”の観察する 17. <u>身近な植物の観察</u> 秋の果実を観察する。 18. <u>身近な植物の観察</u> 生産構造図を描く。 19. <u>身近な植物の観察</u> 紅葉・黄葉の観察。 20. <u>分類に使われるキー・キャラクターとは</u> デンドログラムを描く。 21. <u>分類に使われるキー・キャラクターとは</u> ブナ科植物の場合。 22. <u>レポートの整理</u> 観察結果をより良いレポートにする方法を説明する。 23. <u>トピックス</u> 新聞・雑誌の記事を読む。 24. <u>まとめ</u> 一年のまとめと試験の説明。 		

科 目 名	自然科学特殊講義 A (植物と人間)	担当者名	加 藤 信 重
-------	--------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>普段、あまりに見慣れた種類のために注意深く観察することのない植物を材料として人類の交流を想像してみたい。</p>		
講 義 概 要	<p>身近な生物を理解するためにも、幅広く種類を選び、様々な文献を参考に講義を進めたい。受講生は新聞・雑誌等をまめに目を通してほしい。 必要に応じて一定のテーマについてのレポートを提出してもらおう。</p>		
使 用 教 材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	講義中に必要に応じてコピー配布をする。	
評 価 方 法	出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業の性質上、受講希望者は生物学 A または B および外国文学概論等の講義をすでに履修済みであること。最初の日には簡単なテストを行うので、必ず出席すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. <u>序論</u> 一年間の講義の進め方を説明。</p> <p>2. <u>遺跡から出た植物遺骸</u> 1 ヒトが利用した植物を地域ごとに紹介 1</p> <p>3. <u>遺跡から出た植物遺骸</u> 2 ヒトが利用した植物を地域ごとに紹介 2</p> <p>4. <u>遺跡から出た植物遺骸</u> 3 ヒトが利用した植物を地域ごとに紹介 3</p> <p>5. <u>トピックス</u> 英語や日本語の新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。</p> <p>6. <u>栽培植物の起源</u> 1 何を植栽したか、民族による違いを説明 1</p> <p>7. <u>栽培植物の起源</u> 2 何を植栽したか、民族による違いを説明 2</p> <p>8. <u>栽培植物の起源</u> 3 何を植栽したか、民族による違いを説明 3</p> <p>9. <u>日本文化の基盤をなす植物</u> 縄文時代・弥生時代を特徴づける植物。</p> <p>10. <u>日本文化の基盤をなす植物</u> 江戸時代を特徴づける植物</p> <p>11. <u>日本文化の基盤をなす植物</u> 日欧交流史を特徴づける植物</p> <p>12. <u>前期のまとめ</u> 授業内容をまとめ、併せて夏休みのレポートを説明</p> <p>13. <u>後期の序論</u> 後期の講義進め方を説明</p> <p>14. <u>夏期休暇中の読書紹介</u> 1 受講生一人ひとりに講演をしてもらう。</p> <p>15. <u>日本文化の基盤をなす植物</u> 南蛮人の持ってきた植物。</p> <p>16. <u>トピックス</u> 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。</p> <p>17. <u>日光御成街道沿いの植木村</u>。</p> <p>18. <u>朝顔と菊人形</u>。</p> <p>19. <u>夏期休暇中の読書紹介</u> 2 受講生一人ひとりに講演をしてもらう。</p> <p>20. <u>夏期休暇中の読書紹介</u> 3 受講生一人ひとりに講演をもらう。</p> <p>21. <u>ツェンベリー、シーボルト、ペリー、モースの役割</u>。</p> <p>22. <u>夏期休暇中の読書紹介</u> 4 受講生一人ひとりに講演をもらう。</p> <p>23. <u>夏期休暇中の読書紹介</u> 4 受講生一人ひとりに講演をもらう。</p> <p>24. <u>まとめ</u> 一年間のまとめと試験の説明。</p>
----------------------------	---

科 目 名	自然科学特殊講義 A (化学)	担当者名	和 田 浩 志
-------	-----------------	------	---------

講義の目標	<p>普段あまり意識していない身近な化学物質や化学的な現象を広く見渡し、自然界の不思議さや人類の英知を化学の面から再認識する。</p> <p>また、近年社会問題になっている化学物質について、化学的に理解を深めるとともに、その背景にある問題点を把握し、その解決方法を探る。</p>		
講義概要	<p>甘味料、香料、香辛料、麻薬、覚せい剤、毒物、薬、色素、洗剤、環境汚染物質など身近にある化学物質の構造式をテーマごとに眺めながら、そこに見られる共通性や異質性、有用性や危険性などについて講義する。構造式になじみがなくても理解できるように、なるべく実物に触れたり簡単な実験を行う。</p> <p>また、最近の新聞や雑誌などで話題になっている化学物質についても随時取り上げる。</p>		
使用教材	テキスト	参考資料としてプリントを配布する。	
	参考文献	講義の中で適宜紹介する。	
評価方法	出席回数、受講態度、課題レポート、定期試験の結果を総合して評価する。		
受講者に対する要望など	<p>高校時代に化学を選択していなくてもまったく問題はない。ただし、ただ聞くだけという受身の姿勢ではなく、問題意識や自分なりの考え方を持って臨む積極的な受講態度が必要である。</p>		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに：年間予定と講義内容 2. 溶液の化学(1)：水の構造と特性 おいしい水と安全な水 3. 溶液の化学(2)：天然洗剤と合成洗剤 4. 溶液の化学(3)：界面活性剤の特徴とその応用 5. 環境の化学(1)：酸性雨と水質汚濁 6. 環境の化学(2)：地球温暖化とオゾン層破壊 7. 環境の化学(3)：内分泌かく乱化学物質(環境ホルモン) 8. 味の化学(1)：天然甘味物質 9. 味の化学(2)：人工甘味料と味覚変革物質 10. 味の化学(3)：苦味物質と酸味物質 11. 香りの化学(1)：香りの本体とその応用 12. 香りの化学(2)：香辛料とその効用 13. 食品の化学(1)：お茶の成分と効用 14. 食品の化学(2)：ポリフェノールと活性酸素 15. 毒と薬の化学(1)：天然毒(植物毒、キノコ毒、カビ毒など) 16. 毒と薬の化学(2)：人工毒(農薬、毒ガスなど) 17. 毒と薬の化学(3)：麻薬、覚せい剤、幻覚剤など 18. 毒と薬の化学(4)：人体と薬 19. 毒と薬の化学(5)：生薬と合成医薬品 20. 色素の化学(1)：花と紅葉の色素 21. 色素の化学(2)：天然色素と合成色素 22. 生態の化学(1)：有用物質を介した生物界の相互作用 23. 生態の化学(2)：有害物質を介した生物界の相互作用 24. まとめ 		

科 目 名	コンピュータ入門（98年度以降入学者）	担当者名	（半期）各担当教員
-------	---------------------	------	-----------

講義の目標	<p><外国語学部コンピュータ科目レベル=0> 現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。 この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。 とくに大学生活（広くは社会生活）で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p>		
講義概要	<p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。 内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク（通信）、情報処理についてである。</p>		
使用教材	テキスト	<p>本学情報センター発行のもの。</p>	
	参考文献	<p>授業中、随時紹介する。</p>	
評価方法	<p>授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>実習を中心とした授業なので、欠席、遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。第1回目の授業で、使用教材や授業で必要なものを指示する。欠席した場合にはその後の受講は認めない。</p>		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作 2. ウィンドウ入門 - ウィンドウ操作とフロッピーディスクの取り扱い 3. タイピングと日本語入力 4. インターネット - ブラウザ・メール・図書検索（1） 5. インターネット - ブラウザ・メール・図書検索（2） 6. ワープロ入門 - 文書の編集と印刷（1） 7. ワープロ入門 - 文書の編集と印刷（2） 8. ワープロ入門 - 文書の編集と印刷（3） 9. ワープロ入門 - 文書の編集と印刷（4） 10. ワープロ入門 - 英文ワープロ（1） 11. ワープロ入門 - 英文ワープロ（2） 12. 情報倫理 		

科 目 名	情報科学概論（98年度以降入学者）	担当者名	呉 浩 東
-------	-------------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>本講義では、はじめて情報科学とコンピュータの勉強をされる学生たちを念頭におき、情報科学とコンピュータリテラシの話からスタートし、コンピュータの歴史と仕組み、情報のデジタル化とコンピュータによるデータの表現や、コンピュータの原理を紹介する。その後で、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術に重点をおき、コンピュータ利用技術に関するさまざまな知識を概説する。本講義は情報処理技術者試験を受験しようとする学生たちに、また、コンピュータを中心とした情報科学に深い興味をもつ学生たちに十分に役立つように工夫している。</p>		
講 義 概 要	<p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に情報の符号化、数値や文字などデータのコンピュータ内での表現、データの入出力、プログラム構造、ファイルとデータベースの構造、データベース管理システムの概要、データ通信とコンピュータ・ネットワーク、特にインターネットについて述べる。最後に、情報システム的设计、情報セキュリティについて解説する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>(1) 最初の講義で指示する。 (2) 随時必要な資料をファイルで配布する。</p>	
	参考文献	<p>適宜紹介します。</p>	
評 価 方 法	<p>前・後期各一度のテストと、レポートの提出および出席を加味して評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>「コンピュータ入門」を既修または平行履修のこと。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の概略 年間の講義概要、評価の方法と基準、授業の進め方 2. 情報とは何か 情報の持つ性質、情報の形態、情報とデータ、機械文明と情報 3. コンピュータの歴史と特徴 計算機械の変遷とコンピュータの世代論、コンピュータの定義 4. コンピュータ・ハードウェアの概略 中央処理装置、記憶装置、入力装置、出力装置、補助記憶装置 5. データ表現 情報量の単位と文字コード、数値データの種類 6. 数の体系と基数変換 2進数と16進数、基数変換 7. 論理演算 論理演算の種類、真理値表 8. コンピュータ・ソフトウェアの概略 ソフトウェアの役割、体系と種類 9. オペレーティングシステム(OS) OSの基礎概念、OSの構成と機能 10. コンピュータ言語 コンピュータ言語の目的と分類 11. 基本データ構造 木構造、配列構造、リスト構造、スタック構造、キュー構造 12. ファイルの構造 ファイルの構造、種類、用途 13. ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発、プログラミング、システムテストと保守 14. データベース データベースの概要、データベースの種類 15. データベースの管理システム DBMS DBMSの条件、機能、分散データベース 16. データベース言語 データベース記述言語と操作言語の概要、データベースの定義と操作 17. データベースの設計 データベース構築の手順、設計の事例、データの正規化 18. コンピュータ通信 情報通信の基礎、データ転送のしくみ 19. コンピュータ・ネットワーク コンピュータ・ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式 20. インターネット インターネットの仕組み、通信規約 TCP/IP、DNS、サーバクライアントモデル 21. インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど 22. インターネットと社会 インターネット通信の特徴、ネットワークセキュリティ、暗号システムの基礎 23. 情報処理システム 情報管理の必要性、情報処理システムの構成、システムの評価 24. コンピュータ・セキュリティ 情報化社会の問題点と倫理
----------------------------	---

科 目 名	言 語 学	担当者名	新 里 博 樹
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義では、言語の一般的特性を探る研究法を研究史の流れに沿って概観するとともに、その研究成果として得られた一般的特性の諸点、および言語観を概説していく。その中で、言語に対する多様なまなざしを涵養し、言語について考える姿勢を養うことを目標とする。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は主として講義が中心となる。古代から現代にいたる言語学の発展の軌跡をたどりつつ、言語学における問題意識の推移を跡付け、“言語学の父”と呼ばれるフェルディナン・ド・ソシュールの言語観を学ぶ。後期は、討論形式を導入して、ソシュールの言語理論を出発点に、二十世紀における言語学を概観しながら、言語の一般的性質や役割などを考察する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	言語学入門 / 田中春美・五十嵐康男他著 / 大修館書店	
	参考文献	話題が多岐にわたるので、その都度、提示・紹介する。	
評 価 方 法	<p>年度末のレポートが中心となる。また、随時、授業時に出欠代わりの小レポートを課することもある。出席すればよいということではなく、授業への参加（質問したり、意見を述べるなど）の度合いを加味する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>特別な予習は必要としないが、真剣な思考と討議とを求める。また、参考文献は入手しやすいものを、その都度、提示紹介するので、できるだけ目を通して講義内容の理解に役立てて欲しい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとして、年間の講義概要の解説、および、評価の方法と基準の説明を行い、導入として、「言語学」とはどういう学問か、について論じる。 2. 言語学にはどのような研究分野があるかということ、および、その研究方法を概観するとともに、隣接領域との関わりについて考える。 3. 言語学の歴史と発展（第一回） / 「言語学以前」 人間の言語に対する関心の在り方の始源の段階について考察する。 4. 言語学の歴史と発展（第二回） / 「古代の言語研究」 古代における言語研究を、ギリシア・ローマについて概観する。 5. 言語学の歴史と発展（第三回） / 「古代の言語研究」 古代における言語研究を、インド・中国について概観する。 6. 言語学の歴史と発展（第四回） / 「中世の言語研究」 中世前期（ルネッサンス以前）における言語研究を概観する。 7. 言語学の歴史と発展（第五回） / 「中世の言語研究」 中世後期（ルネッサンス以後）における言語研究を概観する。 8. 言語学の歴史と発展（第六回） / 「近世の言語研究」 - 言語起源論 近代前期（17～18世紀）における言語研究を概観する。 9. 言語学の歴史と発展（第七回） / 「近世の言語研究」 - 比較・歴史言語学 近代後期（19世紀）における言語研究を概観する。 10. ソシュールの言語理論 / 現代言語学の夜明け 通時論と共時論・ラングとパロール・記号観など基礎的な概念を解説する。 11. ソシュールの言語理論 / 恣意性・分節性・線状性 etc. 言語の記号としての特質についてソシュールの理論を整理し、理解を深める。 12. 前期の総括と後期への展望 13. 前期のレポートの返却、および講評 後期の予定の確認 14. ソシュールの言語理論 / ソシュールの位置と影響 ソシュールの言語理論の背景と、その後への影響について整理し、理解を深める。 15. 言語の一般的特性 / 記号性・体系性 etc. 前期のソシュールの言語理論をもとに、言語の一般的特性を考察する。 16. 言語の一般的特性 / 言語の単位とその構造 構造主義言語学の立場から見た、言語の一般的特性を考察する。 17. 言語の一般的特性 / 言語の生産性と定型性 生成論の立場から見た、言語の一般的特性を整理考察する。 18. 言語の機能 / 伝達機能 言語の機能のうち、伝達に関わる働きの種々相について論議する。 19. 言語の機能 / 非伝達機能 言語の機能のうち、直接的に伝達に関わらない働きの種々相について論議する。 20. 言語の機能 / 認識機能 言語の機能のうち、認識に関わる働きの種々相について論議する。 21. 言語と生活 言語の一般的特性・機能を生活という観点から見直し、論議する。 22. 言語と社会 言語と社会のとの関わりについて、その基本的な問題を整理し、論議する。 23. 言語と文化 言語と文化のとの関わりについて、その基本的な問題を整理し、論議する。 24. 総括 / 年間の講義・議論を振り返り、まとめる。
----------------------------	--

科 目 名	言 語 学	担当者名	井 口 厚 夫
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	言語学の一般的な知識を得る。		
講 義 概 要	<p>言語学とは何かを問う。英語や日本語といった個別の言語ではなく、全ての人間言語が持つ特徴について触れるとともに、言語を分類するとどのようになるかも論じる。抽象的な議論も多いので、コトバに興味のない人は取らないほうがいいだろう。興味のある人にはいろいろな逸話が出て面白いと思うが、それらに興味のない人にとっては酒のつまみにもならない。</p> <p>教科書は分かりやすいが、日本語の例が少ないので講義中に補っていく。この他にも随時詳述したり省いたりするので必ずしも教科書通りに進むわけではない。教科書と講義が相補的になる場合もある。あらかじめ指定された箇所を読んでこない講義はわからないので予習が必要。</p>		
使 用 教 材	テキスト	「言語学」(湯川恭敏著、ひつじ書房) 2800 円	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	レポートの予定。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	聞いているだけなら面白い授業だが(多分)教科書の丸暗記では単位は取れない。講義と教科書、そして自分のアイデア、それをサポートするデータが要求される。		

年 間 授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1. 人間言語の特徴 - ミツパチの“コトバ” 2. 人間言語の普遍性 3. 音声学 - 1 音の仕組み・一般論 4. 音声学 - 2 音の仕組み その2 5. 音声学 - 3 外国語との対照 6. 音韻論 - rice と lice、または空耳アワー 7. 音韻論 - 日本語の「ん」「っ」とは何か 8. 音韻論 - モーラと英語の俳句、韻を踏む 9. 文法のカテゴリー - テンス・アスペクト・性・数など 10. 品詞の話 11. 形態論 - “レスカ”の秘密 12. 統語論 - 「血まみれの泥棒」・生成文法の理念・言語習得 13. 意味論・語用論 - “Where were you on the bike at that time?” “On the seat.” 14. 言語の系統（歴史的1）英語などのルーツ 15. 言語の系統（歴史的2）泥沼の日本語のルーツ 16. 言語変化（地理的）方言、または日本アホバカ分布図 17. 言語変化（歴史的1）英語の変化 18. 言語変化（歴史的2）日本語の変化 19. 言語接触 - ビジン・クリオール「高いないよ」 20. 言語変化（現代）「ら抜き」言葉、言語生活 21. 社会言語学 22. 二言語使用（バイリンガリズム） 23. 言語と文化 24. コンピュータと言語、機械用辞書の話
----------------------------	---

科 目 名	情報科学各論 (コンピュータ初級 - 表計算・データベース入門)	担当者名	(半期) 松山恵美子
-------	-------------------------------------	------	------------

講義の目標	この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。		
講義概要	この授業では、コンピュータによる表計算・データベース操作の初歩を学びます。また、コンピュータネットワークを利用した情報の収集と収集されたデータの整理・活用も扱います。		
使用教材	テキスト	第1回目の授業で指示します。	
	参考文献	授業中、随時紹介します。	
評価方法	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価します。		
受講者に対する要望など	「コンピュータ入門」修了者か、または、それと同等程度のもをを対象とします。教室のコンピュータの台数にあわせて受講者を選抜します。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. 表計算入門 表の作成・編集と表計算、グラフの作成・装飾・印刷(1) 3. 表計算入門 表の作成・編集と表計算、グラフの作成・装飾・印刷(2) 4. 表計算入門 表の作成・編集と表計算、グラフの作成・装飾・印刷(3) 5. データベースの操作 データベースの作成・整備、データの検索・抽出(1) 6. データベースの操作 データベースの作成・整備、データの検索・抽出(2) 7. データベースの操作 データベースの作成・整備、データの検索・抽出(3) 8. インターネット 情報の収集と活用(1) 9. インターネット 情報の収集と活用(2) 10. インターネット 情報の収集と活用(3) 11. 総合演習(1) 12. 総合演習(2) 		

科 目 名	情報科学各論（コンピュータ初級 - HTML 入門）	担当者名	（半期）各担当教官
-------	----------------------------	------	-----------

講義の目標	この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。		
講義概要	この授業では、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学びます。また、簡単な自分自身のホームページの試作もしてみます。		
使用教材	テキスト	授業で指示します。	
	参考文献	授業中、随時紹介します。	
評価方法	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価します。		
受講者に対する要望など	「コンピュータ入門」修了者か、または、それと同等程度のもをを対象とします。教室のコンピュータの台数にあわせて受講者を選抜します。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW と WWW ブラウザ 3. ページの構造と HTML 4. ホームページの作成 - テキスト 5. ホームページの作成 - リンク 6. ホームページの作成 - イメージ 7. ホームページの作成 - サウンド 8. ホームページの作成 - テーブル 9. ホームページの作成 - その他 10. ネットワークにおけるフォルダ構造とファイル転送 11. ホームページの更新 12. インターネットと情報倫理 		

科 目 名	情報科学各論 (コンピュータ中級 - データベース 1, 2)	担当者名	前 田 功 雄
-------	------------------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義はデータベースについて、その扱い方、作り方等について学ぶ。前期にはデータベース専用ではないが、通常は十分と思われるソフトウェア、Excel のデータベースについてその基本を学び、特にクロス集計については統計的な関連などに触れるつもりである。後期にはデータベース専用ソフトである、Microsoft Access についてその扱い方、作り方等について述べる。特に複数のデータベースの扱い方やマルチメディア、たとえば写真などの扱い方にも触れる。</p>		
講 義 概 要	<p>本講義のねらいは、あらゆる情報がうずまく中で、如何に的確な情報を取り込むかについての方法的なひとつの答えとしてデータベースについて述べる。データベース用のソフトはかなり沢山のものが出回っているが、前期では Excel、後期には Access を中心に述べるつもりである。これらのソフトは Microsoft Office として含まれているものであり、かなり一般的なものである。また当然のことであるがコンピュータにある程度なれていることが必要である。</p>		
使 用 教 材	テキスト	「情報処理と Windows - Windows98 対応」、共立出版、2000	
	参 考 文 献	授業中に随時述べる。	
評 価 方 法	レポートまたはテスト		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	まじめに出ること。		

年 間 授 業 計 画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データベースとは。コンピュータによるデータの検索とは。 2. データベースの作り方および扱い方。用語について。 3. 既存のデータベースである Excel のデータベース機能について見よう。 4. 「百人一首データベース」とは。収録和歌集別に和歌を分類してみよう。 5. 特定の順序での並べ替え。 6. 簡単な集計。作者職業別集計や和歌分類毎の和歌の分類。 7. レコードの検索。AND 検索や OR 検索。 8. オートフィルタによるレコードの抽出。 9. 和歌の上の句や下の句に、たとえば、“恋” という字が含まれている和歌の抽出。 10. データベース関数。2 項目間のクロス集計。 11. データベースへのデータ入力。 12. データベース総合。 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. データベース専用ソフト Access について。 14. Access とは。Access の起動。Access の終了。 15. Access の基本操作。テーブル、クエリー、フォーム、レポート。 16. Access によるデータベースの作成。フィールドの定義。追加。削除。 17. クエリーによるデータ検索。 18. フォームの作成。 19. ポートレイトをとる。デジタルカメラの実習。 20. 住所録データベースを作る。 21. 住所録データベースに写真を貼り付ける。データベースの圧縮。 22. 出身高校データベースを作る。 23. 特定高校の出身者を抽出する。 24. レポート作成。データベース総合。
----------------------------	--

科 目 名	情報科学各論（音の構造 1）	担当者名	（前期）伊豆山敦子
-------	----------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>人間の言語音の調音機構を観察し、その調音・聴取の訓練を行う。そしてその表記の方法を習得する。</p> <p>一般的に、人間の言語音にはどんなものがあり、どのような構造をなしているかを学ぶ。それは言語研究の基礎である。</p> <p>さらに、音声はその言語で果たしている機能はどういうものか、日本語を例として考える。この講義により、無意識に習得した自国語の音声に対する、客観的認識が得られることを期待する。そして外国語習得・教育などに役立てることを期待する。</p>		
講 義 概 要	<p>国際音声字母表を用いながら、調音音声学的訓練を行う、個々の単音の調音を説明し、発音をし分け、それを聞き分けることを教える。そして、音声表記ができるようにする。当然、自国語の音声面に対する観察をすることになる。</p> <p>さらに、そのことから、音声の果たす機能に着目するようになり、音韻論の基礎を自国語・日本語で学ぶ。</p> <p>受講者人数にもよるが、各人が音声学的知識を身につけ、音声を観察することができるようになることを、主眼とした授業である。</p>		
使 用 教 材	テキスト	小泉保『音声学入門』（1996）大学書林	
	参考文献	服部四郎『音声学』（1984）岩波書店 川上泰『日本語音声概説』（1977）おうふう 風間喜代三 et al.『言語学』（1993）東京大学出版会 城生伯太郎『音声学』アポロン工業社	
評 価 方 法	<p>授業中に随時行う単音聴取テストへの参加。</p> <p>前期・後期各1回の聴取テストと筆記試験。</p> <p>以上の総合により評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>単音を聞き取り、発音するということは、自分自身の問題である。授業で聴き、教われば分かるものも、一人で教科書などを読むだけでは分かり難い。休まず出席することを要望する。</p>		

(前期)

1. 音声学とは。
2. 気流と発声 (p.5 ~ 23)
3. 調音器官 (p.23 ~ 30)
4. 母音
5. 有声・無声 鼻腔・口腔
6. 両唇閉鎖音
7. 両唇摩擦音
8. 唇歯音
9. 歯・歯茎閉鎖音
10. 歯・歯茎摩擦音
11. 破擦音
12. テスト

科 目 名	情報科学各論（音の構造 2）	担当者名	（後期）伊豆山敦子
-------	----------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>人間の言語音の調音機構を観察し、その調音・聴取の訓練を行う。そしてその表記の方法を習得する。</p> <p>一般的に、人間の言語音にはどんなものがあり、どのような構造をなしているかを学ぶ。それは言語研究の基礎である。</p> <p>さらに、音声はその言語で果たしている機能はどういうものか、日本語を例として考える。</p> <p>この講義により、無意識に習得した自国語の音声に対する、客観的認識が得られることを期待する。そして外国語習得・教育などに役立てることを期待する。</p>				
講 義 概 要	<p>国際音声字母表を用いながら、調音音声学的訓練を行う、個々の単音の調音を説明し、発音をし分け、それを聞き分けることを教える。そして、音声表記ができるようにする。当然、自国語の音声面に対する観察をすることになる。</p> <p>さらに、そのことから、音声の果たす機能に着目するようになり、音韻論の基礎を自国語・日本語で学ぶ。</p> <p>受講者人数にもよるが、各人が音声学的知識を身につけ、音声を観察することができるようになることを、主眼とした授業である。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>小泉保『音声学入門』（1996）大学書林</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> 服部四郎『音声学』（1984）岩波書店 川上泰『日本語音声概説』（1977）おうふう 風間喜代三 et al.『言語学』（1993）東京大学出版会 城生伯太郎『音声学』アポロン工業社 </td> </tr> </table>	テキスト	小泉保『音声学入門』（1996）大学書林	参考文献	服部四郎『音声学』（1984）岩波書店 川上泰『日本語音声概説』（1977）おうふう 風間喜代三 et al.『言語学』（1993）東京大学出版会 城生伯太郎『音声学』アポロン工業社
テキスト	小泉保『音声学入門』（1996）大学書林				
参考文献	服部四郎『音声学』（1984）岩波書店 川上泰『日本語音声概説』（1977）おうふう 風間喜代三 et al.『言語学』（1993）東京大学出版会 城生伯太郎『音声学』アポロン工業社				
評 価 方 法	<p>授業中に随時行う単音聴取テストへの参加。</p> <p>前期・後期各1回の聴取テストと筆記試験。</p> <p>以上の総合により評価する。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>この講義は前期開講の情報科学各論（音の構造 1）の習得を前提とする。</p>				

年
間
授
業
計
画

1. テスト講評と復習
2. 硬口蓋音
3. 軟口蓋音
4. 口蓋垂音
5. 側面音
6. ふるえ音・はじき音
7. 接近音
8. 副次調音 (p.70 ~ 83)
9. 鼻母音
10. 日本語の音素 (p.142 ~ 146)
11. 日本語の音素 (p.142 ~ 146)
12. テスト

科 目 名	情報科学各論 (コンピュータ初級 - プレゼンテーション)	担当者名	(半期)金 井 満
-------	----------------------------------	------	-----------

講義の目標	この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一步踏み出すために設けられているものです。		
講義概要	この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけでなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらつための手法を学びます。		
使用教材	テキスト	授業で指示します。	
	参考文献	授業中、随時紹介します。	
評価方法	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価します。		
受講者に対する要望など		「コンピュータ入門」修了者か、または、それと同等程度のもをを対象とします。プレゼンテーション用ソフトウェアの学習ですので、積極的に参加し、アピールのできる学生以外には向きません。教室のコンピュータの台数にあわせて受講者を選抜します。	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. 画像や音を取り込もう 5. 動画を取り込もう 6. 他のソフトも一緒に便利に使おう 7. アニメーションでアクセントをつけよう 8. プレゼンテーション用の資料を作ろう 9. その他の便利な使い方 10. プレゼンテーションのリハーサル 11. プレゼンテーションしてみよう 1 12. プレゼンテーションしてみよう 2 		

科 目 名	日本語学概論	担当者名	金田一 秀 穂
-------	--------	------	---------

講義の目標	<p>母語である日本語を客観化するための視座を提供すること。日本語は、私たちの思考や感情を決定しているものかもしれない。その可能性や限界を少しでも明らかにしたい。</p> <p>ふだんの生活の中で言葉を使っている、それが講義の後で、ほんの少しでも違って感じられるようになったらいいな、と思います。</p>			
講義概要	<p>音声、語彙、文法と意味について各外国語との対照も適宜行う。意見や考えを求めながら、基本的な知識と、その応用的考え方を紹介したい。出発であり、まとめでありたい。</p>			
使用教材	テキスト	使用せず		
	参考文献	玉村文郎編 日本語を学ぶ人のために 世界思想社 工藤浩ほか 日本語要説 ひつじ書房 林大編 図説日本語 角川書店(古書)		
評価方法	前後期試験			
受講者に対する要望など	豊かな好奇心と柔軟な発想をもち、活発に発言してくれることを期待します。			
年間授業計画	1. 日本語の領域 2. 音声 3. 音声 4. 音声 5. 語彙 6. 語彙 7. 語彙 8. 語彙 9. 語彙 10. 語彙 11. 語彙 12. 語彙から文法へ 13. 文法 14. 文法 15. 文法 16. 文法 17. 意味 18. 意味 19. 意味 20. 意味 21. 社会言語学 22. 社会言語学 23. 社会言語学 24. 日本語教育	国語学・言語学・共時態・通時態 シニフィアン・シニフィエ・拍(モーラ)の種類、数 モーラの構成・アクセントと弁別素 音声と意味・実現形 一語意識・語彙の分類・出自 外来語 相対名詞・指示詞 語構成・派生語 数と語彙 基本語彙・基礎語彙 造語法・固有名詞 シンタックスと品詞 命題とモダリティー・コトとムード 格。ヴォイス 可能・受け身・使役 アスペクトモダリティー 文の種類 意味の分類 比喩 構造主義と認知意味論 発話の意味 言語行動論の方法 コードと発信者 受信者と話題 日本語教育の現在		

科 目 名	日本語教育概論	担当者名	井 口 厚 夫
-------	---------	------	---------

講義の目標	<p>日本語教育とは何か、日本語教育に何が今起きているかを理解する。</p> <p>日本語教師になる者だけを対象とした講義ではないので、語学教育や日本語を教えることに興味を持つ学生に広く受講してもらいたい。</p>		
講義概要	<p>このコースでは、日本語教育がどのようなものかを紹介し、概観する。併せて外国語教育に関連した諸々の問題にも触れる。</p> <p>なお、この授業は旧カリキュラムの同名講義（4単位）と合併で行う。</p>		
使用教材	テキスト	遠藤織枝『概説日本語教育』三修社	
	参考文献	その都度指示。	
評価方法	気づきノート・レポート・後期試験の3つによって評価する。		
受講者に対する要望など	『日本語教授法』の前にこのコースを取ることが望ましい。日本語を外国人に教えることに興味を持つ者は、まずこの授業から入ること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・日本語授業の実際 2. 日本語教育とは何か・日本語教育と国語教育 3. 日本人なら日本語が教えられるか - 日本語と外国語（音） 4. 日本語と外国語（文法） 5. 日本語と外国語（文法2） 6. 君の日本語は大丈夫か - ら抜き言葉など 7. 辞書の話 8. 教授法あれこれ - その歴史的発展と特長 9. 教授法あれこれ - その歴史的発展と特長 その2 10. 外国人の日本語・外国人に通じる日本語 11. 海外で教えるケーススタディ 12. まとめ 		

科 目 名	日本語学特殊講義 A	担当者名	井 口 厚 夫
-------	------------	------	---------

講義の目標	日本語文法の知識を深めると共に、自分で考える力を養う。		
講義概要	<p><日本語文法の規則と例外> 日本語に中上級を教えていると、文法書に書いてあることでは説明できない例が度々出てきて教師を悩ますことがある。 規則には例外がある。文法も学者が後から作った規則であるから、当然の事ながら例外がある。本講義では日本語文法を中心とするいくつかの項目について原則を講義するが、その後受講者諸君に実例に当たってもらい、その原則がどの程度通用するか調べてもらう。例外が出てきたら、どうしてそのような例外が生ずるのか考えていきたい(例外にもそれなりの理由があることがあるのである)。日本語教育で中上級を教える際には役立つと思う。 例外を探す際には実例データを当たってもらう。データ、またはその検索方法については講義の中で提供するが、パソコンを使える学生が二名ほどいると助かります。</p>		
使用教材	テキスト	その都度指示する。	
	参考文献		
評価方法	レポートと授業への貢献度。		
受講者に対する要望など	講師と文法書をまず疑ってかかる態度。 そして自分なりの考えをまとめ、証明するための数十分の努力。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション「～中」 2. 品詞 3. (続き) 4. 活用 5. (続き) 6. 連体修飾 7. (続き) 8. とばたらなら 9. (続き) 10. ようそうらしい 11. (続き) 12. はずだ 13. 短縮語 14. (続き) 15. アスペクト 16. テンス 17. (続き) 18. 間接受身「頭を殴られた」 19. 省略 20. 数量詞移動「三匹の子豚」 21. のだから・のだった 22. (続き) 23. 地図を頼りに 24. (続き) 		

科 目 名	日本語学特殊講義 A	担当者名	中 西 家 栄 子
-------	------------	------	-----------

講 義 の 目 標	外国人の書いた日本語についての文献を原書で読む練習を通じて日本語について様々な考え方及び知識を深める。		
講 義 概 要	外国人による日本語学関係の文献を原文で読み、理解するとともに、その記述内容について検討していく。原文は英文のものに限られるが、本講義の目的は主に海外での日本語教育に従事する学生のため英文で日本語の文献を読み、視点を変えることによって、日本語をとらえ直し日本語の指導に役立てることを目指す。数年ごとに文献を入れ替えるが、本年度取り上げるの“An Introduction to Japanese Phonology” by T.J. Vance とする。教師による講義、学生からの発表などの方法で授業を進める。また、必要に応じて関連の論文なども読んで行きたい。		
使 用 教 材	テキスト	"An Introduction to Japanese Phonology" by T.J. Vance 入手不可能の場合はプリントで対応。	
	参 考 文 献	1)「語形成と音韻構造」 窪園晴夫 日英語対照研究シリーズ くろしお出版 その他は授業中に指導	
評 価 方 法	中間・後期テスト・出席		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	特に無し。		

1 . Orientation	
2 . Chapter 1 & 2	Introduction & Articulatory Setting
3 . Chapter 2 & 3	Articulatory Setting
4 . Chapter 3	Vowels
5 . Chapter 4	Consonants
6 . Chapter 4	Consonants
7 . Chapter 4	Consonants
8 . Chapter 5	Mora Consonants
9 . Chapter 6	Vowel Devoicing
10 . Chapter 7	Syllables and Moras
11 . Chapter 7	Syllables and Moras
12 . Chapter 8	Accent
13 .	Mid-term Exam
14 . Chapter 8	Accent
15 . Chapter 8	Accent
16 . Chapter 9	The Velar Nasal
17 . Chapter 9	The Velar Nasal
18 . Chapter 10	Sequential Voicing
19 . Chapter 10	Sequential Voicing
20 . Chapter 11	Other alternations
21 . Chapter 11	Other alternations
22 . Chapter 12	Verb Morphology
23 . Chapter 12	Verb Morphology
24 .	Final Exam

科 目 名	基礎ドイツ語	担当者名	大 串 紀代子
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>初心者で、かつ第3外国語としてドイツ語の習得を志す学生が対象なので、ドイツ語及びドイツ語文化圏への興味を喚起し、基礎を固めることにより、将来、更に向上を目指すように指導する。</p>		
講 義 概 要	<p>現代ドイツ語でのコミュニケーションの習得 基本文法の習得 ドイツ文化事情の紹介 以上の3点を織りまぜながら、CDも常時利用する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>Zeitler, Schumann, 藤原, 藤田著 朝日出版社 「はじめて会うドイツとドイツ語」(“ DEUTSCH ”)</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>各課終了毎に小テストを行う。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>毎回出席し、何らかの形で必ず発言すること。理由なく3回以上続けて欠席した者は受講放棄とみなす。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発音練習、あいさつ 2. 発音練習、あいさつ、曜日、季節、月名、数字 3. 普通動詞の変化と練習(テーマ:大学) 4. 普通動詞の変化と練習(テーマ:電話) 5. 不規則動詞の変化と練習()(テーマ:住い) 6. 名詞、定冠詞の変化と練習 7. 不定冠詞の変化と練習 8. 人称代名詞 9. 名詞の複数形(テーマ:音楽) 10. 名詞の格変化(テーマ:レストラン) 11. 不規則動詞の変化と練習() 12. 分離動詞、時間の表現(テーマ:交通) 13. 話法の助動詞の変化と練習()(テーマ:環境保護) 14. 話法の助動詞の変化と練習() 15. 現在完了形()(テーマ:スポーツ) 16. 動詞の三要形 17. 前置詞の練習()(テーマ:旅行) 18. 前置詞の練習() 19. 過去形(テーマ:祝祭) 20. 手紙の書き方 21. 形容詞の付加語用法 22. 形容詞の比較級、最上級 23. 受動態の練習
----------------------------	--

科 目 名	基礎ドイツ語	担当者名	渡 部 重 美
-------	--------	------	---------

講義の目標	簡単なドイツ語を聞き取り、話し、書く能力を身につけることを目標とします。もう少し具体的に言うと、一年間の授業が終わる時点で自己紹介、家族紹介、学生生活、身の回りの出来事などについてドイツ語で表現できるようになることが目標です。		
講義概要	受講者数はそれほど多くならないはずなので、パートナー練習、グループ練習が中心になります。		
使用教材	テキスト	筑和、江口、橋本 著『ドイツ・インタラクティブ』、郁文堂、1999年。 あと、必要に応じてコピーを配布します。 在間進責任編集『アクセス独和辞典』、三修社、1999年。	
	参考文献		
評価方法	毎回の授業の積み重ねが重要なので、学期末にまとめて大きなテストはおこなわず、前回の授業の復習となるような小テストを毎回おこない、また、宿題を出し（といっても、ごく短時間で済むようなものです）、授業への参加度を加味して評価します。		
受講者に対する要望など	失敗、間違いを恐れず積極的に、コンスタントに授業に参加して下さる方の受講を希望します。		
年間授業計画	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.		

科 目 名	基礎フランス語	担当者名	若 森 栄 樹
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	フランス語文法を学び、テキストが読めるようにする。		
講 義 概 要	フランス語の文法を1つ1つ項目を追って勉強します。		
使 用 教 材	テキスト	小石・ガポリオ著「グラメール・オ・コティディアン」(第三書房)	
	参 考 文 献	辞書が必要ですから用意して下さい。	
評 価 方 法	前後期の試験による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	予習・復習をすること。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつのしかた、名前のいいかた、発音、つづり字記号 2. 主語人称代名詞、être の直説法現在、形容詞の性と数 3. <er> 動詞の直説法現在、否定形 4. 不定冠詞定冠詞、C'est / Il eat 5. 形容詞の女性形、形容詞の位置 6. avoir の活用、疑問文の作り方 7. 所有形容詞、疑問形容詞 8. 部分冠詞、数量を表わす表現 9. 移動をあらわす動詞、時刻の言い方 10. <ir> 動詞の直説法現在、近接過去、近接未来 11. 代名動詞 12. <oir> 動詞、いろいろな動詞の直説法現在 13. 直説法複合過去 14. 直説法半過去、大過去 15. 人称代名詞 16. 中性代名詞、y, en, le 17. 指示代名詞、所有代名詞、いろいろな否定 18. 命令法、受動態 19. 直説法単純未来、前未来 20. 条件法現在、条件法過去 21. 関係代名詞 22. 接続法現在、接続法過去 23. 現在分詞、ジェロンディフ、使役動詞、知覚動詞 24. まとめ
----------------------------	---

科 目 名	基礎フランス語	担当者名	前 川 久美子
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	フランス語の基礎力を充実させる。		
講 義 概 要	仏 で学んだ文法を復習しながら、やさしいフランス語のテキストを読む。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	未定	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	平常点とテスト。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	辞書と仏 で勉強した教科書を参照しつつ、自宅でしっかり予習してきて欲しい。 辞書と仏 で勉強した教科書は、教室にも持参すること。		

科 目 名	基礎スペイン語〔総合〕	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>スペイン語を初めて学ぶ学生を対象として、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。</p>		
講 義 概 要	<p>この授業で学ぶ文法項目は、直説法現在、命令の用法、疑問詞、形容詞、名詞、代名詞、数などである。点過去まで進みたい。日常的によく使う会話文については、順次練習をおこなう。受講生の積極的口頭練習が求められる。テキストでは第1課から第6課までである。具体的には、開講時に担当者が説明をおこなう。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p><i>¡Hola, amigos!</i> (芸林書房)</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>出席状況、年2回の定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>スペイン語 総の進行にあわせて口頭練習をおこなうスペイン語 L が用意されているので、同時履習を要望する。</p>		

科 目 名	基礎スペイン語〔LL〕	担当者名	高 松 朋 子
-------	-------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>スペイン語 総を補う授業である。テープおよびビデオ教材を使って、自然なスペイン語会話力（聞き取りと話す能力）を養うことを目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>スペイン語 総と同じテキストとテープ、およびビデオ教材などを使い、スペイン語 総の進度にあわせて口頭練習をおこなう。文法についての解説などはスペイン語 総で主におこない、この授業では練習を中心にする。ビデオ教材も使って、耳からだけでなく映像を通してテキストを補う場合がある。進度については、スペイン語 総のシラバスを参照のこと。具体的には、開講時に担当者が説明をおこなう。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p><i>¡Hola, amigos!</i>（芸林書房）</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>出席状況、年 2 回の定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>スペイン語 総との組み合わせで受講すること。</p>		

科 目 名	基礎スペイン語〔総合〕	担当者名	柴 田 純 子
-------	-------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>スペイン語 総の続きの授業である。スペイン語 総の既習者を対象として、より進んだ文法の習得と、その文法内容をつかうより進んだ聴取力、理解力、口述能力の習得を目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>主な文法項目は、線過去、命令、同士の原型の使い方、現在分詞、過去分詞および接続法である。また形容詞、冠詞、前置詞など既習事項についてより高度な使い方の練習をおこなう。てきすとの第7課から第12課を予定している。具体的には、開講時に担当者が説明をおこなう。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p><i>¡Hola, amigos!</i> (芸林書房)</p>	
	参考文献		
評 価 方 法	<p>出席状況、年2回の定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>		
受 講 者 対 する 要 望 な ど	<p>スペイン語 Lとの組み合わせで受講することを要望する。</p>		

科 目 名	基礎スペイン語〔LL〕	担当者名	落 合 佐 枝
-------	-------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>スペイン語 LLの続きの授業である。スペイン語 LLの既習者を対象として、スペイン語 LLの進度に合わせてより高度なスペイン語会話力（聞き取りと話す能力）を養うことを目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>スペイン語 LLと同じテキストとそれに準拠したテープ教材を使い、スペイン語 LLの進度にあわせて口頭練習をおこなう。文法についての解説などはスペイン語 LLで主におこない、この授業では練習を中心にする。また別のビデオ教材も使って、耳からだけでなく映像を通してテキストを補う場合もある。進度についてはスペイン語 LLのシラバスを参照のこと。具体的には、開講時に担当者が説明をおこなう。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p><i>¡Hola, amigos!</i>（芸林書房）</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>出席状況、授業への積極的参加、および小テストによって評価する。</p>		
受 講 者 対 する 要 望 等	<p>スペイン語 LLとの組み合わせで受講すること。</p>		

科 目 名	基礎スペイン語（講読）	担当者名	佐藤 勘 治
-------	-------------	------	--------

講 義 の 目 標	<p>簡単なスペイン語の物語・評論・伝記を読むことで、既習の文法を確認するとともに総合で引き続き学んでいる文法事項（過去形・現在完了・接続法など）の復習（場合によっては予習）をおこなう。また、日常生活でよく使う語彙、言い回し、構文を覚えるようにする。教材には、ラテンアメリカやスペインの文化・歴史・社会に関係するものを選び、スペイン語圏の豊かな文化にふれる機会としたい。</p>		
講 義 概 要	<p>教材を訳読する。しかし、文法を確認したいので、適宜、新出および既出構文を使って作文練習も同時におこなう。</p>		
使 用 教 材	テキスト	プリントを用意する。	
	参考文献		
評 価 方 法	<p>予習の状況と出席を重視する。確認の小テストは行うが、基本的に平常点で成績をつける。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	基礎ポルトガル語	担当者名	エウニセ I. コガ
-------	----------	------	------------

講 義 の 目 標	ポルトガル語の会話力および理解力の養成と同時に、ブラジルの社会・文化を紹介する。		
講 義 概 要	ブラジル入門：ブラジル・ポルトガル語の会話を中心にした授業であり、日常的な会話を実際に用いながらポルトガル語のボキャブラリーを増やし、文法力及び読解力を養成する。また、ブラジルの歴史・社会・文化・習慣をビデオやスライドなどの映像を通して紹介する。		
使 用 教 材	テキスト	深沢暁・上田郁香 S.Maria 1996 『ベーシックブラジルポルトガル語』東洋書店。	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	ポルトガル語の会話（授業参加）及び筆記試験		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	ポルトガル語及びブラジルに興味のある人。		

年 間 授 業 計 画	<p>* ブラジルのビデオ"BRASIL CULTURAL - Nosso País"、その他 (各授業で約10分間ビデオ及びスライドを見る)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ポルトガル語のアルファベット 2. 動詞: ...ar, SER 3. 名詞の性(女性名詞・男性名詞) 4. 主格人称代名詞 (Pronomes pessoais) 5. 動詞: ...er 6. 前置詞 (Preposição) 7. 動詞: ...ir 8. 形容詞 9. 所有格人称代名詞 (Pronomes possessivos): dele, dela 10. 比較文 (Comparação) 11. 不規則動詞 (Verbos Irregulares) 12. 主語と動詞 (1): 複数・単数の場合 13. 主語と動詞 (2): 複数・単数の場合 14. 主語と動詞 (3): 複数・単数の場合 15. 動詞の時制 (Tempos Verbais) 現在形、過去形、未来形 (1) 16. 動詞の時制 (Tempos Verbais) 現在形、過去形、未来形 (2) 17. 動詞の時制 (Tempos Verbais) 現在形、過去形、未来形 (3) 18. 動詞: 過去形の種類 (Pretérito Perfeito / Pretérito Imperfeito) 1 19. 動詞: 過去形の種類 (Pretérito Perfeito / Pretérito Imperfeito) 2 20. 動詞: 未来形の種類 (Futuro do Presente / Futuro do Pretérito) 1 21. 動詞: 未来形の種類 (Futuro do Presente / Futuro do Pretérito) 2 22. 関係代名詞: 不定法、限定法 (Indefinidos / Definidos) 23. 短文作成 1 24. 短文作成 2
----------------------------	--

科 目 名	基礎ポルトガル語	担当者名	エウニセ I. コガ
-------	----------	------	------------

講義の目標	ポルトガル語の会話を活かしながら、読解の理解も深めていく。		
講義概要	新聞や雑誌の記事を用いながらブラジルの社会・文化・経済について紹介する。また、ブラジルの映画を通してポルトガル語のヒアリングを強化する。		
使用教材	テキスト	書名："AVENIDA BRASIL : Curso básico de <i>Português</i> para estrangeiros" 著者名：Lima, Emma Eberlein O.F. (et al.) 出版社：Editora Pedagógica e Universitária Ltda.(São Paulo)出版年：1991	
	参考文献		
評価方法	授業参加（発言）及び筆記試験		
受講者に対する要望など	ポルトガル語及びブラジルに興味のある人。		
年間授業計画	1. Lição 1 Conhecer Pessoas (ポルトガル語 復習) 2. Lição 2 Encontros (ブラジル映画) 3. Lição 3 Commer e Beber (ブラジル映画) 4. Lição 4 Hotel e cidade (ブラジル映画) 5. 新聞または雑誌の記事を読む 6. 新聞または雑誌の記事を読む 7. Lição 5 Moradia 8. Lição 6 Dia-a dia 9. 新聞または雑誌の記事を読む 10. 新聞または雑誌の記事を読む 11. 新聞または雑誌の記事を読む 12. ドキュメンタリー (ポルトガル語でのビデオ) 13. Lição 7 Corpo 14. Lição 8 Trabalho 15. 新聞または雑誌の記事を読む 16. 新聞または雑誌の記事を読む 17. Lição 9 Roupa 18. Lição 10 Vida em familia 19. Lição 11 Turismo e Ecologia 20. Lição 12 De Norte a Sul 21. ブラジル映画 及び 新聞・雑誌の記事を読む 22. ブラジル映画 及び 新聞・雑誌の記事を読む 23. ブラジル映画 及び 新聞・雑誌の記事を読む 24. ブラジル映画 及び 新聞・雑誌の記事を読む		

科 目 名	基礎ロシア語	担当者名	齊 藤 毅
-------	--------	------	-------

講義の目標	ロシア語はヨーロッパの言語の一つとされているが、西ヨーロッパで用いられている言語とは別の言語のグループ、スラブ語の一つであり、文字や文法の面で、英・仏・独語などとはかなり異なった特徴を持っている。このようなロシア語を学ぶことは、他のヨーロッパ語を学ぶうえでも、必ずや得るところが大きいと思われる。本授業はロシア語の発音・文法の初歩を学び、さらにこの言語を学んでゆくための基礎をつくることを目標とする。		
講義概要	まったくの初学者を対象とする。アルファベット（キリル文字）の読み方から始め、発音・文法を教科書に従って学んでゆく。名詞の性の区別、名詞の格変化、動詞の人称変化など、ロシア語による発想がどのようなものなのかをポイントに学習し、その使い方を練習する。また、応用力を高めるため、教科書以外に、会話形式による練習も行う。学生の皆さん一人一人の練習にウェイトを置いて授業を進める。		
使用教材	テキスト	桑野隆 『はじめてのロシア語』（白水社）	
	参考文献	『博友社 ロシア語辞典』	
評価方法	前後期それぞれ1回の試験と、出席などの平常点。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<p>1. 発音：まずアルファベットの読み方をマスターし、その後も（ロシア語の音楽的なイントネーションは文の組みたてと密接に結びついているため）発音練習を毎回の授業で重視する。また、随時、会話形式の練習も行なう。</p> <p>2. 文法：教科書の半分以上を終えることを目標とする。</p>		

科 目 名	基礎ロシア語	担当者名	佐 藤 千登勢
-------	--------	------	---------

講義の目標	「ロシア語」を昨年履修した学生を対象とします。平易なロシア語の文章の読解、会話練習を通して、「ロシア語」で習得した事項の理解を深めるとともに、新たな文法事項の習熟を目指します。この授業の最終的な目的は、簡単なロシア語の読解と平易な表現による会話ができる力を身につけるところにあります。		
講義概要	この授業では、簡単な読み物とこれに関する設問を通して、日常に密着した実用のロシア語を「読む・書く・話す」のレベルで身につけていきます。また、文章を読む際に手助けとなるロシアの文化、生活習慣についても適宜、紹介していく予定です。授業は、ゆっくり丁寧に進めます。		
使用教材	テキスト	米重文樹、リュドミーラ・ヤマダ編『ロシア語・読本と練習』（白水社）	
	参考文献	博友社『ロシア語辞典』	
評価方法	前期、後期に1回ずつ行う定期試験、および出席率を含めた平常点により決定します。		
受講者に対する要望など	授業の予習を欠かさないようにしてほしいと思いますが、予習ができなかった場合にも、授業に出席することだけは心がけてください。		
年間授業計画	<p>前期：実用的な文章の読解、練習問題、会話練習を通して、「ロシア語」で習得した文法事項の確認と補強を行います。テキストは、第5課までを対象とします。</p> <p>後期：動詞の体（完了体・不完了体）、運動の動詞（定動詞・不定動詞）、比較級、命令形、関係代名詞を用いた文章の読解、会話練習を行います。テキストは、第6課から第10課までを対象とします。</p>		

科 目 名	基礎中国語	担当者名	張 繼 濱
-------	-------	------	-------

講義の目標	発音および中国語のローマ字表記を確実に把握する。基礎文法を中心に授業内容を組み立てて例文講読、文型練習あるいは、日常会話など方法を用いて中国語の基礎知識を身につける。		
講義概要	基本的な教材を使い、基本文型を使って聴解、応答などの練習をします。今後の中国語学習への興味及びより一層能力をつけるためにも発音は大変重要なので、正しく発音できるまでしっかり練習します。中国語を学びながら、中国語や中国社会についての基本的な知識を習得します。		
使用教材	テキスト	『ベーシック・チャイニーズ』張繼濱著 白帝社	
	参考文献		
評価方法	授業中の学習態度、出席、テストなど総合評価する。		
受講者に対する要望など	予習、復習を行うこと。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第一課（発音） 2. 第二課（発音） 3. 第三課（発音） 4. 第四課（発音） 5. 第五課 6. 第六課 7. 第七課 8. 第八課 9. 復習 10. 第九課 11. 第九課 12. 復習 13. 第十課 14. 第十課 15. 第十一課 16. 第十一課 17. 復習 18. 第十二課 19. 第十二課 20. 第十三課 21. 第十三課 22. 第十四課 23. 第十四課 24. 復習 		

科 目 名	基礎中国語	担当者名	陳 跡
-------	-------	------	-----

講義の目標	この講義の内容は、中国語の基礎知識（発音、文法、文の構造等）の習得を中心として。聴く力と会話力の学習を第一目標とする。		
講義概要	発音は初心者にとって最も難しい課題である。中国語独特の音声で、日本語の音声体系にないもの、つまり、四声一四種の調子音や、その他の特に注意すべき子音と母音の読み方を、集中的に練習する、言葉は、ユシコンケーションの手段の一つである。初級中国語の授業は簡単で実用的な言葉や短い会話を用いて行う。		
使用教材	テキスト	中国語初級テキスト 200年からの中国語 児野道子 鄭 高詠著 金星堂	
	参考文献		
評価方法	成績評価に当たっては、平常点と定期試験をほぼ均等に扱う。出席重視。		
受講者に対する要望など	履修者の出席と復習を期待します。		
年間授業計画	1 . 2 . 3 . 4 . 5 . 6 . 7 . 8 . 9 . 10 . 11 . 12 . 13 . 14 . 15 . 16 . 17 . 18 . 19 . 20 . 21 . 22 . 23 . 24 .		

科 目 名	基礎中国語	担当者名	頼 明
-------	-------	------	-----

講義の目標	中国語を学ぶ上で、発音の習得は非常に重要です。正しく発音できることは、自信につながり、中国語そのものも楽しくなります。この授業では、発音の繰り返し練習に重点を置き、文法は必要最小限に押さえ、話せる中国語を目指します。		
講義概要	教科書に沿って進みます。前期は発音や中国語の音声表記であるピンインの習得が最大の課題です。後期は実際の会話文の発声練習を中心に進み、基本例文の暗記とその応用が中心となります。		
使用教材	テキスト	『みんなで中国語』中村俊也・謝 謀・綾部武彦・頼 明著 朝日出版社	
	参考文献	必要に応じて授業中に指示します	
評価方法	出席を重視し、授業態度、学期末試験と総合して評価します。		
受講者に対する要望など	授業は休まず出席してください。教科書の本文が暗唱できるよう、教材に付属の CD を毎日聞いてください。		
年間授業計画	教科書に沿って進みます。(詳しくは授業中に指示します。)		

科 目 名	基礎中国語	担当者名	陳 跡
-------	-------	------	-----

講義の目標	この授業は、聞く力と会話力の向上を第一目標とします。授業の対象は初心者およびある程度の能力を有している者にも配慮して進める。		
講義概要			
使用教材	テキスト	見る、聞く、話す 中国語ネットワーク 荒屋勤 / 尹景春 / 岡部謙治 朝日出版社	
	参考文献		
評価方法	成績評価に当たっては、平常点と最終試験をほぼ均等に扱う。		
受講者に対する要望など	履修者の出席と復習を期待します。		
年間授業計画	1 . 2 . 3 . 4 . 5 . 6 . 7 . 8 . 9 . 10 . 11 . 12 . 13 . 14 . 15 . 16 . 17 . 18 . 19 . 20 . 21 . 22 . 23 . 24 .		

科 目 名	基礎朝鮮語	担当者名	朴 勇 俊
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化等の諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流が進展していくことが期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から徹底した会話力の養成を基盤に多様な場面における表現活動を通じて何よりも生きた人々と自由にコミュニケーションできる能力の定着をめざしていく。また韓国の文化の諸相への関心と探究意欲を育てていくことにも留意していく。</p>		
講 義 概 要	<p>朝鮮語をはじめて学ぶ人を対象とし、韓国固有の民族・歴史・生活・芸能・衣食住を題材に実用会話を入門指導する。その際、韓国の典型的文化や生活などを紹介しながら、直結する会話や学習内容を精選・組織する。また言語だけでなく絵・写真・スライド等を提示し、学習の場面の雰囲気や情緒を感得できるようにする。特に韓国の民話等、ストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での単純な文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら学習する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	「韓国語学習 - 基礎から完成まで - 」(プリント)	
	参 考 文 献	後日指示	
評 価 方 法	<p>評価は原則として定期試験と授業へのとりくみ、出席状況等を総合的に判定する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>外国語の学習は学習者が持続的な学習や訓練に対応する積極的な興味や関心、内面から湧き出る主体的、継続的努力などを一貫して維持できるかどうかによって成果が左右される。意欲を持って主体的に取り組む姿勢を身につけてほしい。</p>		

科 目 名	基礎朝鮮語	担当者名	李 貞 美
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>外国語の学習は学習者が生まれ育った生活や文化とは別体系の典型的な異文化との接触である。そして外国語は異なる意志疎通の用具や手段であるばかりでなく、異文化の典型的集積体でもある。したがってその背景になっている文化の諸相の理解をも含めた語学の学習を通じて、当該外国に、より親しみを感じ、友好関係を切り開いて行くことができるコミュニケーション能力を身につけていくことが必要である。この授業では日本からいちばん近い隣国である韓国の言語を習得するとともにその背景にある文化についての理解をも深めていく。</p>		
講 義 概 要	<p>朝鮮語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型等を身につけさせる。また、外国語は異文化の典型的集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探究意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報等を題材に選び、多様で実用的なコリア語表現力を定着させていく。</p>		
使 用 教 材	テキスト	「韓国語学習 - 基礎から完成まで - 」(プリント)	
	参 考 文 献	後日指定	
評 価 方 法	<p>評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>実用的な会話力を定着させるために様々な状況を想定して練習を繰り返す。意欲的に取り組んでほしい。</p>		

科 目 名	基礎タイ語（97年度以降入学者）	担当者名	江 藤 双 恵
-------	------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>タイ語の基礎を1、文字の表記と発音 2、会話 の2点を中心に学習し、サバイバル可能なレベルのタイ語を習得するための基礎がためを行う。サバイバル可能なレベルとは、タイ語を母語とする人々との間にある程度の意味疎通ができるという意味であり、文字が判読でき、正しく発音できることが大前提となる。また、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢が求められる。そこで本講義では、文字の読み方、発音方法、書き方、表現手法の習熟にとどまらず、タイ語を通じて、その背景にある文化的・社会的特徴ないしタイ的な世界観にも触れることをめざす。</p>		
講 義 概 要	<p>前半はタイ文字の表記と発音方法についてテキストやオーディオ教材を用いた講義を行う。タイ文字の子音、母音、数字および各種記号の表記方法、発音方法についてマスターする。後半は、挨拶、数、年月日と時間など日常会話に最低限必要な表現を学ぶ。さまざまな状況に応じた会話表現を学びながら、その背景にあるタイ人の行動様式や考え方などについても理解する。また、ディクテーションによって正確な発音と表記の仕方を身につけ、作文練習によって表現能力をつける。さらに、随時、タイ映画などのビジュアル教材を通じて生きたタイ語に触れる機会をもち理解を深める。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	「やさしいタイ語 文字の読み書き」(宇戸清治著 大学書林発行) プリント	
	参 考 文 献	講義中に紹介する。	
評 価 方 法	学期末に試験を行い、その点数と受講態度を加味して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	やる気のある学生の受講を希望します。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：現代タイの政治経済状況と、そこに反映される伝統的な価値観などについての概論、今タイ語を学ぶ意義は？ 2. タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音 3. 文字の読み書き 1（中子音，高子音） 4. 文字の読み書き 2（低子音と長母音） 5. 文字の読み書き 3（真正二重子音，平音節，促音節，さまざまな末子音の読み方） 6. 文字の読み書き 4（声調符号，短母音） 7. 文字の読み書き 5（低子音の高子音化と中子音化、疑似二重子音） 8. 文字の読み書き 6（一字再読字） 9. 文字の読み書き 7（タイ数字、年月日に関する表記、例外） 辞書の使い方 10. タイ文化入門（映画などビジュアル教材を用いる予定） 11. 会話 1（挨拶、所在に関する表現） タイ語を聞いて書く 12. 会話 2（ものの性質などに関する表現） タイ語を聞いて書く 13. 会話 3（家族に関する表現） タイ語を聞いて書く 14. 会話 4（所有、存在に関する表現） タイ語を聞いて書く 15. 会話 5（職業、国名に関する表現） タイ語を聞いて書く 16. 会話 6（可能、不可能に関する表現） タイ語を聞いて書く 17. 会話 7（名前、所在、手段などに関する表現） タイ語を聞いて書く 18. 会話 8（動詞を用いた表現） タイ語を聞いて書く 19. 会話 9（類別詞の用法 1） タイ語を聞いて書く 20. 会話 10（類別詞の用法 2） タイ語を聞いて書く 21. 会話 11（日時に関する表現） タイ語を聞いて書く 22. 会話 12（比較を含む表現） タイ語を聞いて書く 23. 会話 13（自己紹介など） タイ語を聞いて書く 24. タイ文化入門（タイ映画などビジュアル教材の鑑賞）
----------------------------	--

科 目 名	基礎タイ語（97年度以降入学者）	担当者名	江 藤 双 恵
-------	------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>タイ語の基礎を1、会話 2、文法 3、作文 の3点を中心に学習しながら、サバイバル可能なレベルのタイ語を習得する。サバイバル可能なレベルとは、タイ語を母語とする人々との間にある程度の意味疎通ができるという意味であり、そのためには、まず、正しい発音を身につけ、聞き取り、読み書きができることはいままでのない。それ以外に、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢も不可欠である。そこで本講義では、単に道具としての言葉の習熟にとどまらず、タイ事情に関する簡単な読み物やビジュアル教材などを通じて、その背景にある文化的・社会的特徴や経済状況などを理解することをめざす。</p>		
講 義 概 要	<p>さまざまな状況に応じた表現例を学びながら、その背景にあるタイ人の行動様式や考え方などについても理解する。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。さらに、現代タイ事情に関する簡単な読み物を通じて生きたタイ語に触れるとともに、背景説明などを加えて理解を深める。なお、進度に応じて講義の内容が変わる場合もある。</p>		
使 用 教 材	テキスト	プリント	
	参考文献	講義中に紹介する。	
評 価 方 法	<p>学期末に試験を行い、その点数と受講態度を加味して評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>やる気のある学生の受講を希望します。 タイ語の読み書きの基礎ができている人の受講が望ましいが、読み書きはできないけれど会話はある程度できるという人も受講可能である。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：今タイ語を学ぶ意義。タイ文化、社会に関するトピックス。 2. 会話1（比較、最上級に関する表現）タイ語を聞いて書く 3. 会話2（食べ物に関する表現）タイ語を聞いて書く 4. 会話3（疑問詞の使い方）タイ語を聞いて書く 5. 会話4（可能表現のいろいろ）タイ語を聞いて書く 6. 会話5（完了に関する表現）タイ語を聞いて書く 7. 会話6（推量に関する表現）タイ語を聞いて書く 8. 会話7（お金の計算）タイ語を聞いて書く 9. 会話8（電話をかける）タイ語を聞いて書く 10. 会話9（旅行する）タイ語を聞いて書く 11. 会話10（受身の表現）タイ語を聞いて書く 12. 会話11（病気のと看）タイ語を聞いて書く 13. 会話12（買い物をする）タイ語を聞いて書く 14. 会話13（素材に関する表現）タイ語を聞いて書く 15. 文法1（疑問文・否定文、疑問文への答え方）作文 16. 文法2（存在・所有動詞の用法、繁辞の用法）作文 17. 文法3（一般動詞の用法）作文 18. 文法4（類別詞の用法、比較）作文 19. 文法5（助動詞）作文 20. 購読1（現代タイ事情） 21. 購読2（現代タイ事情） 22. 購読3（現代タイ事情） 23. 購読4（現代タイ事情） 24. タイ映画などのビジュアル教材の鑑賞
----------------------------	--

科 目 名	基礎アラビア語	担当者名	本 田 孝 一
-------	---------	------	---------

講義の目標	アラビア語は1ヶ国の言語ではありません。アラビア語は中東 21ヶ国の国語であり、国連の公用語の1つです。しかし日本においてはいまだあの「虫の這った跡のような」文字とだけで片づけられてしまいます。本講義ではそのような偏重を打破し、世界のメジャーな言葉としてのアラビア語の重要性を認識し、アラビア語の世界に親しんでもらうことを目的とします。		
講義概要	本講義は会話と文法を交互に学んでいきます。その他アラブ世界に広く親しんでもらうように文化的側面も紹介していこうと考えています。		
使用教材	テキスト	「アラビア語の入門」(改訂版)(本田孝一著、白水社)	
	参考文献	「アラビア文字を書いてみよう読んでみよう」(本田孝一他著、白水社) 「パスポート初級アラビア語辞典」(本田孝一他著、白水社)	
評価方法	学年末に簡単な会話をやってもらいます。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	1. Introduction 2. (会話) アラブ人と友達になろう 1 3. (会話) アラブ人と友達になろう 2 4. (文法) アラビア文字に挑戦! 1 5. (文法) アラビア文字に挑戦! 2 6. (会話) アラブ人と友達になろう 3 7. (会話) アラブ人と友達になろう 4 8. (文法) アラビア文字をつなげてみよう 1 9. (文法) アラビア文字をつなげてみよう 2 10. (会話) 友達を紹介しよう 1 11. (会話) 友達を紹介しよう 2 12. (文法) アラビア文字はどう読むのだろう 1 13. (文法) アラビア文字はどう読むのだろう 2 14. (文法) 自分の名前をアラビア語で書いてみよう 15. (会話) 「これは何ですか」の表現 1 16. (会話) 「これは何ですか」の表現 2 17. (文法) 「私は日本人です」 1 人称代名詞(主格) 18. (文法) 「私は日本人です」 2 人称代名詞(主格) 19. (会話) 「空港でアラビア語を使ってみよう」 1 20. (会話) 「空港でアラビア語を使ってみよう」 2 21. (文法) アラブ諸国の名前を読んでみよう 1 22. (文法) アラブ諸国の名前を読んでみよう 2 23. 期末の会話テストの準備 24. 会話テスト		

科 目 名	基礎アラビア語	担当者名	本 田 孝 一
-------	---------	------	---------

講義の目標	前年度アラビア語を受講した人を原則的に対象とし前年度のつづきを勉強します。目的としては、受講生の一人一人がアラブ世界に関心を抱き、各自で興味の対象を見つけ、将来的にそれを伸ばしていけるようにすること。		
講義概要	授業は必ずしも、テキスト通りに進行させるということではありません。受講生の希望に従ってバラエティーに豊かな授業にしたいと考えています。 講師の専門の「アラビア書道」の実習も導入したいと考えています。		
使用教材	テキスト	「アラビア語の入門」(改訂版)(本田孝一著、白水社)	
	参考文献	「ステップアップアラビア語」(本田孝一著、白水社) 「パスポート初級アラビア語辞典」(本田孝一他著、白水社)	
評価方法	学年末に簡単な会話をやってもらいます。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	1. 復習 2. 復習 3. (会話) ご出身はどちらですか 1 4. (会話) ご出身はどちらですか 1 5. (文法)「待つ」の表現 1 6. (文法)「待つ」の表現 2 7. (会話) アラビア語で買い物をしてみよう 1 8. (会話) アラビア語で買い物をしてみよう 2 9. (文法) of の表現 10. (文法) 双数、複数 11. (会話) いろいろな数量の表わし方 1 12. (会話) いろいろな数量の表わし方 2 13. (文法) 動詞(完了形)の使い方 1 14. (文法) 動詞(完了形)の使い方 2 15. (会話)「きのうあなたは何をしましたか」の表現 1 16. (会話)「きのうあなたは何をしましたか」の表現 2 17. (文法) 動詞(未完了形)の表現 1 18. (文法) 動詞(未完了形)の表現 2 19. (会話) カイロの街角での会話 1 20. (会話) カイロの街角での会話 2 21. (文法) 命令形の作り方 1 22. (文法) 命令形の作り方 2 23. 期末の会話テストの準備 24. 会話テスト		

科 目 名	現代ヘブライ語	担当者名	高 橋 正 男
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>ヘブライ語は、印欧語とは異なり、セム語の一つ、アラビア語と同系の言語である。我が国では旧約聖書の言語として広く知られている。ヘブライ語は、イスラエル・ユダヤ民族の消長とともに幾多の変遷をへて、今からおよそ 100 年前、ロシア出身のエリエゼル・ベン・イフェダの努力により、パレスティナに入植したユダヤ人帰還民の間に復活・浸透し、1948 年イスラエル国独立とともに同国の公用語となり、イスラエルをはじめ世界各地に在住する 1500 万ユダヤ人の中で広く用いられている。本講は生きた日常現代ヘブライ語の基礎（日常会話と文法の把握と応用）の習得を目標とする。併せて現代のユダヤ - イスラエル文化を紹介する。</p>		
講 義 概 要	<p>我が国では明治以来の西欧語偏重のなかでセム語は日本人には難解といわれてきた。これは言語が元来話されるものであるという基本事実を無視して教育が行なわれてきたからである。イスラエルでヘブライ語を習得した体験から、ヘブライ語はアラビア語同様日本人には学習困難な言語ではない。現代ヘブライ語と聖書ヘブライ語との隔たりは、現代日本語と明治日本語のそれとは異なり、予想以上に小さい。初年度は日常会話と文法を交互に学習する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・神藤耀他著『ヘブライ語入門』キリスト聖書塾、1998 年 ・キリスト聖書塾編集部編『現代ヘブライ語辞典』キリスト聖書塾、1998 年 	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・『ヘブライ語入門発音テープ』（45 分テープ 2 本組）ミルトス-----（5 棟 3 階 外国語教育研究所で利用可能） 	
評 価 方 法	<p>平常点と学年末の簡単な口述会話テストによる。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>毎週休まずに出席できるよう生活設計をたてることを強く希望する。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. セム語概説 2. ヘブライ文字の書体（活字体・筆記体） 3. ヘブライ文字の書き方(1) 4. ヘブライ文字の書き方(2) 5. 発音 6. 発音の手引(1) 7. 発音の手引(2) 8. 名詞と代名詞(1) 9. 名詞と代名詞(2) 10. 形容詞 11. 前置詞 12. 動詞の現在形(1) 13. 動詞の現在形(2) 14. 語根と動詞 15. ラメッド - ヘー型のパアル態 16. 不定詞(1) 17. ビエル態の現在形 18. ヒトパエル態の現在形 19. ニファル態の現在形 20. ヒフフィル態の現在形 21. 不規則名詞複数形 22. 数詞(1) 23. 数詞(2) 24. 名詞の人称接尾辞と連結詞
----------------------------	---

科 目 名	古典ギリシア語	担当者名	古 川 堅 治
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>一年間の授業を通して、古典ギリシア語を着実に読み、書き、理解することができるようになることを主目的とする。そのためには、テキストの練習問題を確実にこなして、1つ1つステップアップしていく手法をとる。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの文化や歴史、さらには、現代ギリシアの文化や社会にも触れることにしたい。</p>		
講 義 概 要	<p>毎回、単元を1～2つずつ学習するペースで進む。授業は、アト・ホームな雰囲気、気軽に行ないたい。ビデオなどを交えて、視覚にうったえながら理解を深めることもする。出席は必ず毎回するように心掛けること。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門改訂版』（岩波全書、1648円）。第1回目の授業までに購入しておくこと。</p>	
	参 考 文 献	<p>とくに使用せず</p>	
評 価 方 法	<p>出席者による練習問題の解答を繰り返し行なうので、特別にテストや試験は行わない（平常点による評価）</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>誰でも一年間、真面目に学ぶならば、古典ギリシア語はマスターできる。未知で貴重な古典語を気軽に学んで欲しい。ビデオやCDなどでギリシア文化にも触れるので興味のある人の来講を拒まない。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. . 字母・発音・音韻などの分類 (独特のギリシア語字体に魅せられる。)</p> <p>2. . 音節・アクセント・句読点 (古典ギリシア語の単語がもう読めるようになる。)</p> <p>. 動詞変化・現在直説法能動相 (単文章が理解でき、含蓄に富むギリシア人の知恵が共有できるようになる。以下同じ)</p> <p>3. . 名詞の第一変化(1)(2)</p> <p>4. . 名詞の第一変化(3)(4)と動詞の未来直接法能動相</p> <p>5. . 未完了過去直接法能動相</p> <p>6. . 名詞の第二変化</p> <p>7. . 形容詞の変化(第一、第二変化)</p> <p>8. . 前置詞</p> <p>9. . アオリスト直接法能動相</p> <p>10. . 現在完了、過去完了直接法能動相</p> <p>11. . 指示代名詞と強意代名詞</p> <p>12. . 直接法能動相本時称と副時称の人称語尾 (新約聖書が簡単に理解できるようになる。)</p> <p>13. . 'μ'、'μ' の現在直接法</p> <p>14. . 疑問代名詞と不定代名詞</p> <p>15. . 直接法中動相の現在・未完了過去・未来</p> <p>16. . 直接法中動相のアオリスト・現在完了、過去完了・未来完了</p> <p>17. . 人称代名詞</p> <p>18. . 再帰代名詞・相互代名詞・所有代名詞</p> <p>19. . 第二アオリスト直接法能動相と中動相</p> <p>20. . 直接法受動相</p> <p>21. . 第三変化の名詞(1)</p> <p>22. . 第三変化の名詞(2)</p> <p>23. . 能相欠如動詞と約音動詞(1) (ほとんどの文章が辞書を片手に理解できるようになる。)</p> <p>24. . 約音動詞(2)</p> <p style="text-align: center;">まとめ</p>
----------------------------	--

科 目 名	ラテン語	担当者名	松 田 治
-------	------	------	-------

講義の目標	<p>古典ラテン語は難しそうに見えますが、語尾変化などの約束ごとを理解すればわりあい簡単です。多くの例文を読むことで約束ごとは身につきます。そうすると逆に自分でラテン語の文章を書くこともできるようになります。知識が深くなれば近代語とのかかわりもつかめるようになります。古代ローマ人のようにラテン語を読み、基本的な文の構造を把握し、その過程で古代ローマ文化の一端に触れる、このあたりを目標にしましょう。</p>		
講義概要	<p>名詞の変化、動詞の活用を中心に勉強し、語の機能表示の方法や文の構造を把握するような形で授業を進めます。とりわけ動詞の活用は大事で、直説法や接続法などのモードによる変化、過去・現在・未来といった時制による変化、能動・受動のヴォイスによる変化など、ラテン語形態論の基本をしっかりと押さえてほしいものです。折にふれて近代語とのかかわり、特に近代語の語源考察に時間をさきます。後期はギリシャ・ローマ神話を読みやすいラテン語で記述した文章を読み、訳読を楽しみながら前期身につけた知識をさらに確かなものにしましょう。</p>		
使用教材	テキスト	<p>前期：樋口勝彦・藤井昇『詳解ラテン文法』（研究社） 後期：田中秀央『初等ラテン語読本』（研究社）</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>どれだけ積極的に授業に参加したかを重視します。試験の成績だけでなく、総合的に判断します。欠席の多い人は評価の対象にしません。</p>		
受講者に対する要望など	<p>精神的かつ時間的にユトリのある諸君、つまり予習できる人を歓迎します。予習できないことが予め分かっている人はご遠慮ください。</p>		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概説 2. ラテン語の読み方 3. sum 動詞の現在、possum の活用 4. 規則動詞（1）、規則動詞（2） 5. 名詞変化（1） 6. 名詞変化（2） 7. 形容詞 8. 規則動詞（3）（4） 9. 人称代名詞、再帰代名詞、前置詞 10. 未完了過去、未来 11. 不規則動詞、命令法 12. 名詞変化（3）形容詞（3） 13. 完了 14. 受動態、形式受動態 15. 指示代名詞・形容詞 16. 疑問文、疑問詞、関係代名詞 17. 中級リーダー（1） 18. 中級リーダー（2） 19. 中級リーダー（3） 20. 中級リーダー（4） 21. 中級リーダー（5） 22. 中級リーダー（6） 23. 中級リーダー（7） 24. 中級リーダー（8） 		

科 目 名	総合講座A	担当者名	青 柳 多恵子
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>学部共通科目の中の一つの総合部門としての講座。本講座の今年度の統一テーマは「文化と人間」の問題の中で、特に「地域文化」と「地域文化と人間の生活」を取り上げる。21世紀における諸文化の人間生活にまつわる様々な問題を、学部共通科目の先生方を中心に、様々な角度から取り上げ、生活にまつわる地域文化とそこに横たわる生きるための養生法やその知恵といった、生活哲学にまで及ぶ問題と向き合うことを目指す。</p>		
講 義 概 要	<p>- 諸文化における「地域・文化」「地域・生活」 - 人間はその地域集団に、大きく影響を受けながら生涯を送るものである。それぞれの社会や地域に「生」「死」にかかわる問題と、生活スタイルをうみだしている地域文化の諸層を理解し、また多くの経験を聴くことにより、地域（国）の生み出した生活の知恵・哲学をも学ぶ。この講座は本学の教員を中心に、多くの外部講師もご登壇いただく予定である。</p>		
使 用 教 材	テキスト	なし	
	参考文献	各担当者から提示	
評 価 方 法	出席状況と前期・後期のレポートによる		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	多くの教員と多様な角度からの問題提起に、考えることに挑戦して欲しい。		

年 間 授 業 計 画	1. 4/12 青柳多恵子...講座ガイダンス「年間スケジュール」
	2. 19 外来講師 1「スポーツと祭り」
	3. 26 飯島 一彦「日本の儀礼食----餅の文化を中心に」
	4. 5/10 飯島 一彦「岩手県南部地域と餅の文化」
	5. 17 加藤 信重「幕末の日蘭交流」鳴滝塾を通して(1)
	6. 24 加藤 信重 (2)
	7. 31 野々山 ミチコ「中毒について」
	8. 6/7 外来講師 2「高地における衣・食・住」
	9. 14 外来講師 3「祭りその1」音楽・食べ物・生活
	10. 21 有吉 広介「草加市の高齢者の生活と意識」(1)
	11. 28 有吉 広介 (2)
	12. 7/6 青柳多恵子「日本各地の食文化と健康(長寿)との関係」
	13. 9/27 青柳多恵子...後期の予定・「食事の変化と体格・体力の変化」
	14. 10/4 外来講師 4「食文化と日本人」
	15. 11 鳥谷部志乃恵「食文化の伝承」について
	16. 18 外来講師 5「スポーツ文化と祭り」(2)
	17. 25 外来講師 6「祭りその2」生活・地域・人間
	18. 11/8 佐々木雄司「地域文化とメンタルヘルス」
	19. 15 古川 堅治「ギリシャにおける食と健康」(1)
	20. 22 古川 堅治 (2)
	21. 29 外来講師 8「エジプトとその生活」
	22. 12/6 外来講師 9「(寒冷地)の食文化・生活」
	23. 13 和田 智「アメリカの自然とその生活意識」(1)
	24. 1/10 和田 智 (2)
講師の都合により多少順序が変更になる場合あり。	

科 目 名	保健体育講義	担当者名	青 柳 多恵子
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>近代文明のめまぐるしい発展と、すざましい勢いの人口の高齢化や地球環境の変化が急速に進むなかで、豊かで健康な人生を生き生きと送ることは、昔よりも難しくなりつつある。真の健康とは、ともあれ自然に順応した生活の追及と言えます。日本人の食生活は美食・飽食の時代になって早くも 30 余年であります。夜型生活の浸透と食生活の欧米化に加えて核家族化とう中で、健康は自分のライフスタイルの確立に大きく左右されると思われます。我々を取り巻く諸問題を正確に受け止め、自己の将来設計に健康で豊かな生活を送るための真の健康とは何かを考えることを目的とします。</p>		
講 義 概 要	<p>文明の発達をもたらした便利で過ごし易い生活が、健康にとって如何なる問題をもたらしたか。また文明の発達が環境にとって何を残したのか。急速に変化していく生物の健康や地球環境の周辺が、目に付く変化と目に入らない所の変化が生じてきた。高齢化を迎えるためのライフスタイルを自立した生き生きした健康なものとするには、環境、食生活、心の在りよう、疾病、人間の身体、特に本講座では、東洋医学の用いている人間の本来保持している自然治癒力の考え方を理解することによって、真の健康を考える。</p>		
使 用 教 材	テキスト		
	参 考 文 献	<p>加藤 橘夫著「体力科学からみた健康問題」村木 弘昌著「丹田呼吸健康法」 NHK 「日本人の健康観」 内山 興正著「生死を生きる」 ネット・ローレンス著「健康・体力づくり」 湯浅 泰雄著「気とは何か」 立川 昭二著「病気の社会史」 岩槻 邦男著「植物からの警告」</p>	
評 価 方 法	出席状況とテストによる。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	東洋医学的健康方法に興味のある学生。単位取得だけの目的の学生は遠慮してほしい。		

1. 東洋（中国）の身体の捉え方。西洋の疾病の考え方。
東洋的心身観について・「気」について。
2. 健康の捉え方。
人体の見方と自然観（見える身体と見えない身体）
3. 病気について
この一世紀の変遷をみる
4. 食生活と自然治癒力
現代の食生活の実態の捉え方と未来。
5. 健康を意識する事とは。
運動と成人病の関連について。
6. 心（精神）の健康の維持と育成。
東洋的修養法とは...ヨーガや気功について
7. エアロビクス理論について。
運動器官・身体訓練と気功との違いについて。
8. トータルフィットネスの意味と必要性
9. 生活・仕事・家族・趣味について。
パラダイムの大転換を解析する。
10. 社会生活と健康管理
20 - 40 - 20 の考え方と家庭の在り方について。
11. 健康教育の必要性
東洋的人間性と健康観
12. まとめ

科 目 名	保健体育講義	担当者名	(半期)松原 裕
-------	--------	------	----------

講義の目標	一人一人が正しい健康観をもち、また、スポーツや運動の文化的意義を理解することを目指す。		
講義概要	健康観を確立するためには、ヒトの身体について理解する事や疲労・栄養・疾病・薬物等について知る事が必要である。また、豊かな生活を実践するキーワードとしてスポーツや運動を多角的に考える事が重要である。以上の点に関連した講義をした後に、トレーニングルームを使用して実際にトレーニングを経験してみる。なお、半期完結科目である。		
使用教材	テキスト	そのつど紹介する。	
	参考文献	そのつど紹介する。	
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、授業に対する理解度などを総合して評価する。		
受講者に対する要望など	研究心、コミュニケーション		
年間授業計画	<p>(半期完結科目なので前後期同様)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションと個人票の作成(写真添付) 2. ヒトの身体について 3. 疲労・栄養・疾病・薬物等について 4. 競技スポーツについて 5. 健康スポーツについて 6. トレーニングについて 7. (実習) トレーニングと測定 8. (実習) トレーニングと測定 9. (実習) トレーニングと測定 10. 健康観についてのまとめ 11. 運動文化についてのまとめ 12. 総合的なテストまたはレポート作成 		

科 目 名	人文科学特殊講義 A (キリスト教史)	担当者名	中 島 文 夫
-------	----------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>キリスト教史の考察にはいくつかの異なる視点が可能である。教義・教理の展開を主眼とすることもあれば、教勢の伸長・衰退に焦点を合わせることもできる。また、教団・教派の生成・変化に着目することもあろう。信仰生活の慣習や典礼の変遷を中心とする歴史も考えられるであろう。しかし、この講義では、キリスト教がヨーロッパ大陸の歴史の中で展開した歴史的宗教であるという基本的認識を基盤として、キリスト教を一般史との関わりにおいて見、キリスト教の展開を軸として一般史を見ようとする。</p>		
講 義 概 要	<p>－ キリスト教史 (古代・中世前期) －</p> <p>キリスト教は歴史的宗教である。初めから完成されたものとして存在したのではなく、ヨーロッパ大陸の歴史との関わり合いの中で形成されて来たばかりでなく、その歴史的展開の中に神の摂理を読み取ろうとする姿勢を常に持ち続けている。二重の意味で歴史的本性をもつ宗教なのである。そのような宗教としてキリスト教が形成されて行った過程を丹念に跡づけて行くことにする。その範囲を古代から中世前期までに限定し、普遍的教会という理念のもとに教皇を頂点とするゲルマンのキリスト教世界ができ上がるまでの経緯を明らかにする。</p>		
使 用 教 材	テキスト	使用しない。代りに、レジユメのプリントを配布する。	
	参 考 文 献	<p>必要に応じて、講義中に適宜提示する。</p> <p>キリスト教について全く予備知識のない人には、予め下記の本を読んでおくことを勧める。</p> <p>井上洋治『キリスト教がよくわかる本』(PHP文庫)</p>	
評 価 方 法	<p>前期・後期とも、期末に筆記試験を課す。また、毎回出欠を点検し、評価の一要素とする。甚しく欠席の多い者には単位を与えない。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>特に予備知識を要求しないが、未知の分野に対する旺盛な知的好奇心を持って欲しい。また、講義者及び同僚履修者に対する節度あるマナーを期待する。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 序説 1. キリスト教大観。序説 2. キリスト教史の意義。</p> <p>2. 序説 3. ヘブライズムとヘレニズム。第 1 章 原始キリスト教団の誕生。§ 1. イエスとその弟子たち。</p> <p>3. § 2. 原始教団の成立と発展。§ 3. 「異邦人の使徒」パウロ。</p> <p>4. § 4. 新約諸文書の成立。§ 5. 「キリスト論」の展開。</p> <p>5. 第 2 章 古カトリック教会の成立。§ 1. 2 世紀のキリスト教。</p> <p>6. § 2. 初期異端と「カトリック」教会の成立。§ 3. ローマ教会の優位。</p> <p>7. § 4. ロゴス・キリスト論の確立。§ 5. アレクサンドリア学派。</p> <p>8. 第 3 章 「帝国の教会」 § 1. 教会の制度的発展。</p> <p>9. § 2. 「秘蹟」制度の発展。</p> <p>10. § 3. 「帝国の教会」への歩み。</p> <p>11. § 4. ニカイア抗争 アレイオス主義の問題。</p> <p>12. § 5. 修道生活の発祥と普及。</p> <p>13. 第 4 章 キリスト教世界の再編成。§ 1. ゲルマン民族大移動とキリスト教。</p> <p>14. § 2. 修道院制度の発展。§ 3. 正統キリスト論の確定。</p> <p>15. § 4. 西方教会の独自の発展。</p> <p>16. § 5. 西方教会の權威の確立。</p> <p>17. 第 5 章 ゲルマン的キリスト教世界の形成。§ 1. フランク教会の形成。</p> <p>18. § 2. カルル大帝とカロリング帝国。</p> <p>19. § 3. 帝国の崩壊と再建 神聖ローマ帝国。</p> <p>20. § 4. 修道生活の革新と聖者・聖遺物崇敬。</p> <p>21. § 5. 西欧キリスト教世界の拡大。</p> <p>22. 第 6 章 教皇権の隆盛。§ 1. グレゴリウス革命と「使徒的生活」</p> <p>23. § 2. イエルサレム巡礼と第 1 次十字軍。</p> <p>24. § 3. スコラ学の発展。</p>
----------------------------	---

科 目 名	人文科学特殊講義 A (キリスト教史)	担当者名	中 島 文 夫
-------	----------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>キリスト教史の考察にはいくつかの異なる視点が可能である。教義・教理の展開を主眼とすることもあれば、教勢の伸長・衰退に焦点を合わせることもできる。また、教団・教派の生成・変化に着目することもある。信仰生活の慣習や典礼の変遷を中心とする歴史も考えられる。しかし、この講義では、キリスト教がヨーロッパ大陸の歴史の中で展開した歴史的宗教であるという基本認識を基盤として、キリスト教を一般史との関わりにおいて見、キリスト教の展開を軸として一般史を見ようとする。</p>		
講 義 概 要	<p>キリスト教史 (中世後期・近代前期)</p> <p>キリスト教は歴史的宗教である。初めから完成されたものとして存在したのではなくてヨーロッパ大陸の歴史との関わり合いの中で形成されて来たばかりでなく、その歴史的展開の中に神の摂理を読み取ろうとする姿勢を常に持ち続けている。二重の意味で歴史的本性をもつ宗教なのである。そのような宗教としてキリスト教が「ヨーロッパ」の形成とどのように関わったかを丹念に跡づけようとする。範囲を中世盛期から近代前期(宗教改革の時代まで)に限定し、東方キリスト教は除外する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	使用しない。代わりに、レジユメのプリントを配布する。	
	参 考 文 献	<p>必要に応じて、講義中に適宜提示する。</p> <p>キリスト教について全く予備知識のない人には、予め下記の本を読んでおくことを勧める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 井上洋治『キリスト教がよくわかる本』(PHP文書) 徳善義和・百瀬文晃『カトリックとプロテスタント どこが同じで、どこが違うか』(教文館) 	
評 価 方 法	<p>前期・後期とも、期末に筆記試験を課する。また、毎回出欠を点検し、評価の一要素とする。甚しく欠席の多い者には単位を与えない。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>特に予備知識を要求しないが、未知の分野に対する旺盛な知的好奇心を持って欲しい。また、講義者及び同僚履修者に対する節度あるマナーを期待する。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 序説 1 . キリスト教大観。序説 2 . キリスト教史の意義。</p> <p>2. 序論 9 ~ 10 世紀の西ヨーロッパ世界。</p> <p>3. 第 1 章 ローマ教皇権の隆盛。 § 1 . グレゴリウス改革と「使徒的生活」</p> <p>4. § 2 . イエルサレム巡礼と十字軍。</p> <p>5. § 3 . 正統と異端。</p> <p>6. 第 2 章 中世盛期の社会と文化。 § 1 . 通商活動の復活と都市の発達。 § 2 . 法体系の整備。</p> <p>7. § 3 . スコラ学の発展。 § 4 . 新しい知的世界。</p> <p>8. § 5 . トーマス・アクィナスの人格主義。</p> <p>9. § 6 . ロマネスク文化とゴシック文化。</p> <p>10. § 7 . 聖母崇敬。</p> <p>11. 第 3 章 中世の秋。 § 1 . ドイツ神秘主義と《Devotio Moderna》 § 2 . スコラ学の変質と崩壊。</p> <p>12. § 3 . 教皇権の衰退と《Schisma》</p> <p>13. 第 4 章 「宗教改革」の時代。 § 1 . ルネサンスとキリスト教。</p> <p>14. § 2 . ルターとドイツの宗教改革運動。</p> <p>15. § 2 . ルターとドイツの宗教改革運動（続）</p> <p>16. § 3 . スイス（ドイツ語圏）の宗教改革。 § 4 . 再洗礼派。</p> <p>17. § 5 . カルヴァンとスイス（フランス語圏）の宗教改革。</p> <p>18. § 6 . カルヴァンの思想。</p> <p>19. § 7 . イングランドの宗教改革。</p> <p>20. § 8 . 前期カトリック改革。</p> <p>21. 第 5 章 抗争の時代。 § 1 . ユグノ戦争とオランダの独立。</p> <p>22. § 10 . ドリエント公会議と対抗宗教改革。</p> <p>23. § 11 . ドイツにおける抗争 三十年戦争。</p> <p>24. § 12 . ピューリタン革命。</p>
----------------------------	--

科 目 名	経 済 学	担当者名	西 村 允 克
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	現代経済学の基本的考え方を学習し、現実の経済問題を理解する基礎を確実なものとする ことが、講義の目的である。この目的実現のために、テキストを理解する重要な視点をおぎ ないながら講義は進行する。		
講 義 概 要	前期はミクロ経済学といわれる部分の基礎の学習であり、後期はマクロ経済学といわれる 部分の基礎の学習である。 講義は教科書の順に進むものでなく、教科書を私流に再編成してなされるが、参照ページ はその都度指示する。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	幸村千佳良「経済学事始」第3版、多賀出版	
	参 考 文 献	講義時に指示	
評 価 方 法	前期、後期の定期試験の結果。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	毎日の新聞を読んで、現在、日本および世界がいかなる経済問題に直面しているかを把握 しておくこと。		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 経済学を学習するために</p> <p>2. 図の読み方 - 経済学のテキストを開けば多くの図表が出てくる。図表には基本的な読み方があるので、経済学学習の前提としてこれを学習する。</p> <p>3. 数式の読み方 - 経済学のテキストでは多くの数式が出てくるので、数式の基本的読み方を学習する。</p> <p>4. 経済問題を考えるために - これまでの講義を前提として、経済問題をどう考え、理解するかの基本を述べる。</p> <p>5. 需要の法則 () - 価格が上がると需要量は減少するといわれるが、このことの意味は何か。</p> <p>6. 需要の法則 () - 無差別曲線、限界代替率、所得効果、代替効果</p> <p>7. 需要の法則 () - 市場需要関数とその変化</p> <p>8. 供給の法則 () - 生産関数</p> <p>9. 供給の法則 () - 総費用関数、平均費用、限界費用</p> <p>10. 供給の法則 () - 供給関数</p> <p>11. 市場均衡 () - なぜ価格はある水準に決まるのか。</p> <p>12. 市場均衡 () - なぜ価格は変化するのか。</p> <p>13. GDP を中心とした国民所得の諸概念 () GDP、GNP、GDE、付加価値額、1人当たりGDP、名目値と実質値</p> <p>14. GDP を中心とした国民所得の諸概念 () 経済成長率 インフレ率</p> <p>15. 消費関数 () 限界消費性向、平均消費性向</p> <p>16. 消費関数 () 貯蓄関数</p> <p>17. 国民所得決定理論 () - 簡単な所得決定モデルを基礎として、現実の経済問題をこのモデルでどう考え、理解するか。</p> <p>18. 国民所得決定理論 () - 簡単な所得決定モデルの拡大、そこで理解できる経済問題。</p> <p>19. 経済政策 () - 財政政策を中心として</p> <p>20. 経済政策 () - 金融政策を中心として</p> <p>21. 経済成長 - 経済成長理論の基本的考え方</p> <p>22. 景気循環 () - 4つの主要な景気循環</p> <p>23. 景気循環 () - 戦後の景気の基準日付を中心として</p> <p>24. まとめ</p>
----------------------------	--

科 目 名	自然科学特殊講義 A (東洋の健康論)	担当者名	青 柳 多恵子
-------	---------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>東洋の健康の考え方には、人間が本来もっている自然治癒力、抵抗力、生命力を大切に、体の回復をはかることを重視している。東洋の多くの古典的文献に見られる「健康観」「養成訓練」は、現代の我々が抱えている多くの個人的・社会的な大問題である「いかに健康に生涯を生きるか」との解決策をその考え方に学びとることができると思われる。先人の残していった言行の含む意味の解析と理解とによって、真の健康なライフスタイルを模索することを目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>文化遺産である古書(日本・中国)や健康について記された文献の中から、健康であるための心のあり方について検証し、文献に記載されている時代の社会情勢や生活様式・食文化といった基本的な生活状況に加えて、当時の教育の状態や生活習慣・しきたり・行事・式典・祭り等に現れている健康への望みや、祈りが意味するものを解明しつつ、現代人の置かれている環境(自然・社会)や生活・考え方がどのような変遷をし、また、21世紀における健康の意味を問いたすことである。生物としての人間の真の健康を自己に問いかけ、先人が残した文化遺産に健康の普遍性を見いだすことができる。東洋のロマンに触れ、今の健康のあり方を考えることとする。</p>		
使 用 教 材	テキスト		
	参 考 文 献	<p>吉川幸次郎著「支那人の古典とその生活」「論語について」 青柳洋次郎著「論語からみたビジネス生活の方法」 森 隆夫著「生涯教育と学校教育」 松尾 芭蕉著「奥の細道」 品川 嘉也著「気功の科学」 丸山 敏秋著「気」</p>	
評 価 方 法	<p>レポート提出と出席による。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>真面目に自分の生活や健康を考える者</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋的なものの考え方と東洋的なものの考え方の違い。 2. 今なぜ「気」の概念が問題なのか。 3. } 4. } 中国に生き続ける宇宙観と健康観。 5. } 6. } 7. } 現代ビジネスと健康意 8. 普遍的・究極的な健康は存在するのか。 9. 人生に関する活きた知恵としての「論語」の解釈。 10. 幸福に関する価値連鎖体系の崩壊とは。 11. 健康に関する価値連鎖体系の崩壊とは。 12. まとめ 13. 現代の日本の「健康観」について。 14. 心の様相と「老い」について。 15. 世界の健康意識の変化とその心の在りよう。 16. 健康を阻害する要因と歴史的な流れ。 17. 自然の意味するもの。 18. 現代文明と健康意識の功罪について。 19. 「論語」に見られる超現代感覚とは。 20. 原始生活と現代生活 21. 東洋的健康観とは。 22. 健康への関心と配慮について。 23. 幼児の時から健康教育の必要性。 24. まとめ
----------------------------	--

科 目 名	自然科学特殊講義 A (筋力トレーニングの理論と実際)	担当者名	松 原 裕
-------	--------------------------------	------	-------

講 義 の 目 標	ヒトは必ず老化していく。生涯に渡ってベストコンディションを維持して行くためには、筋力トレーニングは有効な一手段である。この筋力トレーニングに関する基礎的なことについて学習し、さらに実践することを目標とする。		
講 義 概 要	筋力トレーニングについての知識を学習し、学内のトレーニングルームを使用して実際にトレーニングを行い、レポートを作成する。		
使 用 教 材	テキスト	そのつど紹介する。	
	参 考 文 献	そのつど紹介する。	
評 価 方 法	毎時間の出欠席、受講態度、授業に対する理解度などを総合して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	研究心、コミュニケーション		

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1. オリエンテーションと個人票の作成 (写真添付)
	2. 筋力トレーニングの原則
	3. 施設・器具・安全管理 (理論)
	4. 施設・器具・安全管理 (実際)
	5. 筋力トレーニングの種目 (理論)
	6. 筋力トレーニングの種目 (実際)
	7. プログラムをデザインする (理論)
	8. プログラムをデザインする (実際)
	9. 測定と評価 (理論)
	10. 測定と評価 (実際)
	11. サーキットトレーニング (理論)
	12. サーキットトレーニング (実際)
	(後期)
	13. やる気を起こさせる (理論)
	14. プログラムをデザインする (各自)
	15. トレーニング (実践)
	16. トレーニング (実践)
	17. トレーニング (実践)
	18. トレーニング (実践)
	19. トレーニング (実践)
	20. トレーニング (実践)
	21. トレーニング (実践)
	22. トレーニング (実践)
23. 結果報告 (各自発表)	
24. 結果報告 (各自発表)	

科 目 名	情報論（97年度以前入学者）	担当者名	前 田 功 雄
-------	----------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義では、情報および情報量の概念を明らかにすると共に、パソコンやコンピュータ・ネットワーク上の情報伝達の仕組みと信頼性の高い情報システムの構築について述べる。特に、1971年以來本学の学籍番号として使われているエラー検出システムに述べる。これら講義には確率論が必要となるので、受講生は統計学を履修することが必須である。</p>		
講 義 概 要	<p>上記目的のためにコンピュータ・ネットワークの積極的な利用が必要となる。そのために、電子メール、ファイル転送などの利用は不可欠である。情報伝達の信頼性についてはエラー検出システムやエラー訂正システムが述べられるがそれらにはやや数学的な内容が含まれるため数学、統計学等を履修または既習が望ましい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	必要な都度プリント配布。	
	参考文献	授業中に述べる。	
評 価 方 法	レポートによる。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	C++言語を含むプログラミング論を履修または既習のこと。		

年 間 授 業 計 画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコン通信とは。パソコン、モデム、通信ソフト、通信速度。 2. コンピュータ・ネットワークの種類と仕組。 3. インターネットの世界。インターネットの実演。 4. インターネット上のファイル転送 - テキストファイル、バイナリーファイル - 5. 画像や音声データを含んだデータの転送実験。 6. 情報の種類 - 情報の種類とそれらを伝達する媒体 - 7. 情報の測り方 - 情報量の定義とその尺度についての解説。 8. 情報理論に出てくる確率概念の解説。 9. 確率論入門その 1。確率、基本公式、独立な確率変数。 10. 確率論入門その 2。条件付確率、ベイズの定理、事前確率、事後確率。 11. 確率論入門その 3。確率分布、期待値、分散、標準偏差。 12. 情報量の定義とその尺度、エントロピー導入。 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エントロピーとは。 2. シンドロームの導入。 3. エラー検出システムのコード。 4. エラー訂正システムのコード。 5. エラー訂正コードとエラー検出コードの例。 6. エラー訂正コードの実験。 7. エラー検出コードの実験。 8. 10 進符号でのエラー検出符号とその応用。 9. 本学の学籍番号システムとエラー検出。 10. 一般に使われているエラー検出システム。 11. エラー検出システムのコンピュータでの実現。 12. 誤り検出符号の作成。
----------------------------	---

科 目 名	情報科学特殊講義 A (情報処理)	担当者名	東 孝 博
-------	---------------------	------	-------

講 義 の 目 標	この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ概論」「コンピュータ入門(98年度)」の直上に位置する上位科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。		
講 義 概 要	<p>今年はず、インターネット上の様々なサービスの概要を学びます。そして、その中でとくにWWWサービスを利用して、実際にいろいろな情報を見て回り、特定の情報を探し出し、取り込みそれを整理することなどを行います。またWWW上の情報の単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学び、簡単なホームページの試作もしてみます。</p> <p>そのあとは、やはりHTMLと同じ非WYSIWYG(What You See Is What You Get)系の文書作成方式であり、印刷・出版用の標準言語といわれているTEXについて学ぶ予定です。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	授業中に指示します。	
	参 考 文 献	適宜紹介します。	
評 価 方 法	数回の課題と日常の宿題等授業への参加態度で決めます。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	「コンピュータ概論」「コンピュータ入門(98年度)」成績優秀者が、または、それと同等程度のもをを対象とします。教室のコンピュータの台数にあわせて受講者を選抜します。		

科 目 名	情報科学特殊講義 A (実践 Web サイトプロデュース)	担当者名	井 上 博 樹
-------	---------------------------------	------	---------

講義の目標	(1)チームワーク (Web サイトプロデュース) を通じ、企画・プレゼンテーション能力や、コミュニケーション・コラボレーション能力などを身につける。 (2)情報社会における基本的なものの見方、考え方を身につける。		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ Web サイトの企画・設計・構築・公開・PR の基的手法を学ぶ ・プレゼンテーション PowerPoint の活用法 ・後期には、実在する組織・団体のサイト構築に取り組み、一般に公開する。 		
使用教材	テキスト	講義用 Web ページを通じて提供。 (URL: http://www.daikan.shibuya.tokyo.jp/~hiro/)	
	参考文献	「ネティズン History and the Impact of the Internet」(MichealHauben 著、井上博樹訳、中央公論社) 「 DesigningWebGraphics」(LyndaWeinman, NewRiders) その他、随時紹介します。	
評価方法	名プロジェクトの成果、プレゼンテーションの内容などで評価		
受講者に対する要望など	積極的にプロジェクトに参加できる方、IT 業界や、e business に関心ある方などを歓迎します。PC に関するスキルは問いません。 教室のコンピュータの台数にあわせて受講者を選抜します。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：講義の狙いや、年間計画、ならびに基本的な手法の紹介 2. コンセプトワーク・プランニング、情報収集 (サーチエンジンの使い方等) 3. プレゼンテーション：PowerPoint の使用法 4. 各自の企画のプレゼンテーションとディスカッション 5. Web サイト設計と素材の準備：Photoshop 基本など 6. HTML コーディング：HTML Editor や JavaScript 7. サイトのプロモーション：サーチエンジンへの登録や ML の活用 8. 9. サイトのブラッシュアップ：インタフェースデザイン、DHTML 11. 成果発表と後期課題の提示 12. プロジェクト毎のプレゼンテーション 13 - 22. プロジェクト単位でのチームワークとワンポイント講義 (Web データベース、デジタルビデオ、DTM、アニメーションなど) 23. 成果発表 (1) 24. 成果発表 (2) 総括 		

科 目 名	情報科学特殊講義 A (プログラミング論・自然言語処理入門)	担当者名	呉 浩 東
-------	-----------------------------------	------	-------

講 義 の 目 標	本講義では、コンピュータの基本操作をマスターした外国語学部の学生を対象に、人間の言葉をコンピュータによる処理するために入門的な知識を習得することを目的とする。そのために、実際にプログラミングを行い、ソフトウェアの使用と開発の技能を身に付けることを目標とする。		
講 義 概 要	前期は、初めにコンピュータのハードウェアとソフトウェアを概説する。続いて、ソフトウェア開発の手順について講義し、プログラミング言語のひとつである Visual Basic を用いてプログラミングの方法を解説しながら、実習を行う。 後期は、自然言語処理の基本となる技術を中心に講義と実習を行う。初めに、文字列の基本操作について実例をあげながら解説と実習をする。さらに、単語の諸統計、誤綴の検出と訂正などに関する簡単なプログラムを紹介する。最後に、機械翻訳について解説し、機械翻訳ソフトウェアを使用して実習しながら自然言語処理の入門知識を学習する。		
使 用 教 材	テキスト	(1) 最初の講義で指示する。 (2) 随時必要な資料をファイルで配布する。	
	参考文献	必要に応じて、著書、ホームページ、ソフトウェアなどを紹介する。	
評 価 方 法	前・後期各一度のテストと、3～4回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	「コンピュータ入門」を既修か、または、それと同等程度のものを対象とします。人数が多い場合は、抽選を行う。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 コンピュータの構成要素と動作原理、コンピュータの種類、特徴、性能 2. プログラミング言語とオペレーティングシステム コンピュータと機械語、オペレーティングシステム、Windows と GUI 3. ソフトウェア開発手順 プログラム開発の手順、システム開発の手順 4. Visual Basic プログラミング (1): Visual Basic(VB)とは 画面構成、起動と終了、ウィンドウの構成と基本的な操作方法 5. Visual Basic プログラミング (2): VB を体験してみる コントロールの配置、プロパティの設定、画面のデザイン 6. Visual Basic プログラミング (3): 何を作ってみよう プログラムのコーディング、実行、保存および呼び出す 7. Visual Basic プログラミング (4): コントロールについて コントロールの種類、プロパティ値の設定 8. Visual Basic プログラミング (5): 画面オデザイン コントロールをデザインするコツ、プロパティの値の取得と演算、メソッド 9. Visual Basic プログラミング (6): データ型と演算子 データ型、変数と定数の宣言、演算子 10. Visual Basic プログラミング (7): ジェネラルプロシージャの活用 Sub プロシージャと Function プロシージャ 11. Visual Basic プログラミング (8): 選択のあるプログラム 選択ステートメント、コントロールの扱い方 12. Visual Basic プログラミング (9): 繰り返しのあるプログラム 各種繰り返し構造 13. Visual Basic プログラミング (1 0): プログラム フォームの設定、ラベル、オブジェクト、メソッド、プログラムの新規作成 14. Visual Basic プログラミング (1 1): グラフィックス グラフィックスを作る。 15. Visual Basic プログラミング (1 2): ファイル操作 キーボードからの操作、ファイルの保存と読み込み、実行ファイルの作成 16. Visual Basic プログラミング (1 3): プログラム (2) 配列を用いた実用プログラム例 17. Visual Basic プログラミング (1 4): プログラムのデバッグ プログラムのデバッグと実行ファイルの生成 18. 自然言語処理 (計算言語学) 入門 人工言語、自然言語、自然言語処理における課題 19. 単語処理 単語の同定、誤綴の検出と訂正 20. 言語処理の知識源 電子辞書、シソーラス、コーパス、言語データベース 21. 機械翻訳 (1) 形態素解析 22. 機械翻訳 (2) 構文木、文法規則、構文解析 23. 機械翻訳 (3) 文と単語の意味解析 24. 機械翻訳 (4) 機械翻訳システムの使用と評価
----------------------------	--

科 目 名	地域文化研究（現代英米社会研究）	担当者名	有 吉 広 介
-------	------------------	------	---------

講義の目標	英国社会を支えるミドルクラスの社会学的分析を通して、現代英国の社会構造および文化を理解する。		
講義概要	かつてミドルクラスは英国資本主義社会をつくりだした歴史的主体・ブルジョアジーであった。そしてこの国の伝統と革新とを独特な方法で調和させて近代の英国社会を生み出した。現代英国のミドルクラスは、19世紀末における経営者革命や官僚機構の発達に起源をおく専門経営者層、中間管理者層、専門技術者層、および大量の事務員層からなるホワイトカラー階級である。この階級の中核をなす人々は、家庭生活のなかでミドルクラスの文化を体得したうえで、英国の独特な教育システムを通して社会に送り出されて、英国の社会と文化とを支えている。本講義では、英国人の生活と文化とを読み取ってもらいたい。		
使用教材	テキスト	プリントを渡す。	
	参考文献		
評価方法	前・後期の終わりに求めるレポートにて評価する。		
受講者に対する要望など	講義に出席し、そこで要点を把握すること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英国におけるミドルクラスの現状 2. 産業革命前後のミドルクラス 3. 古典的ミドルクラスの性格 4. 前回に続く 5. 古典的ミドルクラスの文化 6. 新しいミドルクラスの出現 7. 現代におけるブルジョア階級の衰退 8. 専門経営層の確立 9. 前回に続く 10. 中間管理者層の出現と社会的地位 11. 前回に続く 12. 新旧の専門家層 13. 前回に続く 14. 実業家層の現状 15. 事務労働者の階級状況 16. 前回に続く 17. ミドルクラスの家庭生活 18. 前回に続く 19. ミドルクラスと教育 20. 前回に続く 21. ミドルクラスと余暇 22. ミドルクラスの政治的関心 23. ミドルクラスと政治リーダー 24. まとめ 		

科 目 名	地域文化研究（日本の民俗芸能）	担当者名	飯 島 一 彦
-------	-----------------	------	---------

講 義 の 目 標	日本人の生活の中に息づく芸能、すなわち民俗芸能は、現在でも日本の各地で伝承され演じられている。そこでは、長い年月の中で培われた日本の民衆の生活感覚や価値観が、現在でも濃厚に感じ取れる。表面的にはアメリカナイズされたごとくに見えて、モダンな我々日本人の生活は、実は、一皮めくれば千数百年以前の日本人の精神生活と同質の原理によって、多くは支配されているのだが、それを体感的知識として手に入れ、考えることを目標とする。		
講 義 概 要	私が現地で取材し、実写したビデオを中心にして、民俗芸能の映像を見ながら、それを題材とした講義を進める。常日頃のフィールドワークの成果をもとにするので、扱う民俗芸能自体は未定である。前期中に、クラスでフィールドワークを行なう。また夏期休暇中には各自のフィールドワークを課する。後期は、それをもとに発表形式の授業をする。		
使 用 教 材	テキスト	・ 特になし	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『日本の伝統芸能』 錦正社 ・ 『日本歴史と芸能』 平凡社 ・ 『芸能の原風景』 みづき書房 ・ その他、教室で指示する。 	
評 価 方 法	夏期休暇中のフィールドワークのレポート、及び冬期休暇中の課題レポート。提出しない者は評価の対象としない。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業の一環として行なうクラスのフィールドワークに必ず参加すること。もちろん各自のフィールドワークもしなければならないので、手間暇を惜しまず身体を動かし、文献を読み、調査する根気と体力が必要。		

年 間 授 業 計 画	1. 授業ガイダンス、民俗藝能とは
	2. 民俗藝能とは
	3.)
	4.)
	5.)
	6.)
	7.)
	8.)
	9.)
	10.)
	11.)
	12.)
	13. 前期中に1回、課外でフィールドワークを行なう。
	14. 夏期課題(各自のフィールドワーク)について、各自報告。
	15.)
	16.)
	17.)
	18.)
	19.)
	20.)
	21.)
	22.)
	23.)
	24. 一年間のまとめ。

時宜に応じて、ビデオを用いて講義。

時宜に応じて、ビデオ等を用いて、講義又は発表。

科 目 名	地域文化研究（スペイン歴史と文化）	担当者名	野々山 ミチコ
-------	-------------------	------	---------

講義の目標	スペインの過去・現在についてグローバルな全体像を提示する。その一助としてビデオを毎回用いる		
講義概要	前期はスペイン人の国民性はどのように形成され、その価値観はどのようなものかを考察する。また最も魅力的なアンダルシアをとりあげ闘牛・フラメンコにもふれる。 後期はスペインの社会問題を解説する。		
使用教材	テキスト	野々山真輝帆「すがおのスペイン文化史」(東洋書店)	
	参考文献	齊藤孝編「スペイン・ポルトガル現代史」(山川出版社) 野々山真輝帆「アミーゴとつきあう法」(晶文社) " " 「スペイン 辛口案内」 (")	
評価方法	テストによる。前期は講義の他テキスト「すがおのスペイン文化史」からも出題。		
受講者に対する要望など	歴史の流れを知るため、あらかじめ通史を読んでほしい。講義はそれを前提として進める。		
年間授業計画	1. スペイン人の 特性 2. " " 3. " " 4. " " 5. " " 6. " " 7. " " 8. " " 9. アンダルシアの魅力 10. 闘牛 11. フラメンコ 12. 聖母マリア崇拜 13. 現代社会 フランコから民主主義へ 14. ファン・カルロス国王 15. 教会 16. 家庭 17. 女性 18. " " 19. " " 20. 若者 21. 麻薬 22. ホームレス 23. 映画「トリスターナ」 24. " "		

科 目 名	地域文化研究 (中洋 - ネパール・インド・チベットの社会と文化)	担当者名	三 本 茂
-------	--------------------------------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>世界の文化を「西洋」と「東洋」の二つの地域に分け比較することが多いが、両者の間にはそのいずれとも異なる「中洋」とでも呼ばれるべき特有の文化を持つ広大な地域が広がっている。</p> <p>中洋はほぼインド文化圏とイスラム文化圏から成るが、担当者が訪れたことのあるネパール、インドおよび両文化圏と関連性の深いチベットの社会と文化の特徴を紹介し、それぞれの地域を結びつけている要因についても触れたい。</p> <p>また、地域文化間の交流のあり方についても考えてみたい。出来るだけ日本の社会と文化に関連付けながら述べたいと考えている。</p>		
講 義 概 要	<p>ネパール、インド、チベットの歴史を辿り、各地域の社会構造や日常生活の様子をできるだけ映像を通して紹介する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	なし	
	参考文献	必要に応じて紹介する。	
評 価 方 法	<p>原則的には前期に提出するレポートと後期の筆記試験の結果を併せて評価するが、そのほかにレポートの提出を求めることもある。</p>		
受 講 者 対 する 要 望 等	<p>質問などを通じて積極的に授業に参加してもらいたい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中洋の国々で出会ったこと、考えさせられたこと。 2. ネパールの歴史 3. ネパールの社会構造 4. ネパールの文化 5. ネパールの宗教 6. インドの歴史 7. インドの社会構造 8. インドの文化 9. インドの宗教 10. チベットの歴史 11. チベットの社会構造 12. チベットの文化 13. チベットの宗教 14. 三つの文化圏を結ぶもの - 仏教 15. 同 上 16. 同 上 17. 中洋の世界と日本 18. 同 上 19. 同 上 20. 同 上
----------------------------	---

科 目 名	比較文化論特殊講義 A (東西文化比較)	担当者名	近 衛 秀 健
-------	----------------------	------	---------

講義の目標	東西というが、今の日本の立場はそのどちらでもない奇妙な存在である。明治時代、彼等の生活を先進と見做し、ひたすらこれに近付きあわよくば追越そうとした結果が現日本である。他の未だ自国の伝統ある文化を捨てかね、西欧様式の取り込みをためらっているアジア諸国と比べ優越感にひたったりする事が文化論ではあるまい。現在われわれは大きなディレンマに立たされている。事実の分析により明日の生活の資となるような材料を見つけようではないか。		
講義概要	対象が二つあれば比較できる。“何か”とそれを観察している自分とで二つである。毎日の新聞の記事、過剰なまでの TV 情報に対し、自分が向かいあう。思索により結論がでてくる。千年前の“何か”と現在の自分、一万キロ彼方の“何か”と現在位置にいる自分、何ごとも比較できないものはない。今の日本人は西洋人でも東洋人でもない。乱れとぶ情報に流されず自分の居場所を確保する方法を考えてみよう。		
使用教材	テキスト	随時配布。	
	参考文献	世に参考にならぬ文献など存在しない。しかし全員がこれを読み、それに依って思索乃至行動するなら蟻の集団と変わらない。質問に応じ、読みたい人、調べたい人にはヒントを与えよう。	
評価方法	自分自身の思考能力を問うため、年二回のレポートを課します。		
受講者に対する要望など	これは語学習得などの段階的学習ではない。常に諸君は私と向合い毎時限私と対決する気持でいて欲しい。		
年間授業計画	1. 毎日の情報や、書物の抜粋を材に色々と考えてみる。その内容については情勢の変化に応じ予測できない。 2. 同上 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. 同上 16. 同上 17. 同上 18. 同上 19. 同上 20. 同上 21. 同上 22. 同上 23. 同上 24. 同上		

科 目 名	比較文化論特殊講義 A (能楽における中世武士の諸像)	担当者名	瀬 尾 菊 次
-------	--------------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	室町期に日本で大成された能が、そのあとの日本の芸能にどのような影響を与えていったかを、能の全体像を解明しながら考察する。また作品に登場する「中世武士」の生涯を通してその時代を読みとき、生活習慣・年中行事など昔から今に伝わる日本人の風習も考察していく。		
講 義 概 要	「判官びいき」の言葉を生み、日本人の考え方に影響を与えた「源義経」を主人公にした能「安宅」が、歌舞伎・映画にどのように取り入れられているかを、ビデオ鑑賞しながら作品研究をし、演技の表現方法を現役の能楽師としての立場から実技をふまえて探っていく。		
使 用 教 材	テキスト	関連資料のコピーを配布	
	参 考 文 献	資料コピーを配布	
評 価 方 法	能の史跡現地取材・講義まとめ・舞台鑑賞感想 以上 三点のレポートによる。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	一講義単立ではなく年間通じての連続講義であるので毎時出席を要望する。学問的解釈にとどまらないよう能楽堂での鑑賞を体験してもらおう。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間講義のあらまし。 2. 能楽の概説 3. 能楽の歴史 4. 能楽の諸役 5. 能舞台について 6. 能の現行曲。史跡現地取材との関連 7. 源義経の生涯と時代背景 その1 8. 源義経の生涯と時代背景 その2 9. 能における義経の作品 10. 能「安宅」の解釈と鑑賞 その1 本文解釈 11. " その2 作品ビデオ鑑賞 12. " その3 作品ビデオ鑑賞 13. 歌舞伎「勧進帳」の作品研究 14. 歌舞伎「勧進帳」のビデオ鑑賞 15. 能「安宅」と歌舞伎「勧進帳」との比較 その1 16. " その2 17. 黒沢明監督「虎の尾を踏む男達」の鑑賞 18. 能の演技表現 19. 能「安宅」の作品研究 20. 能の作品構成・現在能と夢幻能 その1 21. " その2 22. 夢幻能の解釈とビデオ鑑賞 その1 23. " その2 24. まとめ
----------------------------	--

科 目 名	比較文化論特殊講義 A (中国社会論)	担当者名	辻 康 吾
-------	---------------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>日中両国の関係についてしばしば「同文同種」とか「一衣帯水」という言葉が安易に使われ、また同じ漢字の国だから理解しやすいと言う重大な誤解がある。もちろんイスラム圏からみれば日中の違いはさほどのことはないが、日中両国のみを比較するなら、共通点よりも、むしろその違いに驚かされることが多い。本講義ではそうした誤解を解き、日中両国の相違点と近似点を整理し、双方の理解を深めることを目的としている。</p>		
講 義 概 要			
使 用 教 材	テキスト	<p>山口修著「日中交渉史」東方書店 1600 円 その他教材は授業で配布</p>	
	参 考 文 献	<p>魯迅「阿 Q 正伝」、林語堂「中国論抄」</p>	
評 価 方 法			
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年間授業計画

1	民族性論の検討	14	李佩甫『羊的門』研究
2	比較文化論検討	15	同
3	日本人の見た中国人 1	16	同
4	同 2	17	同
5	同 3	18	同
6	中国人の見た日本人 1	19	同
7	同 2	20	同
8	同 3	21	同
9	中国人の見た中国人 1	22	同
10	同 2	23	同
11	同 3	24	まとめ
12	同 4		
13	中国社会の基本状況		

科 目 名	比較文化論特殊講義 A (比較教育)	担当者名	鳥谷部 志乃恵
-------	--------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>教育事象を比較と関係から考察し、各国や文化圏における教育を基本から支えている多様な特質を明らかにすることを目的とする。また今日の日本の教育課題を国際的視野の中で検討し、多様な現象の根底にひそむ普遍的な問題を把握することにも留意する。</p>		
講 義 概 要	<p>比較教育についての理解を深めるため、研究の目的、内容、方法等について話す。またアメリカ、フランス、イギリス、ドイツ各国の教育と文化の特質について明らかにし、日本との比較をすることで両国間の教育、及び欧米の教育との相違について理解を深める。</p>		
使 用 教 材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	<p>権藤與志夫編著『二十一世紀をめざす世界の教育 - 理念・制度・実践』(九州大学出版会、1994年)</p> <p>石附実著『教育の比較文化誌』(玉川大学出版部、1995年)</p> <p>レ・タン・コイ著(前平泰史他訳)『比較教育学 - グローバルな視座を求めて』(行路社、1991年)</p>	
評 価 方 法	<p>前期と後期、2回のレポート提出を条件とする。 討議における小レポートの提出も条件とする。 これらのレポートを総合的に評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>教育と文化への関心をもつ人の参加を期待する。</p>		

年 間 授 業 計 画	1. 比較教育学の概念	
	2. 比較教育学研究の方法と内容	
	3. 教育事象の国際比較研究の歩み	
	4. アメリカの教育と日本の教育の比較 (1)	多様性と教育
	5. " (2)	個の文化と集団の文化
	6. " (3)	国家と教育改革
	7. " (4)	教育と競争社会
	8. 討 議 (5)	国際比較から明らかになる日本の課題
	9. イギリスの教育と日本の教育の比較 (1)	「自由」と「個性」の伝統
	10. " (2)	教育改革の比較
	11. " (3)	トピック学習と総合学習
	12. " (4)	社会階層とパートナーシップ
	討 議 (5)	国際比較から明らかになる日本の課題
	13. ドイツの教育と日本の教育の比較 (1)	文化連邦主義の伝統
	14. " (2)	教育制度の歴史
	15. " (3)	学校・家庭・地域社会の関係
	16. " (4)	東西ドイツ統合による教育の再編
	17. 討 議 (5)	国際比較から明らかになる日本の課題
	18. フランスの教育と日本の教育の比較 (1)	知性主義の伝統
	19. " (2)	教育のシステムの比較
	20. " (3)	教育制度の歴史
	21. " (4)	教員養成の専門性
	22. 討 議 (5)	国際比較から明らかになる日本の課題
	23. 討議 ... 各国との比較で明らかになった日本の教育について	
24. 討議 ... 教育の国際比較から明らかになる本質的な問題		

科 目 名	比較文化論特殊講義 A (アラブ文化・芸術)	担当者名	本 田 孝 一
-------	------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義では、アラブ文化、特にアラブの芸術を中心に、その特性を考えることを目的とします。またある意味で両端にあるともいえる日本文化とアラブ文化との対比を通して、21世紀の国際化時代の中で異文化間でどう共生していかなければならないかを考えます。</p>		
講 義 概 要	<p>講師の長年にわたるアラブとの関わり、特に講師のアラビア書道家としての活動を通して得た体験を中心にお話します。授業には映像（ビデオ、スライド等）を多用する予定。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	特にありません。	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>初めに題を出し、簡単な作文を書いてもらいます。(できたら、それを受講生全員参加の作文集として一冊の本にまとめて印刷する予定です。有料)</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>本講座は人数的に多いことを望みません。具体的にはオリエンテーションの最初の時間に教室（中教室）の席に座れる人数だけを原則とします。受講したい人はその時間に早めに来て下さい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. Introduction</p> <p>2. アラブ全体について、「アラブとは何か」を考えます。</p> <p>3. アラブの言語であり、イスラム教の言語でもあるアラビア語について考察します。</p> <p>4. アラブの衣食住研究（1）</p> <p>5. アラブの衣食住研究（2）</p> <p>6. アラブの衣食住研究（3）</p> <p>7. アラブ文化の源である砂漠的文化について、その住民であるベトウインの生活を紹介します。</p> <p>8. 講師のサウジアラビア砂漠での体験を話します。</p> <p>9. アラブの芸術全体について、その特性を考えます。</p> <p>10. アラブの宗教である「イスラム教」について、その誕生の意味や教義について講師の実体験からお話します。</p> <p>11. 映画「アラビアのロレンス」を観ながらアラブと西欧の考え方の違いを探ります。</p> <p>12. 「アラビアのロレンス」の中でロレンスの実像と虚像を探り、彼のアウトサイダー的側面を考えます。</p> <p>13. アラブ芸術の中で最も中心的な位置を占めているアラビア書道芸術の入門（1）</p> <p>14. " (2)</p> <p>15. " (3)</p> <p>16. アラブの装飾美術（トルコやペルシャの細密画など）を鑑賞し、それが持っている意味を探ります。</p> <p>17. エジプト映画「バイナル・カスライン」（エジプトのノーベル賞受賞作家の小説）を観ながらアラブ社会のあり方を考察します。（1）</p> <p>18. " (2)</p> <p>19. アラブの音楽について、その代表的な楽器ウードの演奏を聴きながら考察します。</p> <p>20. 今世紀が生んだアラブ文学の異色作家、詩人であるハリール・ジブラーンについて、彼の代表作『プロフェット』（預言者）を通して紹介します。（1）</p> <p>21. " (2)</p> <p>22. アラブと関わりの深かった『星の王子さま』の著者、サン・テグジュペリについて、彼の代表作の一つ『人間の大地』を通して考察します。</p> <p>23. 受講生の作文集作成の準備。</p> <p>24. まとめ。講師自身のアラブとの書道芸術を通しての将来的関わりをお話します。</p>
----------------------------	---

科 目 名	日本語教育概論	担当者名	井 口 厚 夫
-------	---------	------	---------

講義の目標	<p>日本語教育とは何か、日本語教育に何が今起きているかを理解する。</p> <p>日本語教師になる者だけを対象とした講義ではないので、語学教育や日本語を教えることに興味を持つ学生に広く受講してもらいたい。</p>		
講義概要	<p>このコースでは、日本語教育がどのようなものかを紹介し、概観する。併せて外国語教育に関連した諸々の問題にも触れる。</p>		
使用教材	テキスト	遠藤織枝『概説日本語教育』三修社	
	参考文献	その都度指示。	
評価方法	気づきノート・レポート・前期試験・後期試験の4つによって評価する。		
受講者に対する要望など	『日本語教授法』の前にこのコースを取ることが望ましい。日本語を外国人に教えることに興味を持つ者は、まずこの授業から入ること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・日本語授業の実際 2. 日本語教育とは何か・日本語教育と国語教育 3. 日本人なら日本語が教えられるか - 日本語と外国語(音) 4. 日本語と外国語(文法) 5. 日本語と外国語(文法2) 6. 君の日本語は大丈夫か - ら抜き言葉など 7. 辞書の話 8. 教授法あれこれ - - その歴史的発展と特長 9. 教授法あれこれ - - その歴史的発展と特長 その2 10. 外国人の日本語・外国人に通じる日本語 11. 海外で教える・ケーススタディ 12. まとめ 13. 日本語教育の歴史1(黎明~戦前) 14. 日本語教育の歴史2(戦後) 15. 日本語教育の現状 16. 日本語学習者の姿・異文化理解とカルチャーショック 17. 海外で教える その2 18. 海外で教える その3 19. 日本語教師論 20. 日本語教育能力検定試験について 21. 日本語教育の抱える問題点 22. 日本語教育の将来 23. まとめ 24. (予備) 		

科 目 名	日本語教授法	担当者名	中 西 家 栄 子
-------	--------	------	-----------

講 義 の 目 標	言語理論及び言語学習理論の理解を深めた上で、日本語教育に当たって必要とされる日本語の知識と具体的な日本語の教授法を習得する。				
講 義 概 要	言語学習・習得理論、それに基づくさまざまな外国語教授法を紹介したのち、日本語教育に関し、教材開発、教案の書き方、教室活動のマネジメント、4技能のレベル別指導方法、評価方法、テストの作り方等、具体的に例を見せながら指導する。特に、言語教育には言語伝達能力の育成が重要であることを強調し、学生には言語運用能力の教育を重視した教案・教材を作成させ、グループワークを通じて言語教育の方法を理解且つ習得させる。文法・語彙指導は特に強調する点で、日本語の文型を言語機能として捉え、それをどのように学習者に紹介・導入するか、導入した後、それをどのような練習を通して習得させるか等、段階的に様々な活動を積み上げていき、最終的には発話場面や文脈に沿った言語運用ができるように指導する方法について学習する。				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>中西家栄子・茅野直子『実践日本語教授法』バベル出版 プリントのハンドアウト</td> </tr> <tr> <td>参 考 文 献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ D. スタインバーグ『言語心理学』 研究社 ・ A. C. Omaggio “ <i>Teaching Language in Context</i> ” ・ 名柄迪・茅野直子・中西家栄子『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』アルク出版 ・『にほんごのきそ 教師用指導書』財団法人海外技術研修協会 ・ ビビアン・クック 米山朝二訳『第2言語の学習と教授』研究社 </td> </tr> </table>	テキスト	中西家栄子・茅野直子『実践日本語教授法』バベル出版 プリントのハンドアウト	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ D. スタインバーグ『言語心理学』 研究社 ・ A. C. Omaggio “ <i>Teaching Language in Context</i> ” ・ 名柄迪・茅野直子・中西家栄子『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』アルク出版 ・『にほんごのきそ 教師用指導書』財団法人海外技術研修協会 ・ ビビアン・クック 米山朝二訳『第2言語の学習と教授』研究社
テキスト	中西家栄子・茅野直子『実践日本語教授法』バベル出版 プリントのハンドアウト				
参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ D. スタインバーグ『言語心理学』 研究社 ・ A. C. Omaggio “ <i>Teaching Language in Context</i> ” ・ 名柄迪・茅野直子・中西家栄子『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』アルク出版 ・『にほんごのきそ 教師用指導書』財団法人海外技術研修協会 ・ ビビアン・クック 米山朝二訳『第2言語の学習と教授』研究社 				
評 価 方 法	1) 中間・期末テスト 30% + 30% 2) 課題提出 20% 3) 出席 20%				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	本クラスを取るまえに日本語教育概論又は日本語学概論を履修していること。また、日本語文法論・音声学等も履修していることが望ましい。実践的な内容の科目なので、出席を非常に重視する。 <u>従って6回以上の欠席は認めない。</u>				

年 間 授 業 計 画	前 期	
	週	主 要 テ - マ
	1	オリエンテーション
	2	コースデザインの概要・ニーズ分析とシラバス・学習者の要因
	3	言語教育の基礎理論・第一言語習得・第二言語習得の違い
	4	教材 1。教科書の分析・教材 初級・中級の文型と語彙 2。その他の専門教材
	5	同上
	6	教室活動と授業分析・教案の書き方
	7	同上
	8	音声の指導法 (Video) と教材の作成 同上
	9	聴解の教材作成と指導 1。初級 2。中級 3。上級 同上
	10	文字表記の指導と教材 1。平仮名・片仮名の導入 2。漢字圏・非漢字圏の学習者の指導
	11	同上
	12	同上
	備考	
	後 期	
	週	主 要 テ - マ
	1	読解力の養成 精読・スキミングと教材作成 1。初級 2。中級 3。上級
	2	同上
	3	文法の指導と教材 意味と文型の導入 1。ドリルから応用へ 2。絵教材・その他の教材の作成と検討
	4	同上
	5	同上
	6	会話指導と教材 (上級のディベート教材の作成)
	7	同上
	8	Video 教材の紹介とその使用方法
9	同上	
10	作文の指導法と評価の方法	
11	同上	
12	評価とテストの作成法	
備考		

科 目 名	日本語教授法	担当者名	井 口 厚 夫 中 西 家 栄 子
-------	--------	------	----------------------

講義の目標	外国語としての日本語を教える方法を考え学ぶ。		
講義概要	日本語教育機関での実習を行うための完全に演習的な授業。従って、毎回学生による模擬授業が行われ、その授業観察を通じて、各人が授業内容、進め方、等について具体的に検討しあう。教案作成、様々な副教材の作成も科せられる。 なお、前期完結科目（週一回の講義と集中講義、4単位）として行うので、時間割をよく確認して履修すること。		
使用教材	テキスト	『しんにほんごのきそ』・『しんにほんごのきそ 教師用書』（スリーエーネットワーク）中級については未定。	
	参考文献	授業中に紹介する。	
評価方法	教案提出・模擬授業・教材発表 模擬授業（2回） 教材の提出 模擬授業の反省と自己分析 テストはなし 出席		
受講者に対する要望など	クラス活動への参加が重要なので、欠席は極力避けること。		
年間授業計画	1. オリエンテーション 2. 教材の研究・検討 3. 教案の書き方とオブザベーション 4. 模擬授業 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 中級における文法・表現項目 14. 教材の研究・検討 15. 模擬授業 16. 同上 17. 同上 18. 同上 19. 同上 20. 同上 21. 同上 22. 同上 23. 同上 24. 同上		

科目名	日本語文法論	担当者名	城田 俊
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>伝統的な「助詞・助動詞論」に立って日本語の文法を把握しようとする江戸時代に開発された「活用」という概念に大きく頼らざるを得ない。そうなると、「未然形」という統一的理解が不可能な形態と「終止形」「命令形」という内容が明確な語形を混在させるところの「活用」とは一体何かという問題にぶつかる。しかし、この理解しにくい「活用」の概念なくしても日本文法の記述は可能である。可能というばかりではない。より明快な文法が現出する。</p>		
講義概要	<p>下記のテキストに基本的に従い、日本文法の常識的知識を整理する。その上で、語のかたちという観点から、その意味・機能・用法をとらえるよう努める。特に、<u>タペロ</u>のような語尾のかたち、<u>タペサセ</u>(ル)のような語幹のかたち、<u>読ンデイル</u>のような結合的なかたちの区別を学び、文法カテゴリー、テンス、アスペクト、ヴォイス、ムード、やり・もらい等の理解を深める。日本語の語尾形による体系、語幹の拡大によって示される文法形態の体系、語尾形と補助動詞との結合によって示される文法形態の体系をしっかりと把握する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>城田 俊 『日本語形態論』ひつじ書房</p>	
	参考文献	<p>寺村秀夫 『日本語のシンタクシスと意味』 、 、 くろしお出版 鈴木重幸 『日本語文法形態論』むぎ書房 井口厚夫・井口裕子 『日本語文法整理読本』バベル・プレス 吉川武時 『日本語文法入門』アルク (NAFL 選書 6)</p>	
評価方法	<p>前期・後期定期試験期間中に一回試験を行う。授業態度も考慮する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>シラバスに記したものと授業とでは多少前後することがある。授業中受講者に質問することがある。積極的参加が望まれる。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：形態と形態論、文法的形態、文法形態の展望、ダロウと推量形、語の活用と文の活用、語尾活用と語幹活用 - 語尾形と語幹形、基本語幹活用と二次語幹活用、語的つらなり。 2. 文法的内容をとらえるめやす：ヒトと構成者 - 行為者・対象等、発話行為とその構成者 - 話し手・聞き手・第三者。語形：動詞と名詞、語彙語幹と助辞、語尾助辞と語幹助辞、子音語幹と母音語幹、結合子音と結合母音等。 3. 語尾形、語幹形、語幹形の語尾活用。語尾形：終止形 - 伝達話法と呼掛け話法、伝達話法 - 叙述語法と推量話法、叙述語法 - 現在形と過去形、推量話法。 4. 呼掛け話法 - 命令話法と意志・勧誘話法、命令話法（形成・意味・用法）、意志・勧誘話法（形成・意味・用法）、連用形：接続形（形成・意味・用法）、条件形（形成・意味・用法）、例示形（形成・意味・用法）。 5. 汎用形〔いわゆる連用形〕（形成・意味・接続形との競合、移動の目的表示、強調表現、二次語幹形のもととなる汎用形、語的つらなりのもととなる汎用形、語形成を行う汎用形 - 複合動詞、名詞形成、否定汎用形）。 6. 語幹形：基本語幹形（否定語幹の後行特性、使役・受身態、使役・可能態、受身・可能態）。 7. 二次語幹形：動詞語幹 - 過剰相スギル（形成・意味・用法）、尊敬ナサル、オ + 汎用形 + ナサル等、願望態形容詞タイ（形成・意味・用法）、願望態動詞タガル（形成・意味・用法）、傾向・容易態形容詞ヤスイ。 8. 傾向態状詞ガチ・ギミ（形成・意味・用法）、可能態動詞エル・カネル（意味・用法）、動作相 - 段階相動詞の形成・意味・用法（始メル・始マル・ダス等、カエル、カカル、オエル、オウル、ヤメル、ヤム、サス等）。 9. 様態相動詞の形成・意味・用法（続ケル・続ク・ツケル、ナレル・ナラワス、オボエル、タテル、マクル、チラス、マウル、アルク、ツメル、ハテル、シメル、スエル、返ス、タス、加工エル、タリル、ツカレル等）。 10. 将前相状詞の形成・意味・用法（ソウダ） 関連〔タクシス〕：ナガラ、ツツ、ツイデニ、ガテラ、カタガタ、シダイ等。 11. 結合形、汎用形ベースの結合形 - 形成・意味・用法、尊敬汎用形ベースの結合形、接続形ベースの結合形：テシマク（形成・意味・用法）、テイル（形成・意味・用法）、テイクノクル、テミル等。 12. テクレル、テヤル、テモラウ（形成・意味・用法）、前期試験への注意。 13. 文形、文の活用、語法文尾助辞と待遇文尾助辞、文形変化、かわり文形、文のバラダイム、文形の語形変化、語法体系、語法 - 叙述話法と推量話法、叙述話法 - 平叙話法と既定話法（いわゆるノダ文）。 14. 平叙話法（形成・意味・用法・待遇）、既定話法（形成・意味・用法、語話用、ノダッタ、ノデ、ノデ + 主文とカラ + 主文、ノデの共起制限、ニとは何か、状態汎用形、語的つらなり - ノデアル、ノデナイ、スコープ）。 15. 推量話法、無確信話法 - 無準拠無確信話法と準拠無確信話法、無準拠無確信（カモシレナイ）文形（形成・意味・用法・語活用、他の文形の無準拠無確信文形化）、準拠無確信（ソウダ）文形（形成・意味・用法等）。 16. 確信話法、無準拠話法、無準拠弱確信（ダロウ）文形（形成・意味・用法、他の文形のダロウ文形化）、無準拠強確信（ニチガイナイ）文形（形成・意味・用法、他の文形のニチガイナイ文形化、語活用、結合形）。 17. 準拠話法、内在準拠確信（ヨウダ）文形（形成・意味・用法、語活用、語的つらなり、他の文形の内在準拠確信文形化） 外在準拠確信（ラシイ）文形（形成・意味・用法、語活用、結合形等）。 18. 待遇 - 通常待遇と丁寧待遇（形成、動詞文 + デスの使用制限、デスとマス、語活用、デシタとタデス、ナイデスとマセンとシマセン、ダ・ダロウ、デス・デショウ等の二重性、デ・ニ・ナラ等の諸問題）。 19. 主語撲滅論について、主語と術語、ガ格の優位性、文法格と副詞格、一次機能と二次機能、ヲ、ガ、ニ、デ、カラ、ト（1）、ト（2）、ヘ、マデ、ヨリカ、ノ、連用補語と連用修飾語の区別、不定格。 20. 副助詞、完全副助詞、不完全副助詞。 21. 体言とは、正常体言、名詞とは、ダナニ状詞、ダノニ状詞、ダノゼロ状詞、不完全体言、ダナ状詞、ダノ状詞、タルト状詞、純副詞、連体詞。 22. 日本文法への形態音素論的注解。 23. 文法論（語論と文論）、形態素論の可能性、国文法における「活用」の概念、語幹変化か語形変化か。 24. 復習・整理・まとめ。後期試験に関する注意。
----------------------------	--

科 目 名	日本語音声学	担当者名	城 田 俊
-------	--------	------	-------

講 義 の 目 標	日本語音声の実践的・構造的把握をめざす。それは正しい日本語をみずから話すためばかりでなく、外国人に正しい標準の日本語を教え、発音上の誤りを矯正するのに役立つ。また、事象を構造的に、理論的にとらえるためにも音声の理論的把握は必要である。哲学的・思想的立場としてある構造主義も、また、現在人文科学で広く用いられる構造主義的手法も言語音声の研究成果を出発点としている。				
講 義 概 要	調音音声学の基礎を講じ、それを基盤にして日本語の子音・母音を調音面から解説する（講義の形態をとるが、時に受講者を指名して、発音練習を行うことがある）。次に音節に話しを進め、それがなす体系には基本体系と第二体系が併存し、その異なりと発展のメカニズムを明らかにする。アクセントの正しい学び方・教え方に話しを及ぼす。 第二部としてある音素論では、位置の差に着目しながら子音体系・母音体系をとらえ、日本語にはいかなる子音音素・母音音素があるかを論じる。				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>城田俊 『日本語の音（おと） 音声学と音韻論』ひつじ書房（テスト版）</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・服部四郎 『音声学』 岩波書店 ・川上泰 『日本語音声概説』 桜楓社 ・猪塚元・猪塚恵美子 『日本語の音声入門』 バベル・プレス ・マリンベル・大橋保夫訳 『音声学』 白水社（文庫クセジュ） ・城生伯太郎 「現代日本語の音韻」『岩波講座日本語』5『音韻』 岩波書店 </td> </tr> </table>	テキスト	城田俊 『日本語の音（おと） 音声学と音韻論』ひつじ書房（テスト版）	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・服部四郎 『音声学』 岩波書店 ・川上泰 『日本語音声概説』 桜楓社 ・猪塚元・猪塚恵美子 『日本語の音声入門』 バベル・プレス ・マリンベル・大橋保夫訳 『音声学』 白水社（文庫クセジュ） ・城生伯太郎 「現代日本語の音韻」『岩波講座日本語』5『音韻』 岩波書店
テキスト	城田俊 『日本語の音（おと） 音声学と音韻論』ひつじ書房（テスト版）				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・服部四郎 『音声学』 岩波書店 ・川上泰 『日本語音声概説』 桜楓社 ・猪塚元・猪塚恵美子 『日本語の音声入門』 バベル・プレス ・マリンベル・大橋保夫訳 『音声学』 白水社（文庫クセジュ） ・城生伯太郎 「現代日本語の音韻」『岩波講座日本語』5『音韻』 岩波書店 				
評 価 方 法	前期・後期共定期試験期間中に試験を行う。 受講態度も考慮する。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業への積極的参加を望みたい。				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 部 音声学、単音、ことばの音(おと)、1 単音か 2 単音か。 2. 発音記号、調音器官。 3. 子音と母音(テキスト 1・2・3 併せて 1-25 頁)。 4. 子音の分類、調音点による分類、調音方法による分類、無音子音・有声子音。 5. 非口蓋化子音、口蓋化子音、有気音、無気音、重ね子音。 6. 子音の調音、閉鎖音(1)。 7. 閉鎖音(2)。 8. 弱い閉鎖音、摩擦音(テキスト 4・5・6・7・8 併せて 26-52 頁)。 9. 弱い摩擦音、破擦音。 10. 鼻音。 11. はじき音、ふるえ音、側面音(テキスト 9・10・11 併せて 52-64 頁)。 12. 前期講義の要点の復習。前期試験の概要の説明。 13. 母音、母音の分類、舌の位置、唇の丸め、ジョーンズの「基本母音」。 14. 母音の調音。 15. 長母音、無声化母音、鼻音化母音(テキスト 13・14・15 併せて 65-79 頁)。 16. 日本語の音節、基本体系(伝承された体系、閉鎖体系)、[e][i]に関する規制、[t][ts] [d]に関する規制、[h][]に関する規制、[w]に関する規制。 17. 第二体系(革新体系、開放体系)、両体系の差。 18. 長音節、促音付き音節、撥音付き音節、引き音付音節、イ音付音節、拡大長音節、拍、日本語 音節の特徴(テキスト 16・17・18 併せて 80-112 頁)。 19. アクセント、共通語のアクセント、その体系の把握。 20. 他言語との対照、高さアクセント・強さアクセント、統語機能、固定アクセントと自由アクセ ント、意味機能、アクセント核(テキスト 19・20 併せて 113-124 頁)。 21. 第 部 音韻論、音素論()、母音音素、音素の定義、母音の分布、母音音素。 22. 音素論()、子音の分布と子音音素。 23. 基本体系と第二体系、文化の問題、「開かれた受容性」と「同化による閉鎖性」。 24. 後期講義の要点の復習。全体の展望。後期試験の概要の説明。
----------------------------	---

科 目 名	対照言語学	担当者名	中 西 家 栄 子
-------	-------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>二言語間（日本語と他の言語 基本的には英語）の様相を体系的に比較対照することによって、次のことについて理解を深める。 1）それぞれの言語についての体系的知識 2）言語の背景にある発想法 3）第二言語としての日本語習得への干渉 4）日本語教育への応用</p>		
講 義 概 要	<p>対照言語学の目標は二つの言語（この場合は日本語と英語）の共時的な比較対照を行い、そこでの結果をいかに日本語教育に応用するかを考えて行くことと捉える。その一方で二言語の体系的な知識を得るといった目的も達成するように指導していく。日本語を学ぶ場合、学習者の母語と日本語の相違がどのような影響を与えるか、比較対照することによってかなりのことが予測できる。また、日本語の誤用の原因もその相違によって説明できることが多い。誤用の原因としては中間言語的なものも多くあるが、それが母語からの干渉とはどのように異なるのか、この講義を通じて理解していく。従って、講義の具体的な方法としては、まず誤用の資料を検討・分析し、次に検討した事柄についていろいろな角度から比較対照を試みる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	無し。但しテーマごとにプリントの配布があり、それが最終的にはテキストとなる。	
	参 考 文 献	<p>安藤貞雄『英語の論理・日本語の論理』大修館書店 森田良行『日本語の視点』創拓社 水谷信子『日英比較話し言葉の文法』くろしお出版 国広哲弥編『日英語比較講座 1 4巻』大修館書店 吉川千鶴子『日英比較動詞の文法』くろしお出版 『講座日本語学』外国語との対照 10、11、12 くろしお出版</p>	
評 価 方 法	<p>1）中間・期末テスト 30% + 30% 2）レポートの発表と提出 30% 3）出席 10% 欠席6回以上は認めない。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>テキストはなく毎回の配布プリントがテキストになる。従って、きちんと出席しないと授業についていけなくなることに注意。レポート発表は全員する。どのテーマで発表するか早くから考えをまとめておくこと。すくなくとも日本語学概論・日本語学は履修していることが望ましい。</p>		

年	前 期	
	週	主 要 テ - マ
	1	オリエンテーション 語順（説明）
	2	語順 無生物主語の構文（説明） 所有格（説明）
	3	無生物主語の構文 所有格 人称代婦詞・指示代名詞（説明）
	4	人称代名詞・指示代名詞 Of + 名詞 （説明）
	5	Of + 名詞 形容詞・副詞 （説明）
	6	比較級・最上級 形容詞・副詞 自動詞文・他動詞文（説明）
	7	自動詞文・他動詞文 否定（説明）
	8	否定 受動態（説明）
	9	受動態 連体修飾（説明）
	10	連体修飾
	11	連体修飾 仮定法（説明） 話法（説明）
12	仮定法 時制・接続詞	
授	備考	
業	後 期	
	週	主 要 テ - マ
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題発表 各人が自分の課題を決めて発表 ・ 各テーマについての誤用分析 ・ 対照・誤用分析に基づいた日本語の導入と 説明及び練習問題の作成
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
12		
計	備考	

科目名	日本語史	担当者名	小島幸枝
-----	------	------	------

講義の目標	<p>日本語は、まだ日本民族が文字をもたなかった文献以前の時代から現代まで、日本列島に行われてきた言語である。海洋の島国という地理的条件から、古来日本人には外来文化を消化・吸収する能力が培われてきた。このことは、日本語の歴史においてどのような面に成果があらわれ、どのように日本語を生成発展させてきただろうか。今年度も語彙をとりあげ、その史の変遷を辿ることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>講述にあたっては、時代を日本の政治区分に従い、上代・中古・中世・近世・近代・現代に分けて、主として古辞書、各種文献資料によって、各時代ごとの語彙の特徴を知り、その変遷の要因を考察する。</p>		
使用教材	テキスト	山口明穂他編『日本語の歴史』(東大出版会)	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・亀井孝他編『日本語の歴史』1～7 (平凡社) ・永山勇『国語史概説』(風間書房) ・国語学会編『国語の歴史』(改訂版)(刀江書院) ・「講座解釈と文法」1～7(明治書院) ・山田孝雄『国語の中に於ける漢語の研究』(宝文館) ・土井忠生編『日本語の歴史』(至文堂) その他 	
評価方法	前期・後期にレポート各1本		
受講者に対する要望など	<p>日本史の基礎知識をもっていること。および国語学を履修した上で受講することがのぞましい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国語学の諸分野 2. 国語史の時代区分 3. 奈良時代 - 上代特殊仮名遣、万葉仮名 4. 奈良時代 - 音韻と文字、カタカナと反切 5. 平安時代 - 平仮名の発明、かなづかいの問題 6. 音韻史（室町時代の音韻、庶民の抬頭） 7. 江戸時代の言語 - 前期 上方文化の音韻 8. 江戸時代の言語 - 後期 江戸文化の音韻 9. 明治時代以降の音韻と文字（ローマ字） 10. 文字史（上代 ~ 現代まで） 11. 文法史の概要 1 12. 文法史の概要 2 13. 文法史の概要 3 14. 語彙史概要 15. 上代の語彙 1 - 日本語系統論との関連 16. 上代の語彙 2 17. 中古の語彙 1 - 男子の漢文訓読文体と女性和文体の関連において 18. 中古の語彙 2 19. 中世の語彙 1 - 軍記物語の語彙 20. 中世の語彙 2 - 抄物とキリシタン物 21. 中世の語彙 3 22. 近世の語彙 1 - 上方文化と江戸文化 23. 近世の語彙 2 - ヨーロッパ文化と翻訳語 24. 21 世紀の日本語への展望
----------------------------	--

科 目 名	スペイン語	担当者名	J.フェレーラス
-------	-------	------	----------

講 義 の 目 標	<p>第 1 目標は、日本語にないスペイン語の独特な「音」を一人一人にくりかえさせて、スペイン語らしい発音ができるようにするとともに、聞き取り能力を養成する。</p> <p>第 2 目標は、さらにスペインあるいはラテンアメリカの文化理解を深めながら、自分の体験を活用して、日本文化と比較すること。</p>		
講 義 概 要	<p>ビデオ教材などを持ちいて、スペイン語の聞き取り練習をする。また、自然なスペイン語が話せるように練習をおこなう。さらに、スペイン語の発話に伴うジェスチャーも練習する。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	プリント	
	参 考 文 献	¡Hola, amigos! 西和辞典	
評 価 方 法	授業への積極的参加およびテスト。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業中に集中すること。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. スペイン語の l. r と rr の聞き取り。 2. スペイン語の l. r と rr の発音練習。 3. スペイン語らしいイントネーション。 4. 直接目的格代名詞。 5. 再帰動詞 。 6. 再帰動詞 。 7. 点過去と線過去の使い方とその組み合わせ。 8. ser + 過去分詞、estar + 過去分詞。 9. 現在分詞。 10. 接続法の 1。 11. 接続法の 2。 12. 復習。 13. 前置詞。 14. 関係代名詞。 15. 所有形容詞。 16. 旅行に使う言葉。 17. 買物に使う言葉。 18. 「愛」の表現。 19. 侮辱。 20. 日本文化、スペイン語で語る 。 21. 日本文化、スペイン語で語る 。 22. 日本文化、スペイン語で語る 。 23. 日本とスペイン語圏の国々の文化比較。 24. 復習
----------------------------	--

科 目 名	共通演習	担当者名	青柳多恵子
-------	------	------	-------

講義の目標	<p>「食文化と祭り」を主題に、今年度は東洋と西洋の国々の歴史的な生活とそこで培われた食文化と各地域の祭りを中心課題として採り上げる。日本・中国・イギリス・ドイツ・アメリカ・東南アジアを中心にその成り立ちや、食生活の楽しみ方や、日々の生活における食文化の位置や、祭りとしての歴史について、特に現在のめまぐるしい世の中で、どのように伝承され、どのような形で残されてきたか、「日本」の料理や祭りを検証し、その中で古い時代を考察し、あわせて生活の楽しみ方を学ぶ材料としたい。「ゼミナール」入門として、どのような形で「ゼミ」が進められるかを学ぶ講座です。</p>		
講義概要	<p>「ゼミナール」の運営の仕方、各テーマの報告と討論を中心に行う。各国の独自の発展によるものや、影響を受けた国や芸能・文化が如何なる発展と変化を為したか等、解説をしていく。全体としての研究の成果を作成していくことは勿論ゼミとしても楽しくありたい。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出席と報告・検証・討議への参加など総合的に評価する。		
受講者に対する要望など	食文化・祭りに興味を持ち、積極的に取りくむ姿勢を要望。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間ゼミとしての進め方と具体的内容について説明。 2～4. 世界各地の食文化の誕生と発展を検証 4～6. 地域毎の食文化と芸能・祭りの歴史 7～9. 世界各地に伝承されている民族固有の食文化の検証 10～12. 日本の食文化と現代の食事情 13～15. 祭り食の意味するもの（生活・健康） 16～18. 各グループでの実施検証と報告 19～21. 世界各地の祭りに伴うクッキーの再現 22～24. 日本各地の祭りのもてなし料理の再現 		

科目名	共通演習	担当者名	有吉広介
-----	------	------	------

講義の目標	現代の英国社会を学ぶ 現代の英国社会では、従来の社会構造に基礎を置く生活様式と、新しく起こってきた社会構造および文化に対応する生活様式とが混じりあって、ときには社会問題も生まれている。そこで、英国の社会構造や文化に関する社会学的分析を中心に、英国人の行動様式や生活文化を深く理解することを目標とする。		
講義概要	まず現代イギリスにおける家族と家庭生活を取り上げて、社会が変化するなかで、伝統的なタイプとは違うさまざまな家族とその生活が生まれていて、そして人々が結婚や家庭生活に関して不安感をいだくようになっているのを見る。第二に、英国の都市生活を取り上げて、都市とその周辺部との間に生活機会の不平等問題が起こっていたり、あるいは都市の機能が、物質文明の中心地としてよりもサービス文化のメッカに変貌しつつある様子をさぐる。第三に、現代の英国の教育制度を取り上げて、社会や文化を再生産する場である学校が、職業教育の場あるいはエリート選別の場になっている点を見る。最後に、階級社会といわれる英国の社会構造を取り上げて、英国人の生活の多様性を見る。		
使用教材	テキスト	プリントを配布する。	
	参考文献	適宜指示する。	
評価方法	前・後期の終りに求めるレポートにて評価する。		
受講者に対する要望など	講義に出席し、そこで要点を把握すること。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日英の家族構造の比較 2. 同上 3. 英国における家族構造の階級差 4. 近年における家族の多様化 5. 田園地域の生活 6. 都市生活の新しい傾向 7. 同上 8. 教育制度 9. 教育と経済的生産との関係 10. 隠れたカリキュラム 11. 教育における不平等 12. 社会的および文化的再生産 13. 英国の階級社会の概観 14. 最近の職業構造 15. 階級構造の図解 16. 所得および資産の分布状況 17. 貧困の問題 18. 労働階級の姿 19. 同上 20. 新しい労働者は出現したか 21. 中間階級の多様性 22. サービス階級 23. 英国の上流階級 24. まとめ
----------------------------	---

科 目 名	共通演習	担当者名	城 田 俊
-------	------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>エッセーを読み、エッセーを書き、スピーチを行う。日本語習練の実践を具体的に行う。朗読が上手に行え、スピーチができるようになり、エッセーが書けるようになる、というのが終局的目的であるが、さしあたりは自分にその力があることを自覚することをめざしたい。</p>		
講 義 概 要	<p>担当者をあらかじめ定め、テキストを朗読し、全員が感想を述べ合う（内容のみならず担当者の朗読も含めて）。スピーチを行い、エッセーを書き、それを朗読し、全員が感想を述べ合う。テキストの語彙の解説も担当者が行う。昨年度の経験から、演習参加者の人数を20名程度に制限する予定である。高学年者を優先させる。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>『挨拶はむづかしい』丸谷 オー著（朝日文庫）朝日新聞社。 ただし、絶版のため必要部分をプリントして配布する。</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>前期・後期定期試験期間中に各一回行う。レポート、エッセー、学習研究態度を見て総合的に判定する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>参加者全員がエッセーを書き、スピーチを実際に行い、全員でそれを批評する。積極的参加が望まれる。シラバスに記したものと授業とでは多少前後することがある。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方の説明。テキスト「新郎は一種の天才で…」全員の感想発表。語彙の研究。役割の分担。発表の順序。 2. テキスト「君は最上の人生を生きた。」感想発表。語彙の研究。参加者の自己紹介。 3. テキスト「民謡の主人公のような一生」。感想発表。語彙の研究。参加者（１）のスピーチ。全員の批評。参加者（２）のエッセー。全員の批評。 4. テキスト「ジョイスづくして華燭の典」。感想発表。語彙の研究。参加者（２）のスピーチ。全員の批評。参加者（３）のエッセー。全員の批評。 5. テキスト「文学者としての荒畑寒村」。感想発表。語彙の研究。参加者（３）のスピーチ。全員の批評。参加者（４）のエッセー。全員の批評。 6. テキスト「息子の『尊敬する人物』」。感想発表。語彙研究。参加者（４）のスピーチ。全員の批評。参加者（５）のエッセー。全員の批評。 7. テキスト「エム先生の大きい恩恵」。感想発表。語彙の研究。参加者（５）のスピーチ。全員の批評。参加者（６）のエッセー。全員の批評。 8. テキスト「万葉集も祝ふ婚礼」。感想発表。語彙の研究。参加者（６）のスピーチ。全員の批評。参加者（７）のエッセー。全員の批評。 9. テキスト「恐しい人柄」。感想発表。語彙の研究。参加者（７）のスピーチ。全員の批評。参加者（８）のエッセー。全員の批評。 10. テキスト「結婚とは二人で思ひでを作る作業」。感想発表。語彙の研究。参加者（８）のスピーチ。全員の批評。参加者（９）のエッセー。全員の批評。 11. テキスト「義理のある文学者」。感想発表。語彙の研究。参加者（９）のスピーチ。全員の批評。参加者（１０）のエッセー。全員の批評。 12. テキスト「愛誦される詩人の幸福」。感想発表。前期まとめ。前期試験の概要説明。 13. テキスト「日本型プロ野球を書く」。感想発表。語彙の研究。参加者（１０）のスピーチ。全員の批評。参加者（１１）のエッセー。全員の批評。 14. テキスト「新しい価値の教師」。感想発表。語彙の研究。参加者（１１）のスピーチ。全員の批評。参加者（１２）のエッセー。全員の批評。 15. テキスト「芭蕉から『知床旅情』まで」。感想発表。語彙の研究。参加者（１２）のスピーチ。全員の批評。参加者（１３）のエッセー。全員の批評。 16. テキスト「牛肉と洋書と漢籍」。感想発表。語彙の研究。参加者（１３）のスピーチ。全員の批評。参加者（１４）のエッセー。全員の批評。 17. テキスト「空を飛ぶ菓罐」。感想発表。語彙の研究。参加者（１４）のスピーチ。全員の批評。参加者（１５）のエッセー。全員の批評。 18. テキスト「色事に向けた顔」。感想発表。語彙の研究。参加者（１５）のスピーチ。全員の批評。参加者（１６）のエッセー。全員の批評。 19. テキスト「月光浴の楽しみ」。感想発表。語彙の研究。参加者（１６）のスピーチ。全員の批評。参加者（１７）のエッセー。全員の批評。 20. テキスト「十九の年からの先生」。感想発表。語彙の研究。参加者（１７）のスピーチ。全員の批評。参加者（１８）のエッセー。全員の批評。 21. テキスト「スターとは何か」。感想発表。語彙の研究。参加者（１８）のスピーチ。全員の批評。参加者（１９）のエッセー。全員の批評。 22. テキスト「葡萄酒に当り年があるように」。感想発表。語彙の研究。参加者（１９）のスピーチ。全員の批評。参加者（２０）のエッセー。全員の批評。 23. テキスト「ジャーナリズムの文体を変へた男」。感想発表。語彙の研究。参加者（２０）のスピーチ。全員の批評。参加者（１）のエッセー。全員の批評。 24. テキスト「(対談)日本人の挨拶」。感想発表。後期まとめ。全体のまとめ。後期試験の概要説明。
----------------------------	---

科 目 名	共 通 演 習	担当者名	高 橋 正 男
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>「遠藤周作を読む」</p> <p>イエスの生涯に関する伝承は同時代の他の人物に較べて比較的正確であるといわれるが、イエスの誕生に関する記録は今日われわれの用いる意味での科学的検討に耐え得るものではない。</p> <p>本年は遠藤周作（1923 - 96）の作品を精読し乍ら「史的イエス像」を探究する。『イエスの生涯』から読みはじめる。必要に応じて英語版を併読する。併せて学習作法を懇切に伝授する。</p>		
講 義 概 要	<p>『イエスの生涯』（1973年）は月刊『波』に「聖書物語」として連載した作品を加筆・補訂して上梓した労作である（国際ダグ・ハマースホルド賞受賞）。『死海のほとり』と表裏一体をなす。本書には著者の理解するユダヤ人イエスの生涯の一端が描かれていて、キリスト教に無縁な読者にも実感をもって理解できるように工夫されている。著者は一貫して日本の精神風土とキリスト教の問題を追求してきた。「遠藤氏が示したイエス像こそが、長い歲月かかって自分の身体に合うように氏が仕立てあげた和服に他ならない。」（井上洋治）</p> <p>講義概要は年間授業計画表を参照されたい。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> ・遠藤周作著『イエスの生涯』（新潮文庫） ・塚本虎二訳『新約聖書 福音書』（岩波文庫） 	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・森禮子著『イエス』講談社，1988年（必読書） ・加賀乙彦著『聖書の大地』日本放送出版協会，1999年（必読書） ・G = ベシエール著 小河陽監訳『イエスの生涯』（「知の再発見」双書44）創元社 ・他その都度紹介する。 	
評 価 方 法	平常点による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	毎週休まずに積極的に参加できるよう生活設計をたてることを強く希望する。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福音書概観(1) 2. 福音書概観(2) 3. イエス時代のユダヤ教諸党派 4. 以下『イエスの生涯』を読む。 <ol style="list-style-type: none"> 第1章 ナザレの日々を捨てて 5. 第2章 死海のほとり 6. 第3章 危険なる初期時代 7. 第4章 ガリラヤの春 8. VIDEO 9. 第5章 スパイたち 10. 第6章 人の子には枕するところもない 11. 第7章 無力なるイエス 12. 前期まとめ・VIDEO 13. イエス時代のエルサレム(1) 14. イエス時代のエルサレム(2) 15. VIDEO 16. 第8章 ユダ、哀しき男 17. 第9章 エルサレムよ、エルサレムよ 18. 第10章 逮捕の夜 19. 第11章 裁く人たち 20. 第12章 主よ、み手に委ねたてまつる 21. 第13章 謎 22. イエス伝研究史(1) 23. イエス伝研究史(2) 24. 後期まとめ・VIDEO
----------------------------	---

科 目 名	共通演習 (Die vergleichende Forschung über die Ski-Instruktion von Österreich und Japan)	担当者名	松 原 裕
-------	--	------	-------

講 義 の 目 標	<p>前期は、オーストリアと日本のアルペンスキー指導法を比較し、オーストリアと日本のスポーツ文化について考える。</p> <p>後期は、インラインスケートを利用したスキートレーニングについて、学内で実践し、希望者はスキーを体験学習する。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は、オーストリアのスキー教師養成コースのうち、SCHILEHRER-ANWÄRTER KURSE の資料を中心に、オーストリア・チロル州インスブルック周辺のスポーツ文化についても紹介しながら講義する。</p> <p>後期は、インラインスケートを使用して、基本的な滑走技術、バランス感覚、ストックワーク、回転のメカニズムを紹介する。また、希望者は実際にスキーに行ってオーストリアの指導を紹介する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	そのつど紹介する。	
	参考文献	そのつど紹介する。	
評 価 方 法	毎時間の出欠席、受講態度、アルペンスキーに対する理解度などを総合して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	スキーへの関心、研究心、公正な態度、コミュニケーション		

年 間 授 業 計 画	1 .	オリエンテーションと個人票の作成（写真添付）
	2 .	Skilehrer-Anwärter Skripten（ドイツ語）
	3 .	”
	4 .	”
	5 .	”
	6 .	”
	7 .	”
	8 .	”
	9 .	”
	10 .	”
	11 .	”
	12 .	”
	13 .	インラインスケート サイズ合わせ
	14 .	” 基本滑走
	15 .	” 基本滑走 + ストップ
	16 .	” スラローム滑走
	17 .	” 回転弧のリズム変化
	18 .	” ショートターン
	19 .	” スtockワーク
	20 .	” フォーメーション滑走
	21 .	” 総合滑走
	22 .	” 初心者指導法
	23 .	” ”
	24 .	” ”